総社る

SOCIAL

2022.3

10周年記念号

近畿大学総合社会学部紀要
Kindai Applied Sociology Review

10周年記念号に寄せて

学部長　鈴木伸太郎

総合社会学部は2020年に10周年を迎えました．私たちの学部は，新しい発想から，今まで「ありそうだがなかった」ような構成となっています．初期のキャッチフレーズに「ほんとうの社会が見えてくる」とあるように，まずは社会学的な視点で社会を大きく俯瞰するようなものの見方を養う．その際に，社会を形成している人間の心についての洞察力は欠かすことができません．同様に人間の毎日の暮らしが営まれる環境について知らなければなりません．さらに，現代の社会環境で重要性を増している情報とメディアについての理解，グローバル化の進む社会における複数言語を使いこなす能力も必要となるでしょう．

このような考え方のもとに，総合社会学部の3つの専攻と，教養基礎部門の体制ができあがり，それぞれにふさわしい，そして全体としては多様な専門分野の教員が集まっております．もちろん，これだけで十分ということではなく，「ほんとうの社会が見えてくる」ためには社会のルールである法律をはじめ，政治，経済活動などの理解も必要ですし，歴史や思想について知り考えることや，芸術や自然科学の分野についての理解や，テクノロジーについての理解と使いこなすスキルなども必要とされるでしょう．それは近畿大学という総合大学の中に置かれた学部ですから，学部固有の学びを超えて，学生は多方面の学びに手を伸ばすことが可能です．

総合社会学部は，従来の大学の学部の区分けを大胆に乗り越えた発想で構想され，総合大学を目指して発展してきた近畿大学という大学のDNAとも言える総合的・包括的な知性を養うべく誕生した，ある意味で最も近畿大学的な学部なのです．

学部誕生以来，教育と研究の10年あまりの試行錯誤の中で，私たちは，考え方の違いから困難に見舞われたこともありますが，それでも互いの得意なこと・強みをリスペクトして，新たな気づきにつなげることを少しずつ学んできました．柔軟な発想と幅広い興味関心を持った卒業生も多数送り出してきました．今後はますます多様な分野の知識のシナジー効果を高めるべく努力して行きたいと考えております．今回の記念号がその一里塚となることを願っております．

Kindai Applied Sociology Review

総合社会学部紀要 10 周年記念号

2022

目　　次

10 周年記念号に寄せて……鈴木伸太郎……i

総合社会学部設置の経緯……久　隆浩……1

総合社会学部　年表……11

歴代学部長が語る当時

学ぶ喜び 出会う喜び 語る喜び　総合社会学部が掲げた 3 つの目標……初代学部長　荒巻　裕……15

学部長が語る当時……第 2 代学部長　清島秀樹……16

店潰しの 3 代目……第 3 代学部長　横山隆晴……17

3 つのポリシーの変遷

学部および各専攻の 3 つのポリシーの変遷……久　隆浩……19

社会・マスメディア系専攻の 3 つのポリシーの変遷

　―実践的な力の養成を目指して―……杉浦　徹……23

心理系専攻の 3 つのポリシー　―入学者受入・教育課程編成・学位授与の方針―……漆原宏次……26

環境・まちづくり系専攻の 3 つのポリシー

　（Admission, Curriculum, Diploma）の変遷……藤田　香……28

入学者数・出願数からみる総合社会学部の 10 年……入試対策委員会　堀田美保……31

各専攻および語学教育のカリキュラムの変遷

社会・マスメディア系専攻……二木一夫……33

心理系専攻　カリキュラムの変遷……漆原宏次……37

環境・まちづくり系専攻のカリキュラムの変遷

　……環境・まちづくり系専攻 教務委員　内海秀樹，田中晃代，石原　肇……41

語学教育のカリキュラムの変遷……西村香奈絵……45

英語プレゼンテーションコンテスト

　―発信型スキル学習充実化の取り組み―……教養・基礎教育部門　下　絵津子……47

総合社会学部の演習（ゼミ）―担当教員と活動内容―

金井啓子ゼミ……49
鈴木伸太郎ゼミ……50
二木一夫ゼミ……51
山本良二ゼミ……52
岡本　健ゼミ……53
鈴木光祐ゼミ……54
西尾雄志ゼミ……55
漆原宏次ゼミ……56
堀田美保ゼミ……57
遠藤信貴ゼミ……59
奥野洋子ゼミ……60
塩﨑麻里子ゼミ……61
中川知宏ゼミ……62
石原　肇ゼミ……64
久　隆浩ゼミ……65
飯塚公藤ゼミ……66
津島　光ゼミ……67
内海秀樹ゼミ……68
保本正芳ゼミ……70
下　絵津子ゼミ……71
デラ　リチャードゼミ……72
松田紀子ゼミ……73
西口善則ゼミ……74
平松　燈ゼミ……75
杉浦　徹ゼミ……49
辻　竜平ゼミ……50
松本行真ゼミ……52
安達智史ゼミ……53
齋藤曉子ゼミ……54
ソフィア リカフィカ パトリックゼミ……55
岡野英之ゼミ……56
小泉隆平ゼミ……57
本岡寛子ゼミ……58
大対香奈子ゼミ……59
佐藤　望ゼミ……60
直井愛里ゼミ……62
上野将敬ゼミ……63
田中晃代ゼミ……64
藤田　香ゼミ……65
今西亜友美ゼミ……67
中田真木子ゼミ……68
大野司郎ゼミ……69
石井隆之ゼミ……70
好並　晶ゼミ内容紹介……71
西村香奈絵ゼミ……72
奥田祥子ゼミ……73
安田直史ゼミ……74

学生たちの活動

学生主体の活動団体の概要……大野司郎……77
学生の受賞歴……81

総合社会学部 就職・進路状況……インターンシップ・キャリア支援委員会　本岡寛子……83

卒業時の学生の満足度等の変化―卒業生アンケートの分析―……辻　竜平……87

卒業生からの寄稿

好奇心を未来の力に……多里まりな……91
自分の「興味」に出会えた学部……森田奈々子……91
自由で，こだわりのある学び舎―総合社会学部の思い出―……乾　彩絵……92
総合社会学部での多様な学び……榊原愛里（旧姓　中村）……93
記念誌発刊に寄せて……胡　嘉原……93
今の自分につながる時間……塚本恵梨……94
心理学を通じて身につけた基礎力と応用力……西村友佳……95
自分の思いを伝えること……楠　麻依子……95
総合社会学部卒業生による座談会……96

FD 活動としての専攻横断談話会―近畿大学総合社会学部の取り組み―..... FD 委員長　石井隆之.....98

科研費等の外部資金獲得状況.....99

総合社会学部の専任教員―研究・社会貢献活動―

金井啓子（ジャーナリズム論）.....103
鈴木伸太郎.....104
二木一夫（現代新聞論）.....105
山本良二（広告コミュニケーション）.....106
岡本　健.....107
鈴木光祐.....108
西尾雄志.....110
漆原宏次（学習心理学・アニマルセラピー）.....111
堀田美保（社会心理学）.....112
遠藤信貴（認知心理学）.....113
奥野洋子（臨床心理学）.....114
塩﨑麻里子（サイコオンコロジー）.....115
中川知宏（犯罪心理学）.....116
石原　肇（地域政策）.....117
久　隆浩（都市計画・環境デザイン）.....118
飯塚公藤（地理学・GIS）.....119
津島　光（環境建築論）.....120
内海秀樹（資源利用評価）.....121
保本正芳（環境情報学）.....122
下　絵津子（言語教育）.....123
須賀井義教（韓国語学・韓国語教育）.....124
デラ　リチャード（比較国際教育 日本史）.....125
松田紀子（応用言語学）.....126
杉浦　徹（放送論）.....103
辻　竜平（数理・計量社会学，社会ネットワーク分析）.....104
松本行真.....106
安達智史.....107
齋藤曉子（ケアの社会学）.....108
パトリック ソフィア リカフィカ（地球惑星科学）.....109
岡野英之（文化人類学／武力紛争・政治研究）.....110
小泉隆平（臨床心理学・人間性心理学・教育領域）.....111
本岡寛子（臨床心理学・認知行動療法）.....112
大対香奈子（応用行動分析学）.....113
佐藤　望（人間工学・産業心理学）.....114
直井愛里（スポーツ心理学）.....115
上野将敬（比較行動学）.....116
田中晃代（都市計画・まちづくり）.....117
藤田　香（財政学，環境経済学，地方財政論）.....118
今西亜友美（地域生態学）.....119
中田真木子（大気環境解析）.....120
大野司郎（地盤環境学）.....121
石井隆之（束ね理論と重なり志向）.....122
好並　晶（中国映画研究・中国語教育）.....123
大喜祐太（ドイツ語学）.....124
西村香奈絵（言語学・英語学）.....126

総合社会学部の将来構想

将来構想検討会議　―学部開設後はじめて議論された教育と研究環境の未来図―..... 大野司郎.....129
学部長期ビジョンの策定までの歩み..... 塩﨑麻里子・今西亜友美.....132

総合社会学部 10 周年記念シンポジウム
　―私たちのこれまで，そして，未来へ―..... 10 周年記念事業委員会.....135

教員からの寄稿

教育の機会を削がないために―第二外国語雑感―..... 教養・基礎教育部門 主任　好並　晶.....141
環境まちづくり系専攻と他大学との違い..... 環境・まちづくり系専攻　石原　肇.....143
改訂カリキュラムに向けての専攻 FD の意義と役割..... 環境・まちづくり系専攻　田中晃代.....145
専攻の次の 10 年について
　―初期の担当科目と委員活動を振り返って―..... 環境・まちづくり系専攻　内海秀樹.....148

編集後記.....150

総合社会学部設置の経緯

久　隆浩

1．はじめに

学部設置10周年を迎え，設置準備段階から携わってきた教職員の方々は異動ないし退職され，学部に残っているのは私と西川清一事務長の二人となった．10周年という節目を迎え，文部科学省に届け出た学部設置届出のための書類の記載内容の記録と私の記憶とを重ね合わせつつ，学部設置までの経緯や学部設置に込めた思いを共有できればと思う．設置趣旨の原案を作成した立場にあった私のこの文章が，節目節目に学部を振り返る際の記録として役立つことになればと思っている．

2．学部設置準備のスタート

私に学部設置準備の声がかかったのは，2008年5月のことである．当時理工学部事務長であった山中博之氏から個人的な相談として学部設置の話を伺った．山中氏と狩谷和志氏が私の研究室を訪れ，社会学系の学部新設について話をされた．1993年の生物理工学部設置以来の学部新設になること，医学部や文芸学部が世耕政隆先生の思いで新設されたように今までの学部設置は理事長の思いであったのに対し，今回は学園事務職員ワーキングの構想による学部新設であるので文理両面に理解のある私の意見が欲しいとのことであった．近畿大学の既設学部をみると，理系学部が多く次は文系学部の設置を検討しており，ターゲットにしているのは社会学系の学部であるとの話であった．また，環境分野を入れることを一つのウリにしたいということであった．話をお伺いし，数日後私なりの構想案（参考資料1）を作成しお渡しした．今から振り返るとこれが学部設置の趣旨の原型となっている．自らの専門分野である都市計画，まちづくりで大きな方向転換がなされていることに気づいた私は，これが大きな時代の転換期のなかに位置付いていると思い，すでに私なりに転換の方向性について考えていたので，それを基礎に自分なりの思いをしたためたものである．当初は設置準備に関わることは必ずしも移籍には結び付かないということであったが，結局は移籍をすることになった．

2008年7月に「社会学部（仮称）第一次教育内容検討チーム」が発足し，これが正式の学部設置準備のスタートとなった．チーム代表は荒巻裕先生，副代表は清島秀樹先生であった．検討は，社会系，マスコミ系，心理系，環境系，英語等語学教育，新教養教育の6領域に分かれてなされ，領域チーフとして，社会系は清島先生，マスコミ系は荒巻先生，心理系は岸本陽一先生，環境系は私，英語等語学教育は石井隆之先生，新教養教育は増田大三先生が任命された．現在の専攻の呼称が「〇〇系専攻」となっているのは，この検討チームで領域名として使われていた「〇〇系」が原型となったものである．当初の検討はこのチームで行ったが，詰めの検討は，チーム代表の荒巻先生，領域チーフである清島先生，岸本先生，石井先生，私と設置準備室の保本洋参与，木地平浩次事務長，西川清一係長を中心とした設置準備室メンバーで行っていった．

3．学部設置内容の検討

(1) 学際的学部としての検討

社会学系の学部設置であるので，文芸学部文化学科が基盤となっている．すでに社会学，心理学，マスコミ分野の教員が所属しており，その先生方が移籍することで基盤を形成することになる．環境系は私をはじめ理工学部からの移籍教員によって基盤を作っていった．学生定員については，理工学部から80名，文芸学部から40名，生物理工学部から30名，工学部から

50名，産業理工学部から40名，合計240名の定員移行を行い，純増を210名として，計450名の定員とした．

文部科学省に設置を認めてもらう方法には「認可」と「届出」があるが，認可の場合には「教員個人調書」の審査が入り2年を要することもあって，届出での設置の道を選ぶことになった．しかし，届出を認めてもらうためには文科省の条件をクリアする必要があった．まず第一には，教員数の半数以上が移籍教員でなければならない．そのため，文芸学部，理工学部，経済学部，生物理工学部，語学教育部，健康スポーツ教育センター，教職教育部，理工学総合研究所，臨床心理センター，国際人文科学研究所から29名の教員の移籍によって構成した．これが人数あわせの移籍であってはならず，そこに理屈をつくっていく必要がある．それが，文理融合の学際的な学部であるということである．複雑に絡み合う社会問題群に総合的に取り組むための学部であることを柱とした由縁がここにある．しかし，これは移籍教員をまとめるための口実ではなく，当初から学部がめざすものであった．1学部1学科体制にしているのも，横断型の教育を行うためのものである．

文科省との事前相談の際に，「近畿大学には社会学部がなかったですね．従来型の社会学部の設置であれば，これは認可になります」との話があった．それを乗りこえるためにも，すでに各学部に在籍する教員の叡智を結集し，未来志向の社会学部をめざすというシナリオ構築を行った．そして「社会学部」という名称では認可になるため，総合的に社会問題に対応するという意味を込めて「総合社会学部」に名称を決定した．他の名称の検討も行ってはいたが，第一次検討チームのメンバーでもあった入学センター屋木達信氏からの「一見かっこよさそうなカタカナ学部は学生や保護者に内容が伝わらない．シンプルに社会学部のほうがいい」という助言もあって「総合社会学部」に落ち着いた．

なお，当初，社会系，マスコミ系，心理系，環境系でスタートした領域であるが，届出に持って行くためには移籍教員が半数以上で構成されなければならないこと，万が一認可となった場合には教員の資格審査が入ること等を勘案し，社会系とマスコミ系を統合し，社会・マスメディア系専攻とすることが荒巻先生から示された．荒巻先生の構想では「マスコミ系」は開設3年目の平成24年度に「マスコミまたはマスメディア系専攻」として新設する2段階方式で進める」となっていた．

(2) 複合学部としてカリキュラム検討

「複合学部」としての総合社会学部を認めてもらうために，その後も文科省との事前相談を行っていった．その際に付いた条件として「学部共通で3専攻共通で履修するコア科目を設定する必要がある」こと，「学部として，入学してくる学生をどういう人材に育てるのか，カリキュラムを通じて明確に訴える必要がある」こと，があった．

文科省の指摘は「カリキュラムは専攻別に確立されていると思うが，現状の教育課程を見ると単に3専攻が同居しているに過ぎないと見られる」「学部基礎科目にある教養科目でなく，科目数は多くなくても良いが，横断科目を専門科目専攻に配置する」「他専攻履修は「学生が履修できる科目」と言うだけで「必ず履修する科目」とは限らない」というものであった．そこで，専門科目として専攻横断的に履修する「総合社会学演習」を必修科目として設置し，また「学部コア科目」を設け一定単位数以上の履修を義務づけることにした．

カリキュラムと養成する人材のイメージについては「今までの社会学部でなく，異なった3専攻を持つ新しい社会学部として，共通的に学ぶ事項（専門基礎科目）と専攻で学ぶ事項（各専攻の専門科目）を明確にする」こと，「総合社会学部として求める人材と，各専攻として輩出する人材像を明確にする」ことを指摘された．そこで「求める人材として，「総合社会学部」という「複合学部」の中にある専攻を強く意識し，他の社会学部との違いを明確にする」こととした．具体的には「学部・学科・専攻の

特色と求める人材，輩出する人材像を文章化する」こと，「入り口は「総合社会学部」を強く意識し，出口は専門分野を中心にするも他の社会学部と異なる「総合社会学部」卒業者の優位性をアピールできるものとする」こととした．さらに「他専攻科目の履修は複合学部の特性を活かし，かつ，履修の目的を明確にする」こととし，「他専攻開放科目は無制限に広げるのではなく，「複合学部」の特性を活かして自ら学ぶ専門分野に幅を持たせるための科目に絞る」こと，「履修させることが具体的にどのような効果があるか明確に実証した履修モデルを作成する」こととした．履修モデルについては「必修科目を多く設定すると進級，卒業等が困難な学生が多くなる恐れがあるので必修科目を多くすることは運営上好ましくないが，履修を学生の選択だけに任せるのではなく各専攻で学ぶ目的を明確にするためにも複数の履修モデルを作成する」こととした．

(3) 定員の考え方

定員の考え方については，文系学部の課題であったマスプロ教育の解消に向けて，少人数指導ができるように工夫を行った．とくに，理系の要素の強い心理系専攻，環境系専攻については，とくに少人数指導ができるように努めた．学生定員 450 名に対し，教員数が 45 名であるので，単純計算すると教員 1 人あたり 10 名の学生となる．そこで，所属する教員数によって，心理系専攻，環境系専攻の定員を各 120 名とした．社会マスメディア系専攻は教養・基礎教育部門の教員を含み 21 名の教員が所属しており，そのため 210 名の定員とした．設置準備の際には，教養・基礎教育部門の先生方にも卒業論文指導をお願いしたいと考えていたが，担当授業コマ数が多いこともあって実際には他の教員並みの学生数の論文指導をお願いできないことになった．

教室の設計でも，マスプロ教育を前提としない教室配置とした．このことが，新型コロナウイルスの感染拡大によって本来の収容人数が入れない事態になったときに，教室の割り振りをむずかしくしてしまったが，当初の設計意図を共有させて頂くために，ここに記しておく．また，「基礎ゼミ」や「総合社会学演習」では全教員が一斉に授業を行うため，研究室でゼミや演習が実施できるように学生 15 名が入ることができる研究室にした．おそらく研究室の広さは従来の文系教員室よりも広くなっていると思う．しかし，学生が教員と同じ研究室で研究するスタイルの理工学部から移籍した私にとっては，理工学部にくらべて狭小な研究室になっている．その点を補うために，7 階に学部生の共同研究室を設置したものである．

4．おわりに

ガタリは『3 つのエコロジー』の中で，近代がもたらしたさまざまな課題を克服していくためには，精神的エコロジー，社会的エコロジー，環境エコロジーという 3 つのエコロジーを統合する「エコゾフィー」が必要であると述べている．人間的な側面，社会的な側面，環境的な側面から社会問題にアプローチし，それを統合しようとする総合社会学部の思想と合致した考え方である．

17 年ぶりの学部新設となった総合社会学部は，アメリカの人気キャラクターであるブライスを学部のキャラクターに登用する等当時の広報課長の世耕石弘氏の多大なる尽力もあって，初年度から 1 万人を超す受験生を集めた．その後も受験者数は 1 万人を割ることなく，人気は続いている．さまざまな分野を学ぶことができる学部構成が，目的指向が希薄になった受験生の思いと合致しているのではないかと考えられる．総合社会学部の人気を受けて，その後関西の他大学にも社会学系の学部が相次いで設置されるようになった．また，大阪府立大学に新設された現代システム科学域の環境システム学類は，環境共生科学課程，社会共生科学課程，人間環境科学課程と 3 つの課程で構成されているが，これは総合社会学部の環境系専攻，社会マスメディア系専攻，心理系専攻に対応しており，私たちの学部をモデルとして構成されたものである．

13年前から学部設置に関わってきた私であるが，次の10年を見据えた「学部将来ビジョン」策定にも関わることができた．そこでは「多様化・複雑化する社会問題に総合力で対応し，持続可能な社会づくりをめざします」「社会に向けて発信しつづける学部であり続けます」「ビジョンを共有し，協働で学部を運営します」「多様性を大切にした学部運営を行います」の4つのビジョンを掲げている．13年経った今でも，設置準備のときと同じ内容のビジョンが掲げられるのは，それだけ時代を先導してきた学部の証と言えるだろう．多様性で言えば，複数の学部から教員が移籍してきたから出てくるエピソードがある．会議の中で「そんなの常識だ」「今まではそうしてきた」という発言が何度かあったが，違う学部から移籍してきた私からみれば「理工学部では違っていた」と思ったことがあった．また前任校の大阪大学では，またやり方が違った．そうした違いがあるからこそ複合学部の面白さがあると思うし，そうした多様性を認め合いながら学部運営を行っていくことが21世紀の社会としても求められることだと思う．

また「ビジョンを共有し，協働で学部を運営します」も21世紀の組織マネジメントでは重要な点である．全教員会議という会議をつくったこと，学部長選挙の際にも全教員が投票できるしくみを取り入れたことは，その具体策である．前の職場で助手という立場が長かった私は，肩書きを超えた組織マネジメントができないかとずっと思ってきた．垂直型のガバメントから水平型のガバナンスへのマネジメントの変化が求められる時代だからこそ，メンバーが協働で組織運営に取り組むしくみが求められる．その輪は当然職員にも広がっていき，すべての教職員が協働で学部運営に取り組んでいくことで未来志向の学部運営が行われるはずである．

以上，学部設置に関わった私の回顧録的文章を書き記してきた．当然，時代は変わり，考え方は変化していくものと思う．しかし，設置当初にはこうした思いがあったということを知って頂くことで，今後の学部運営の一助になれば幸いである．

（参考資料1）

近畿大学　（仮称）社会デザイン学部構想について

1．学部設置の目的・特長

- 20世紀から21世紀へ，社会は大きな転換期を迎えている．しかし，社会はまだまだ旧来型のシステムが主流であり，その弊害がいたるところで生じている．そこで，来るべき新たな社会の状況を認識し，新たな社会にふさわしいシステムを構築できる人材養成が必要である．
- 地球環境問題，犯罪や災害の多発，食糧問題，エネルギー問題，格差社会，等々，さまざまな課題は，近代社会の矛盾という共通点から生じているものであり，個別対応では間に合わない状況となっている．そこで，こうした問題に総合的に対処するためにも，社会の基本的パラダイムを転換できる視点をもった人材が不可欠である．そのため，環境学部や防災学部等個別の課題に対処するものではなく，社会を総合的にデザインするための学部を設置するものである．
- 社会を総合的に捉えるためには，従来の文系・理系の枠を超えるいわゆる文理融合型の学部が求められる．総合大学である近畿大学が社会系学部を設置する特長がここに見いだせる．とくに，日本社会の特長である「ものづくり」を基盤とした社会形成を考えるためには，東大阪モノづくり専攻を生み出した理工学部の特長を生かしながらの学部構想が有効である．

- 学生のキャリア・デザインを考えるとき，団塊の世代の大量退職を埋めるために，現在は教員養成が社会的に養成されている．総合大学としての近畿大学としても，現在，教員養成系学部，とくに初等教育を担う教員の養成の点が弱く，この分野を補強していくことが求められる．その際にも，将来のモノづくりを担う人材を育成するために，理系分野に強い小学校教員の養成が必要であり，かつ，これによって総合大学として近畿大学の特長を出すことができる．

2．学部で学ぶ内容について

- 社会組織は，近代の典型である官僚制組織からネットワーク組織へと転換を迫られている．ネットワーク組織では「場」や「共創」がキーワードとなる．こうしたネットワーク組織のあり方について考えていく．
- 21 世紀は協働の時代であり，行政だけでなくNPO・NGO・ボランティア組織などの市民組織を含めたさまざまな主体が公を担う「新たな公」のあり方について考える．
- グローバル化に対抗するためには，地域コミュニティや共助システムが大切である．そこで，コミュニティデザインやまちづくり，共助社会に焦点をあて考察を加える．
- 制度によって社会秩序を形成してきた近代に替って，ポスト近代社会では対話やコミュニケーションによって社会の秩序を形成する時代となる．そこで，コミュニケーションのあり方や合意形成技術等のコミュニケーション・デザインについて学習する．
- 近代になって科学技術はたしかに進化したが，その進化に社会が追随できていない．たとえば，生命倫理や環境倫理，技術倫理など，倫理面で社会が科学技術をどのように捉えるのか，社会と科学技術の関係性について考察を加える必要がある．

Keywords:
ネットワーク組織論，支援学，協働社会論
コミュニティデザイン，コミュニケーション，合意学
危機管理学，防災・減災論
科学技術と倫理

（参考資料 2）

文部科学省届出：設置の趣旨等を記載した書類（抜粋）

ア　設置の趣旨及び必要性

(a) 教育研究上の理念，目的

本学は大正 14 年（1925 年）の創立以来，『未来志向の実学と人格の陶冶』を建学の精神として掲げ，理系・文系計 11 学部と法科大学院を擁する総合大学として発展してきました．先人達の歩みと成果を学び，今を見据えて未来をひらくという建学の精神は，歴史的な転換期にあると言われる 21 世紀においても教育の真髄であるとの認識を新たにし，第 12 番目の学部として，現代社会が直面する複雑な問題群を総合的に理解し，それらに対処し，社会を総合的にデザインするための『総合社会学部』の開設を計画しました．

（研究対象とする学問分野）21 世紀の課題は，『グローバル化』と『新ネット社会の登場』,『格差社会の世界的な拡大』,『自然環境の異変』に象徴されます．20 世紀末のソ連の崩壊後，世界の一体化が強まり，コンピュータ・ネットの急速な普及は人類社会を劇的に変化させつつあります．『新ネット社会』の到来は，国と世界の政治・経済構造や，家族や社会における人間の関係と行動に，かつての産業革命に匹敵する変化をもたらしつつあると言って過言ではありません．しかし，その一方で，国内外を問わず

さまざまな形で格差社会が拡大し，戦争と民族紛争等もあとを絶ちません．加えて地球温暖化をはじめとする自然環境の悪化が進んでいます．

こうした現代社会が直面する複雑な問題群は，近代社会の矛盾という共通点から生じています．それだけに，一つの学問分野から個別に研究するのではなく，ミクロな視点（心理）からマクロな視点（環境）まで，多様な学問分野の研究を結集し，多様な見方を総合化していくことで初めてその本質が見えてきます．そこで本学部では，多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し，多様な見方を総合化していくために，人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで，視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究により，複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組むこととしました．

幸い本学には，文芸学部文化学科に心理・社会コースと同学部英語多文化コミュニケーション学科に国際協力・マスメディア分野を，また理工学部には社会環境工学科をすでに開設して上記の学問分野を研究してきており，現代社会が直面する複雑な問題に総合的かつ包括的に取り組める基盤を備えています．また，それぞれの分野を研究対象とする教員も多くの学部に擁しています．そうした既存の学部の研究成果や人材を複合的に結集し，社会貢献できる大学教育の新たな学びの場として『総合社会学部』の開設を計画しました．

（1学部1学科にする理由と連携）現代社会が直面する複雑な問題群に，総合的かつ包括的に取り組むためには，個別対応ではなく，従来の枠を超える学際的・分野横断的な学部・学科が求められます．

総合大学である近畿大学が総合社会学部総合社会学科を開設する意義がここに見いだせます．教育の側面からは視点の異なる学問分野の研究成果を持ち寄り，教員が一体となって学生を教育すること．研究の側面からは多岐にわたる専門性を持った研究者の調和を保ち問題解決に寄与しうる研究成果を社会に還元すること．こうした教育・研究両面からの社会貢献を強く目指して，本学部の組織は1学部1学科とすることとしました．

（専攻別に分ける理由）教育・研究の側面からは教員の連携を保つために，1学部1学科の組織に拘りましたが，学生のためには教育の柱となる領域を定め，系統性のある学習を保障する必要があります．学生が自分の興味がある科目のみを履修し，学部・学科の科目を自由に取得できるような教育課程では，広く浅い知識だけで問題の表層だけしか見ず，問題の本質を知るという力は育たないため，本学部の目指す多様な見方を総合化していく力は育ちません．

そこで本学部は，組織としては1学部1学科でありますが，学生により深く系統性のある学習を保障していくために，

①現代社会そのものの構造や動きを研究するための，社会学をベースとした『社会・マスメディア系専攻』，

②現代社会を構成する主体である，人間の心的活動や行動を探求するための，心理学をベースとした『心理系専攻』，

③現代社会を取り巻く環境と社会との関係を研究するための，環境学をベースとした『環境系専攻』

という3つの体系的な教育課程を専攻別に編成し，個別重点的，かつ分野横断的に教育することにより，多様な見方を総合化して問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます．

(b) 人材の養成

（学部としての人材養成）総合社会学部では，現代社会の諸課題をしっかりと見極めて，かつてないほどの転換期を生き抜く社会をつくる人材の養成にあたります．来るべき21世紀の社会は，情報社会・ネットワーク社会と呼ばれるものであり，それは先述のとおりインターネットに代表される情報通信技術の進展に大きく影響を受けて発展してきました．そこで，これか

らの社会を担う人材には，ネットワーク社会がどのようにもたらされ，どのような方向に向かっていくのかについて，的確に理解できることが求められます．次代を担う学生たちと共に解決策を探求し，希望とチャレンジ精神を持って生きていく未来志向の学生たちの教育を一層充実させます．

本学部では，現代社会が直面する複雑な問題群を理解することができ，ミクロな視点からマクロな視点，ローカルな視点からグローバルな視点まで，多様な見方を総合化していくことができることを教育の到達目標とし，複雑化する社会問題を総合的，実証的に捉え解決を図ることができる人材の養成を学部全体として目指していきます．

（各専攻の人材養成）前述の学部全体の人材養成を土台とし，専攻別に専門教育を体系的な教育課程により学習することで，既存の「社会学」という枠にとらわれない，以下に記すような幅広い進路を目指していくことが可能となります．

『社会・マスメディア系専攻』

本専攻では，『世界を見つめ，日本を見つめ，自分自身の生き方を探求する』ことをモットーとして，21 世紀社会の新たな問題点を研究することを目的とし，急激に発達するコンピュータ・ネット社会と，変容するグローバリゼーションとの相関的な分析や研究に焦点をあてます．また，21 世紀における新たなメディアの姿を追求することにより，新ネット社会を引っ張っていける人材，国際社会や新たなメディアの中で実際に活躍できる人材を養成します．たとえば，ジャーナリストとして働くことに関心が強い学生に対しては，新しいメディアについて詳しく知り，社会的な問題点を見抜く目を養い，取材結果を正確な表現力で報道できるような能力を身につけられるよう，指導していきます．また，公務や教育などの場で社会貢献を志していこうとする学生に対しては，物心両面からの多面的・多角的な思考法により社会問題が分析でき，その解決に寄与できる人材を育成していけるよう，指導していきます．具体的には，

公務員，中学校・高等学校教員，国内外の地域社会のオピニオンリーダー，NGO/NPO スタッフ，教育研究機関職員，新世代企業を創る者・その中で活躍できる者など，また，多種多様なマスコミ界（放送，新聞，出版，広告，広報部門，通信社，映画，音楽等）といった進路を目指します．

『心理系専攻』

高度情報化が進み，社会の流動性・不安定性が高まる社会で，人間を取り巻く文化的，社会的，心理的諸問題はますます複雑で多様化する傾向にあります．家庭や地域，学校などで生じるさまざまな心理学的諸問題を適切に理解・把握し，対処し，真に人間の生活の充実のために，文化的，社会的，心理学的諸問題を総合的科学的に理解し実践することが求められます．これらの問題に対処するために，心理学の研究成果を現実場面で応用・実践することが求められています．しかしながら，これらの応用・実践のためには着実な基礎的研究の蓄積に基づいた人間の心的活動や行動の理解が先ず必要です．本専攻では，人間（ひと）や動物の心的活動や行動について問題意識を持ち，それを実証的な方法で分析し考察する態度を学びます．さらにそれらの基礎の上に社会における様々な要請に応え，実践できる人材を養成することを目的とします．具体的には，

一般企業でのリサーチ，企画広告，人材開発・人事労務関係，医療，教育相談機関，福祉関係機関などでの心理職，カウンセラー，家庭裁判所の調査官などの司法，矯正機関などでの専門職，小・中・高校教員，大学院進学などを目指します．

『環境系専攻』

21 世紀は，環境に配慮した持続可能な社会づくりが重要な課題です．地球規模の環境・資源エネルギー問題は，主要国首脳会議の主要な

議題ともなっています．しかしながら，環境問題の解決は容易ではありません．それは，規模が地球規模であり国際的な協力体制が必要なこと，市民一人ひとりが被害者であると共に加害者でもあるといった構造の中で生活の質の転換を図ることが求められていることなど，グローバルな対応とローカルな対応が同時に求められるといった点にその原因の一つがあります．また，問題解決には，科学的な対応だけでなく，政策的な対応をはじめ社会科学的なアプローチが必要でもあります．本専攻では，統合化された学問を目指す環境学を視野に据え，環境と人間・社会との関係を総体的に眺め，文理融合型の解決アプローチを図れる人材を養成することを目的とします．具体的には，

環境問題に強い公務員，環境教育が担当できる中学校・高等学校教員，環境ビジネス企業，環境監査法人，民間企業の環境マネジメント部門や環境分析部門，都市計画コンサルタント，環境コンサルタント，建設コンサルタントの環境部門，不動産業，建設業，情報関連企業，環境NPO，まちづくりNPO，大学院進学といった進路を目指します．

イ　学部，学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月）の提言する，第2章の3にある「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を参照すれば，本学部は主要な機能7つのうち，特に「③幅広い職業人養成」・「⑦社会貢献機能」の2つの機能を重点的に担います．

「③幅広い職業人養成」については，総合社会学部の教育課程を専攻別に編成することにより，多様な専門性を持った人材養成を可能としています．そして上述したとおり専攻別に進路は多岐にわたり，一つの学問分野だけでは実現できない幅広い職業人を養成していくことができます．

「⑦社会貢献機能」については，『未来志向の実学と人格の陶冶』を建学の精神として掲げる本学が得意とする機能であり，研究成果の社会への還元を目指し，研究活動を基盤とする「産官学の連携・交流」推進のための中核的組織として，「近畿大学リエゾンセンター（KLC）」を設置しています．リエゾンセンターは「産官学」連携・交流の架け橋として，社会のニーズを取り入れて，開かれた大学としての活動を進めると同時に，産業界との交流により，建学の指針である「実学」を全学挙げて推し進めています．また，隣接する八尾市に立地する大型商業施設「Ario八尾」と，地域社会・文化の発展に貢献することを目的とした基本協定を締結し，大学と商業施設とのコラボレーションという新しい形での産学・地域連携を展開しています．さらに，平成21年1月からは，地元住民で組織された東大阪市立近江堂リージョンセンター運営委員会が呼びかけて設立した「まちづくり井戸端会議」に参画していますが，ここでの情報交換を契機として地域ニーズや地域住民からの支援依頼に応じたまちづくり活動を住民との協働により展開していく予定です．こうした社会貢献活動に関しては，特に環境系専攻所属予定の教員を核として，すでに東大阪市・八尾市をはじめとする多くの自治体における環境基本計画・都市計画等の計画策定支援や地域コミュニティの活性化支援を担ってきており，そうした実績を基盤として，社会貢献活動を学部全体に拡げていく予定です．また，文芸学部文化学科心理・社会コースの学生は，現在も東大阪市社会福祉事業団（療育ボランティア），東大阪市教育委員会（特別支援教育ボランティア），学校ボランティア（高大連携室管掌），大阪府東大阪子ども家庭センター（ハートフレンド）などのボランティア活動などを通して地域貢献を行っています．同時にこの活動は，学生のキャリアガイダンスとしての機能も有しており，卒業後の幅広い職業人養成にも大きな役割を果たしています．これらの活動は，本学部において発展的に継続されていく予定です．

ウ　学部，学科等の名称及び学位の名称

〔学部，学科等の名称〕

設置する学部・学科は，「総合社会学部

(Faculty of Applied Sociology)，総合社会学科(Department of Applied Sociology)」とします．

単なる「社会学」や「社会科学」ではなく「総合社会学」と称す理由は，『グローバル化』と『新ネット社会の登場』，『世界的な格差社会の拡大』，『自然環境の異変』といった21世紀の課題に総合的に対処するべく，既存の社会学・社会科学という学問分野の枠を超えた，学際的・分野横断的な本学部の特長を強く打ち出したいためです．この総合性・学際性により，社会を総合的にデザインし，多面的・多角的な視点から教育・研究を行うという本学部の志を明瞭に表現しています．また，広く国際的に通用性のある社会学としての「Sociology」でなく，「Applied Sociology」としたのは，社会学的な知識を実践的に活用していくという意味合いを強く出すためであり，「Applied Sociology」は英国の大学でも29もの機関で名称に冠しており，十分に国際性のある名称であります．

〔学位の名称〕

本学が授与する学位の名称は「学士（総合社会学)」とします．

（英：Bachelor of Applied Sociology)．

総合社会学部　年表

2010 年（平成 22 年）

総合社会学部開学（1 学部 1 学科 3 専攻）

＜総合社会学科＞

①社会・マスメディア系専攻（現代社会コース・マスメディアコース）

②心理系専攻

③環境系専攻（地球環境コース，都市まちづくりコース）

【役職者一覧（2010 年 4 月～ 2014 年 9 月）】

役　職	氏名・職位（所属）
学部長	荒巻　　裕 教授（社会・マスメディア系専攻）
学部長補佐	清島　秀樹 教授（社会・マスメディア系専攻）
学科長	清島　秀樹 教授（社会・マスメディア系専攻）
社会・マスメディア系専攻主任	清島　秀樹 教授（社会・マスメディア系専攻）
心理系専攻主任	岸本　陽一 教授（心理系専攻）
環境系専攻主任	久　　隆浩 教授（環境系専攻）
教養・基礎教育部門主任	石井　隆之 教授（教養・基礎教育部門）
総合社会学部事務長	木地平　浩次（総合社会学部事務部）

2012 年（平成 24 年）

【新規採用（2012.4）】

社会・マスメディア系専攻　大谷　武文 教授（客員教授から教授へ）

【移籍（2012.4）】

社会・マスメディア系専攻　秦　　辰也 教授（文芸学部から総合社会学部へ）

社会・マスメディア系専攻　金井　啓子 准教授（文芸学部から総合社会学部へ）

2013 年（平成 25 年）

【退職（2013.3）】

心理系専攻　加藤　豊比古 教授

【新規採用（2013.4）】

社会・マスメディア系専攻　横山　隆晴 教授（客員教授から教授へ）

2014 年（平成 26 年）

【退職（2014.3）】

社会・マスメディア系専攻　荒巻　　裕 教授

環境系専攻　田澤　新成 教授

環境系専攻　加治　増夫 教授

【新規採用（2014.4）】

心理系専攻　本岡　寛子 准教授

環境系専攻　今西　亜友美 准教授

環境系専攻　　山田　恵理 講師

【役職者一覧（2014 年 10 月～ 2016 年 9 月）】

役　職	氏名・職位（所属）
学部長	清島　秀樹 教授（社会・マスメディア系専攻）
学部長補佐	久　　隆浩 教授（環境系専攻）
学科長	久　　隆浩 教授（環境系専攻）
社会・マスメディア系専攻主任	田中　　実 教授（社会・マスメディア系専攻）
心理系専攻主任	中谷　勝哉 教授（心理系専攻）
環境系専攻主任	久　　隆浩 教授（環境系専攻）
教養・基礎教育部門主任	新田　香織 教授（教養・基礎教育部門）
総合社会学部事務長	田中　穂徳（総合社会学部事務部）

2015 年（平成 27 年）

◎環境系専攻から環境・まちづくり系専攻に名称変更（コース制を廃止）

◎カリキュラム改訂（2015 年度入学生から適用）

【退職（2015.3）】

社会・マスメディア系専攻　森川　展男 教授

【新規採用（2015.4）】

社会・マスメディア系専攻　安達　智史 講師

2016 年（平成 28 年）

【退職（2015.3）】

社会・マスメディア系専攻　堀田　泉 教授

社会・マスメディア系専攻　田中　実 教授

心理系専攻　　岸本　陽一 教授

【退職（2015.8）】

環境・まちづくり系専攻　　山田　恵理 講師

【移籍（2015.4）】

社会・マスメディア系専攻　秦　　辰也 教授（総合社会学部から国際学部へ）

社会・マスメディア系専攻　戸井田　克己 教授（総合社会学部から教職教育部へ）

教養・基礎教育部門　　ラミレズ　カルロス　准教授（総合社会学部から国際学部へ）

【新規採用（2015.4）】

社会・マスメディア系専攻　山本　良二 教授

社会・マスメディア系専攻　西尾　雄志 准教授

社会・マスメディア系専攻　菱山　宏輔 准教授

心理系専攻　　小泉　隆平 教授

教養・基礎教育部門　　リチャード　デラ　講師

【役職者一覧（2016 年 10 月～ 2018 年 9 月）】

役　職	氏名・職位（所属）
学部長	清島　秀樹 教授（社会・マスメディア系専攻）
学部長補佐	久　　隆浩 教授（環境・まちづくり系専攻）
学科長	久　　隆浩 教授（環境・まちづくり系専攻）
社会・マスメディア系専攻主任	前田　節雄 教授（社会・マスメディア系専攻）
心理系専攻主任	中谷　勝哉 教授（心理系専攻）
環境・まちづくり系専攻主任	久　　隆浩 教授（環境・まちづくり系専攻）
教養・基礎教育部門主任	新田　香織 教授（教養・基礎教育部門）
総合社会学部事務長	田中　穂徳（総合社会学部事務部）

2017 年（平成 29 年）

【新規採用（2017.4）】

社会・マスメディア系専攻　辻　竜平 教授

環境・まちづくり系専攻　　平松　燈 准教授

2018 年（平成 30 年）

◎カリキュラム改訂（2018 年度入学生から適用）

【退職（2018.3）】

社会・マスメディア系専攻　西木　正 教授

社会・マスメディア系専攻　大谷　武文 教授

【退職（2018.10）】

心理系専攻　須佐見　憲史 教授

【新規採用（2018.4）】

社会・マスメディア系専攻　杉浦　徹 教授

社会・マスメディア系専攻　二木　一夫 教授

【役職者一覧（2018 年 10 月～ 2020 年 9 月）】

役　職	氏名・職位（所属）
学部長	横山　隆晴 教授（社会・マスメディア系専攻）
学部長補佐	久　　隆浩 教授（環境・まちづくり系専攻）
学科長	久　　隆浩 教授（環境・まちづくり系専攻）
社会・マスメディア系専攻主任	鈴木伸太郎 教授（社会・マスメディア系専攻）
心理系専攻主任	中谷　勝哉 教授（心理系専攻）
環境・まちづくり系専攻主任	久　　隆浩 教授（環境・まちづくり系専攻）
教養・基礎教育部門主任	山取　　清 教授（教養・基礎教育部門）
総合社会学部事務長	西川　清一（総合社会学部事務部）

2019 年（平成 31 年・令和元年）

【退職（2019.3）】

社会・マスメディア系専攻　清島　秀樹 教授

社会・マスメディア系専攻　前田　節雄 教授

社会・マスメディア系専攻　菱山　宏輔 准教授
教養・基礎教育部門　新田　香織 教授

【退職（2019.6）】
社会・マスメディア系専攻　リリアン　テルミ　ハタノ 准教授

【退職（2019.7）】
心理系専攻　中谷　勝哉 教授

【新規採用（2019.4）】
社会・マスメディア系専攻　岡本　健 准教授
社会・マスメディア系専攻　松本　行真 准教授
社会・マスメディア系専攻　岡野　英之 講師
心理系専攻　漆原　宏次 教授
教養・基礎教育部門　松田　紀子 講師

2020 年（令和 2 年）

【退職（2020.3）】
環境・まちづくり系専攻　本田　善久 教授

【新規採用（2020.4）】
社会・マスメディア系専攻　齋藤　曉子 准教授
心理系専攻　上野　将敬 講師
環境・まちづくり系専攻　石原　肇 教授

【役職者一覧（2020 年 10 月～ 2022 年 9 月）】

役　職	氏名・職位（所属）
学部長	鈴木伸太郎 教授（社会・マスメディア系専攻）
学部長補佐	藤田　香 教授（環境・まちづくり系専攻）
学科長	藤田　香 教授（環境・まちづくり系専攻）
社会・マスメディア系専攻主任	杉浦　徹 教授（社会・マスメディア系専攻）
心理系専攻主任	漆原　宏次 教授（心理系専攻）
環境・まちづくり系専攻主任	藤田　香 教授（環境・まちづくり系専攻）
教養・基礎教育部門主任	好並　晶 教授（教養・基礎教育部門）
総合社会学部事務長	西川　清一（総合社会学部事務部）

2021 年（令和 3 年）

【退職（2021.3）】
社会・マスメディア系専攻　横山　隆晴 教授
環境・まちづくり系専攻　小川　喜弘 准教授
環境・まちづくり系専攻　平松　燈 准教授
教養・基礎教育部門　山取　清 教授

【新規（2021.4）】
環境・まちづくり系専攻　飯塚　公藤 准教授
教養・基礎教育部門　大喜　祐太 准教授

歴代学部長が語る当時

学ぶ喜び　出会う喜び　語る喜び

総合社会学部が掲げた３つの目標

初代学部長　荒巻　裕

「ここは幸運の館だねぇ」～ 2010 年に開設した総合社会学部の入学式を控え，8 階建て新校舎のロビーに立たれた世耕弘昭理事長がそうしみじみと述懐された言葉が懐かしく蘇って来る．

総合社会学部は近畿大学第 12 番目の学部として，生物理工学部以来 17 年ぶりに新設された．学部の下に学科は総合社会学科のみとして社会・マスメディア系，心理系，環境系の３つの専攻を配置するユニークな構成を打ち出した．が，果たして学生は集まってくれるのか？期待と不安を胸に全学あげてのキャンペーンの結果，受験生の総数は予想を超えて定員〈450 名〉の 27 倍に達した．

その学生たちの期待に応えるために，私たちは３つの目標を掲げた．「学ぶ喜び」，「出会う喜び」，「語る喜び」である．

「学ぶ喜び」とは，学生たちがここで学べてよかったと実感し，心に充実感が広がるカリキュラムと授業内容が準備されていること．

「出会う喜び」とは，学生たちが「いい先生にめぐり会えた」，「いい友達に出会えた」と喜んでくれること．

「語る喜び」とは，ゼミや授業で先生方と語り，学生同士もにぎやかに語り合うキャンパスを実現すること．

そしてこの３つの目標を実現するために，私は先生方と学生たち，事務局スタッフにも「道なき道を拓く気概を持って歩んで行こう」と呼びかけ続けて来た．

それから 10 年余．総合社会学部は順調に発展し，３つの専攻を卒業した学生たちがそれぞれの専攻分野で培った力を発揮して社会で活躍しているのを心から感謝し，嬉しく思っている．

しかし今，新型コロナ感染症の世界的な急拡大で，大学も試練のただ中にある．総社が掲げた目標は，教師と学生，学生同士が直接出会うことがカナメになっている．インターネットを活用しての授業やゼミ等々，先生方のご苦労は並々ならぬであろうが，総社が掲げた３つの目標は教育の不変の真髄と私は思っている．

学部長が語る当時

2 代目学部長　清島秀樹

総合社会学部開設（2010 年）の準備を始めた頃，世に，スマホが現れた．日本では，2008 年に，iPhone3G，2009 年に，iPhone3GS，発売．触った瞬間に，これは世界を，大きく変えると感じた．人類史上で，石器，土器，言語，文字，蒸気機関，電気，電信の登場以上の大きな変化が起きるはず，と確信．これが切り開く新しい社会を研究して，その新社会を動かして行く学生を育てたら面白い，と思った．そこで，大学の理事の方々に，「新学部の入学生全員に，このスマホを持たせて，新時代の社会を考えさせては，如何．対外的にも，新学部を象徴する，よい宣伝にもなる.」と提案したが，全く相手にされなかった．誰も，スマホのことを知らなかったので．

しかし，私の予想が誤っていた．学部開設後，4，5 年後に，私が学部長になった頃には，殆どの学生が，スマホを持ち，事務手続きの多くは，スマホからするようになっていた．社会でも，若い人々は，殆ど，スマホを所有．予測を遥かに超える，驚くべき急速な普及と社会の変化．しかも，若い人の，スマホの買い替えサイクルは早い．4 年間も，大学から与えられた古物スマホを使ってるなど，ありえない．密かに思った，「大学支給にしなくて良かった」と．

教員の側から見ても，シラバス制作，成績入力，などなどの事務処理の全てが，スマホで可能になった．PC を使っていなかった私にとっては，驚きの変化．

また，電車の中では，新聞や雑誌を見てる人がいなくなり，スマホを見てる人ばかりになった．駅の売店・コンビニでも，新聞・雑誌の売りスペースが激減した．

次が，近畿大学の中での，実験学部としての総合社会学部の役割．全く新しいことを，近大の中で試しにやってみた，という点．学生証の IC カード化，出欠を，IC 学生証によってチェックする機械の教室内設置，教室・建物全体の WiFi 設置，トイレの全自動化と化粧スペース設置，大人数授業を無くすこと（履修希望者が 200 人を超えたら抽選），などなど．今では，大学全体では当たり前のことになってるが，当時では，異例だった．

発足当時は，あまりに他の学部の教室インフラと違うので，戸惑ったのを覚えている．理工学部の教室を借りて授業をした時，「なんで WiFi が無いの」と驚いた．一般的に，総社の授業を，他の学部の教室を借りてやる時は，携帯式出欠読み取り機を持っていき，教室の入り口に置き，学生に IC 学生証を，かざしてもらった．

また，推薦入試で，初めて，ネット面接を試しにやったのも，この学部．

ただし，これらのことは，私が学部長になる頃には，どの学部でも，当たり前のこととなっていた．

更に，近畿大学キャンパスが過激に変化したのも，私が学部長の時期．アカデミックシアターや新事務ビル棟などの登場により，キャンパス内部の有様が，SF 的になってきた．新事務棟など，壁は全てガラスなので，学部長会議などのたびに，私は，会議室がわからず，ガラス壁にぶつかっていた．まじで，ガラスの迷宮の中で，何度も迷子になった．ただし，会議室のガラス壁から見る，大阪の光景は，美しいので，感動した．

以上，社会的にも，学内的にも，急激な変化の時期を，学部長として経験．

店潰しの３代目

３代目学部長　横山隆晴

初代学部長・荒巻先生，２代目学部長・清島先生の跡を継ぎ，３代目の任を担うことになった私には，３代目ならではの重圧がありました．

巷間，「３代目は店を潰す」と言われます．

初代はゼロから店を立ち上げることに懸命な努力を続け，２代目は，初代のその姿を見て，やはり懸命に店の維持・発展に尽力します．そして問題の３代目．３代目になると，初代と２代目が汗水流して築いた店を潰してしまうことが多い，ということのようです．初代・２代目に比して，必死さを持てなくなっていることが多く，既にできあがってしまっている店の経営（運営）に，油断と慢心と隙が生じやすいところに起因するのでしょう．

総合社会学部・３代目学部長の私は，まさにその「３代目」の〝困難〟を抱えることを余儀なくされる重責でした．

初代・荒巻先生は，副学部長も兼務されており，幅広い見識に裏打ちされた極めて紳士的な，いわば正統派の学部長でした．そして初代を継いだ２代目・清島先生は，哲学者然とした，ときに現世を超越したような独特な雰囲気を持つ，常に無私を優先させる稀有な学部長でした．この「人として」偉大なお２人の先生を，初代，そして２代目の学部長に擁することのできた総合社会学部は，これ以上ない，極めて幸運なスタートを切ることができたのだと，私は近くから傍観者の立場で仰ぎ見ていました．

そして問題の，非力な３代目です．初代・２代目が学部長として見事に築いてくれた店を潰しかねない３代目の時代に，前代未聞の困難が襲いかかりました．やはり３代目は，安泰ではないンですよね．３代目の悲運なのか，３代目の必然なのか．コロナ禍という歴史的な災厄が大学へ〝初上陸〟．学生が大学へ来ることができないという前代未聞の状況に総合社会学部も変質する事態に陥りました．

この前例の無い困難への対応は，その全てが，「初めて」のことになります．大学も手探り，それぞれの学部も手探り，教員も，事務職員も，全員が手探りで「明日のこと」を考えていかなければなりません．そして言うまでもなく最も重要なことは，総合社会学部に集う学生たちへの対応をどうするのか．彼らの「明日のこと」を，先の見えないトンネルの中であっても最優先で考え，トンネルの中に微かな明かりを灯さなければなりません．未来ある若い彼らの足許に，何としても．その想いは，総合社会学部に勤務する全ての教員，そして事務職員に，誰が言わなくても共通する認識として，いわば阿吽の呼吸で学部内に溢れたことを私は忘れません．

総合社会学部は，異なる３つの専攻を持ち，各教員はそれぞれ，個性溢れる魅力的な個人商店を開いています．専門分野もバラバラ，当然に経歴もさまざま．しかし，それが『いざ鎌倉！』となった時，これほどの結束を一気に果たすことができ，一致団結して困難に立ち向かったという事実は，「学部創設10周年」にあって燦然と輝く，総合社会学部の誇りとして胸を張ることができます．

その状況の渦中にあった３代目として明確に言えることがあります．総合社会学部はその性格上，多種多様な教員の集まりという観点から多方面へ翼が自由に拡がっていますが，

その個性溢れる教員たちと，そして，見事で優れた事務職員たちによって連携され，実は〝総合的に〟素晴らしい学部へ着実に歩みを進めている，と．

創設以来，総合社会学部の学生は，「明るい」「元気がいい」．コロナ禍にあっても，それは不

変です．これからもきっと，困難に挫けない若者たちが育っていってくれます．初代も，2代目も望んでおられた「総合社会学部の精神」が，非力な 3 代目の私は多くの方々に助けられただけでしたが，「10 周年」を越えて，更に大きく拡がっていくのが見えるような思いです．

4 代目・学部長は，全方位に卓越する鈴木伸太郎先生．鬼門だった「店潰しの 3 代目」は経過しましたので，「総合社会学部」はもう安心です．何とか潰さないで，バトンをお渡しすることができました（笑顔）．多くの皆さんのお陰です．心から感謝しております．

3つのポリシーの変遷

学部および各専攻の3つのポリシーの変遷

久　隆浩

1．学部共通目標としての3つのポリシー

総合社会学部は3つの専攻から構成されているが，学科としては総合社会学科の1つとなっている．そのため，アドミッション・ポリシー，カリキュラム･ポリシー，ディプロマ･ポリシーも，学部・学科のポリシーと専攻のポリシーの2段構えで構成されている．学部・学科のポリシーは3専攻共通のめざすべき方向を示したものである．学部･学科のポリシーについては最初に作成したときから大きくは変えていない．これは文部科学省に届け出た「設置の趣旨」に記載した内容を基盤としている．

2．ディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシー

学部のディプロマ・ポリシーについては，以下のようになっている．

総合社会学部では，本学の建学の精神と教育の目的に即して，多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解するために，人々の心的活動や行動（心理学），社会の仕組や構造（社会学），環境と社会の関係（環境学）という視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究を行います．1つの学問分野から個別に研究するのではなく，ミクロな視点（心理）からマクロな視点（環境）まで，広範にわたる学問分野の研究を集結し，多様な見方を総合化していくことで初めてその本質が見えてきます．本学部では，複雑化した現代社会の問題群に1つの組織として総合的に取り組み，グローバル化にも対応した新しい社会システムの構築に関心を寄せる人材を育成します．具体的には，以下の諸項目です．

1. 複雑化した現代社会の問題群を総合的に捉えることができるような広い教養を身につけるとともに，ローカルな視点とともにグローバルな視点を持ち，多様な文化のあり方や成り立ちの理解を深めます．
2. 具体的な社会問題にアプローチするそれぞれの専攻の学問分野について，基礎的な知識・技能を身につけます．
3. 自専攻以外の学問分野についても理解を深め，人間・社会と環境の関係を総合的に考察する力を身につけます．
4. 専門分野の学修を通じて，人間の行動や社会について論理的思考や科学的視点を身につけます．
5. 様々な言語やメディアを使いながら，自らの意見や考えを表現し，他者との相互理解を深めるような発信力を高めます．
6. 実学教育の理念のもと，身につけた知識や技能・態度を用いて，自ら見出した社会的課題を総合的に分析し，問題提起や解決に向けての提言などができる力を身につけます．
7. 「人に愛され，信頼され，尊敬される人」として，社会問題の解決や生活の質的向上のため，自らのキャリアや社会的役割を認識したうえで，生涯を通じて自律的に思考･判断し，行動する力を身につけます．

また，アドミッション・ポリシーは次のようになっている．

総合社会学部では，ミクロな視点からマクロな視点，ローカルな視点からグローバルな視点まで，多様な見方を総合化していくことで，複雑化する社会問題を同定し，問題の解決や，よ å りよい社会の構築に対して提案できるような人材の育成を教育の到達目標として，厳格な成績評価により教育課程を運営しています．ディプロマ・ポリシーに沿って，以下のようなカリキュラムを設置しています．
ディプロマ･ポリシー１の達成のために,「人間性・社会性科目群」,「地域性・国際性科目群」,「学部基礎科目群」といった「共通教養科目」を置き，特に，人間の責務としての教養とグローバルな視点を養成することに重点を置いています．また，外国語の学修を通して，文化の多様性について考え，多文化社会に柔軟に対応する力が養われます．
ディプロマ・ポリシー２の達成のために，多様なものの見方を総合化していく力に必要な，各学問分野における基礎的な知識・技能を学びます．それぞれの専攻では体系的な科目を段階的・連続的に配置しており，入門的な各種概論や基礎的方法論を学ぶ「専門基礎科目」から，より細分化・高度化した各種学問科目からなる「専門発展科目」へと進んでいきます．
ディプロマ･ポリシー３の達成のために,「総合社会学概論」や「総合社会学演習」といった，自専攻以外の領域の基礎を学ぶ「学部コア科目群」を配置しています．これらを１年次配当の必修科目としており，すべての学生が早い段階で，心理－社会－環境からなる３つの視点や研究スタイルに触れ，総合的考察の基礎を身につけます．また，他専攻の学生も履修できる「他専攻科目」が選定されており，自らの専門以外についてもより深く学び続けることができる制度を設けています．
ディプロマ・ポリシー４の達成のために，共通教養科目として「課題設定・問題解決科目群」を置いており，論理的思考の基礎を身につけます．また各専攻には文献講読，資料分析，データ分析などに関わる科目を置き，人間の行動や社会，環境を見る際に必要な科学的態度が養われます．
ディプロマ・ポリシー５の達成のために，１年次の「基礎ゼミ」を皮切りに，各専攻では少人数で行われる演習科目を多く置いています．読み，書き，発表，議論のしかたの基礎を学び，互いに自分の意見を表現し合い，相互理解のための議論が奨励されます．また,外国語科目では,「基幹科目」と「発展科目」を体系的に配置し，系統性のある学修によって読む・書くに加え，聞く・話すといった様々な言語による自己表現力が高まります．これらの科目では，表現内容を洗練させていくことに加え，様々なメディアを使った表現方法のスキルが向上します．
ディプロマ・ポリシー６の達成のために，すべての専攻の学生は，上記のような学修を経て，大学での学びの集大成として,「卒業論文・卒業制作」を仕上げます．３年次から「演習」または「卒業研究ゼミナール」が始まり，２年間をかけて自らが見出した社会的課題にじっくりと向き合い，文献講読，調査，実験，フィールドワークなどを駆使して，問題提起や提言に挑みます．その間，各専攻で定められた手続き（中間発表，成果発表など）を経て，最終的に評価基準に沿って，その成果を確認します．
ディプロマ・ポリシー７の達成のために，社会の一員としての意識や態度を高めることを目的として，将来の社会貢献について考え，その準備を進める機会をもちます．

３．体系的で総合的な学び

ディプロマ・ポリシーの前文は設置の趣旨にも記した文章そのものであり,「複雑化する

社会問題を総合的，実証的に捉え解決を図ることができる人材の養成」をめざし，その実現を評価するポリシーとして構成している．

ディプロマ・ポリシーの「1. 複雑化した現代社会の問題群を総合的に捉えることができるような広い教養を身につけるとともに，ローカルな視点とともにグローバルな視点を持ち，多様な文化のあり方や成り立ちの理解を深めます」は，まさに総合社会学部の根幹をなすものであり，多様な視点から社会問題にアプローチする基礎力の養成を謳っている．そのために，「人間性・社会性科目群」「地域性・国際性科目群」「学部基礎科目群」等に分類した「共通教養科目」を置き，その学びによって人間の責務としての教養とグローバルな視点を養成することに重点を置いている．また，外国語の学修を通して，文化の多様性について考え，多文化社会に柔軟に対応する力の養成をめざしている．

ディプロマ・ポリシーの「2. 具体的な社会問題にアプローチするそれぞれの専攻の学問分野について，基礎的な知識・技能を身につけます」は，総合的な基礎力の上により専門性の高い素養を身につけることをめざしている．そのために専門科目を体系的に配置し，各学問分野における基礎的な知識・技能を学び，それらを総合化することで多様なものの見方を総合化していく能力を養成していく．具体的には各専攻のカリキュラム・ポリシーとそれに沿った体系的な科目構成で検討しているが，共通する基本的な考え方は，入門的な各種概論や基礎的方法論を学ぶ「専門基礎科目」から，より細分化・高度化した各種学問科目からなる「専門発展科目」へと進んでいくように構成されている．

ディプロマ・ポリシーの「3. 自専攻以外の学問分野についても理解を深め，人間・社会と環境の関係を総合的に考察する力を身につけます」も総合社会学部の特徴である総合力を養うため，他専攻の専門知識を身につけることをめざしている．まずは，必修科目として「総合社会学概論」「総合社会学演習」といった自専攻以外の領域の基礎を学ぶ「学部コア科目群」を配置している．これにより，すべての学生が早い段階で心理－社会－環境からなる3つの視点や研究スタイルに触れ，総合的考察の基礎を身につけることができる．また，他専攻の学生も履修できる「他専攻科目」を選定し，自らの専門以外についてもより深く学び続けることができる制度を設けている．

4．社会への提言ができる能力の養成

ディプロマ・ポリシーの「4. 専門分野の学修を通じて，人間の行動や社会について論理的思考や科学的視点を身につけます」は，論理的，科学的思考の養成をめざしたものである．まずは論理的思考の基礎を身につけるため共通教養科目に「課題設定・問題解決科目群」を置き，各専攻には文献講読，資料分析，データ分析などに関わる科目を配置することで，人間の行動や社会，環境を見る際に必要な科学的態度の養成を行う．

ディプロマ・ポリシーの「5. 様々な言語やメディアを使いながら，自らの意見や考えを表現し，他者との相互理解を深めるような発信力を高めます」はコミュニケーション能力，情報発信力の養成をめざしており，説得力のある情報発信のための基礎的能力の養成をめざしたものである．1年次の「基礎ゼミ」を皮切りに，各専攻の専門科目にも少人数で実施する演習科目を多く配置している．これらの科目では，読み，書き，発表，議論のしかたの基礎を学び，互いに自分の意見を表現し合い，相互理解のための議論を通してコミュニケーション能力の養成を図っている．また，外国語科目では，「基幹科目」と「発展科目」を体系的に配置し，系統性のある学修によって読む・書くに加え，聞く・話すといった様々な言語による自己表現力を養成している．さらにこれらの科目では，表現内容を洗練させていくことに加え，様々なメディアを使った表現方法のスキルの向上をめざしている．

ディプロマ・ポリシーの「6. 実学教育の理念のもと，身につけた知識や技能・態度を用

いて，自ら見出した社会的課題を総合的に分析し，問題提起や解決に向けての提言などができる力を身につけます」は，学部を通して身につけた知識，能力を総合化し，「社会問題を総合的，実証的に捉え解決を図る」能力を身につけ，実社会にむけて提言ができる人材の養成をめざしている．この根幹をなすのは「卒業論文・卒業制作」である．すべての専攻の学生は，大学での学びの集大成として「卒業論文･卒業制作」を仕上げる．3年次から「演習」または「卒業研究ゼミナール」を開始し，2年をかけて自らが見出した社会的課題にじっくりと向き合い，文献講読，調査，実験，フィールドワークなどを駆使して，問題提起や提言を行う．

ディプロマ・ポリシーの「7.「人に愛され，信頼され，尊敬される人」として，社会問題の解決や生活の質的向上のため，自らのキャリアや社会的役割を認識したうえで，生涯を通じて自律的に思考・判断し，行動する力を身につけます」はいわゆる生涯学習能力のことを謳っており，学部で身につけた素養をさらに磨き，自律的に学習，行動できる人材とすることをめざしている．未来が予見しづらい変化の激しい社会であるからこそ，つねに学び続けていくことは重要であり，それを学部の4年間で身につけてもらいたいという意図をもっている．そのために「インターンシップ」や「ボランティア実習」等で，将来の社会貢献について考え，社会の一員としての意識や態度を高めていく．また，在学中に学外の社会貢献活動に参画することも推奨している．

5．アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシーでは，総合社会学部に入学し，社会問題の解決に向けて学び続けられる姿勢や基礎力をもった学生の条件について記している．具体的には次のようになっている．

ディプロマ・ポリシーに示したような人材の育成を目標として，総合社会学部では，次のような入学者を受入れます．

1. 大学での学びに展開できる確かな基礎学力を持った人．
2. 様々な社会問題や人間行動に関心を持っている人．
3. 新たな社会のあり方について関心のある人．
4. 自律的に課題を見出し，論理的・科学的に考えるための素地がある人．

6．おわりに

冒頭にも記したように，総合社会学部の3つのポリシーは，学部設置当初に組立てた「設置の趣旨」が柱となっている．この柱は未来志向のものであり，それが10年経っても変更の必要のない要因になっていると考えられる．また，3つのポリシーを学部全体で共有することで，総合社会学科としてのまとまり，総合性が継続できるものでもある．こうした学部の特徴を活かしながら，時代に柔軟に対応した学部運営をめざしていきたいものである．

社会・マスメディア系専攻の3つのポリシーの変遷
―実践的な力の養成を目指して―

杉浦　徹

総合社会学部の3つのポリシーはこれまで，3度にわたり改訂されてきました．

ここでは現在のポリシーとその変遷について簡単に記します．

現在の3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）】

（全文）

社会・マスメディア系専攻は，実学教育と人格の陶冶という建学の精神，ならびに「人に愛される，信頼される，尊敬される人材を育成する」という教育の目的に則り，21世紀のグローバル化・成熟化・複雑化する新たな社会環境のなかで，たくましく主体的に生きる市民・人材の育成を目指しています．そのため，人が創り出したさまざまな仕組み＝「社会」を理解し，激動期の現代社会を見据える基礎的能力を修得することを，学生の卒業要件としています．

具体的には以下に示されています．

1. ローカル／ナショナル／グローバルというさまざまなレベルで生じている出来事や事件，多様な文化のあり方や成り立ちに関心をもち，幅広い教養を身につけます．また，社会やメディアに関する基礎的な知識・技能を身につけて，現代社会に生じている問題事象を的確に把握し，自分自身の問題として主体的に考え，独自の考え方を構築する力を養います．
2. 「自然・常識＝変更不可能なもの」とのみ捉えるのではなく，「社会＝人間の手で変更可能なもの」に読み替えることにつとめることで，社会に存在するさまざまな問題を「（自分たちによって）変えられる」という意識をもち，他専攻の学問分野の理解も深めることで，総合的な考察・判断ができる力を養います．地域社会，国際社会，メディアの領域の中で生じている課題や問題を的確に把握し，自ら見出した社会的課題について適切な情報収集・分析を行い，論理的な思考展開が図れるようにします．
3. 多数意見に流されず，自らの意見や考えを明確に表現し，他者とのコミュニケーションを通じて相互理解を図る能力を身につけ，問題提起や解決に向けての提言などができる力を育てます．直感や常識に頼るのではなく，「証拠（evidences）」を重視しながら，科学的態度に基づく方法を用いて分析する力を養います．社会に関して，自身が有する知識を，他者が理解可能な形で提示でき，また，そのためにさまざまな言語やメディアを使うなどして，適切な表現法（レポート，論文，口頭発表，ポスターなど）を身につけ，発信力を高めます．
4. 地域社会，国際社会，メディアの領域の中で生じている課題や問題を理解するために必要な基礎的な知識・技能を身につけます.「知識」を，批判することそれ自身を目的として用いるのではなく，他者と協力し，物事を建設的に解決するための手段としてとらえ，それを活用して自律的な思考・判断の上で行動する力を身につけます．
5. 現代社会コースでは，地域コミュニティから国際社会にいたるまで社会関係やコミュニケーションについての理解を深め，それらを大きな構造との関係において考察し，さまざまな社会問題の解決につながる提案など

ができるような力を身につけます.

マスメディアコースでは，地域社会や国際社会をめぐって自身が有する知識を，他者が理解可能な形・言語で発信できる力を養います．情報を伝える媒体が常に進化・変化していることを理解し，旧来のもののみにこだわらず多様な媒体を用いて，社会変化に貢献するような情報発信ができる力を培います.

【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）】（概要）

社会・マスメディア系専攻は，それぞれのディプロマ・ポリシー達成を目指した教育課程をおいています.

1. 「外国語科目」と「共通教養科目」に加え，「専門基礎科目」として社会学やメディア等に関する概論的な科目を配置．実践を重視した「専門基礎科目」も設置されています.
2. しっかりとした思考力・判断力を身につけるために，学生・教員の相互作用を活発に行うことが可能な少人数制の演習形式の授業を，各学年に配置しています.
3. 少人数クラスによる「演習科目」を置き，実践的にコミュニケーション力を高めていきます．また「フィールドワーク」や「社会調査法」では，エビデンスを重視し，科学的な方法を用いて分析する技能を高めます.
4. 「共通教養科目」に加え，「専門基礎科目」および「専門発展科目」として「生活理解群」,「社会理解群」,「国際理解群」,「メディア群」,「方法論群」を配置し，諸理論を学ぶ機会を豊富に設けています.
5. 3 年次からは，「現代社会コース」,「マスメディアコース」の 2 コースに分かれ，より専門的な科目を「専門発展科目Ⅱ」として開講しています.

【アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）】（概要）

社会・マスメディア系専攻では，ディプロマポリシーに掲げた目標の実現のために「一体，現代の世界，社会はどうなっているのか？これからどうなる？」という，素朴な疑問や関心をもつ人々を広く求めます．具体的には，下記のような人材を求めます.

1. さまざまな社会問題や社会科学について幅広く関心がある人.
2. インターネットやコンピュータの急発達から生まれた社会現象，現代文化に興味がある人.
3. メディア業界，急速なメディアの変容に興味がある人.
4. 情報網や高速移動手段の変化がもたらした新たな国際関係や民族問題に興味がある人.

そして高校までの科目履修（国語，地理・公民，数学，外国語）によって身につけていることが望まれる能力も記されています.

3 つのポリシーの変遷

社会・マスメディア系専攻の 3 つのポリシーは，2010 年の学部設立時に設定されたものから，2015 年，2017 年，2021 年と 3 度の改訂を行ってきました.

ディプロマ・ポリシーの変遷

学部設立当初は，1 関心・意欲・態度，2 思考・判断，3 技能・表現，4 知識・理解に分けられ，箇条書きに近い形のシンプルなものでしたが，2017 年の改訂時に〈現代社会コース〉と〈マスメディアコース〉に分けられ，それぞれの特色に応じた内容に加筆訂正されました.

さらに 2021 年の改訂では，コースごとの表記ではなく専攻全体での表記に戻し，より具体的で詳細に，学位授与のために必要となる能力の育成について記されるようになりました.

カリキュラム・ポリシーの変遷

学部設立当初は科目設定の基本的な考え方をシンプルに項目分けをして，代表的な科目名を挙げるというものでしたが，2015 年の改訂で「専門基礎科目」,「専門発展科目」の考え方や群の設定などについて記されました.

そして 2021 年の改訂ではディプロマ・ポリシーの達成とリンクした，より具体的で充実し

た表記へと改訂されました.

アドミッション・ポリシーの変遷

学部設立時のものを骨格として継続しながら，2017年の改訂からはより時代に応じた具体的な事例を示した社会問題や社会科学への関心を持つ人材を求めるという項目が追加されました.

心理系専攻の３つのポリシー
―入学者受入・教育課程編成・学位授与の方針―

漆原宏次

１．心理系専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

近畿大学総合社会学部心理系専攻では，大学建学の精神と教育の目的を基礎とし，グローバル化した現代社会を多様な視点から捉え，その中で生きる人々の行動や心についての社会的課題を自律的に見出し，問題提起や解決に向けての提言を行うことのできる人材の育成を目指している．そのために必要な科学的態度，論理的思考力，広い教養と心理学の専門知識を身につけた学生に対し卒業を認定し，学士（総合社会学）の学位を授与する．卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりである．

1. 幅広い教養に基づき，多様な文化のあり方や成り立ちを理解し，社会や文化というより広い文脈の中で人の行動や心についての問題を位置づけるための視点を身につける．
2. 人間の行動や心について，「知る」，「考える」，「感動する」，「おもしろがる」というような知的好奇心と関心を持ち，生涯にわたって自律的に思考・判断し，主体的に学び続ける態度と行動力を身につける．そして，実学教育の理念のもと，グローバル化した現代社会が直面する問題・課題を自ら見出し，「人に愛され，信頼され，尊敬される人」として，多面的かつ論理的に解決に向けて提言する力を身につける．
3. 心理学分野における幅広い知識・技能と，論理的思考や科学的態度を身につけ，行動や心について，心理学的な方法論を用いて総合的に分析・考察し，理解する力を身につける．
4. 設定された課題について自ら問題を提起し，研究計画を立案し，実証的な方法で調査・研究し，得られた結果を総合的に考察することができ，それらを様々な言語やメディアを駆使して文章で表現したり，口頭で報告したりできる発信力を身につける．

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）と入学者受入方針（アドミッションポリシー）

心理系専攻のカリキュラムには，人の行動や心について，幅広く，かつ多様な視点からとらえる基礎力を養い，研究のために必要な科学的方法や態度，心理的な知識や技術を身につけるための科目が段階的に配置されている．

１年次から開講される「共通教養科目」，「外国語科目」を通じて，心理学以外の学問分野を広く網羅した一般教養と，多様な文化についての理解が深めていく．また，「学部共通コア科目」では，グローバル化した現代社会を心理－社会－環境という３つの視点からとらえ理解する基礎を培う．また，１年次から４年次まで様々な形で開講される，プレゼンテーションやディスカッションを取り入れた少人数での「演習科目」を通じて，自ら課題を見出し，様々な問題に関心と好奇心を持ち，自律的に思考・判断し，意欲的・主体的に学ぶ態度と行動力，自らの意見や考えを表現する発信力を培う．

１年次より段階的に配置されている心理学領域の専門科目から，心理学を，その周辺領域との関連とともに網羅的・俯瞰的にとらえる視点と，行動や心についての専門的知識を十分に身につけることができる．また，１年次より順次開講される研究法・統計法に関する講義，実験・実習授業により，行動や心を論理的かつ科

学的に研究・分析する態度と心理学的方法論を身につけていく.

心理系専攻では，国家資格である公認心理師の受験資格の取得に必要な科目も配置されており，これらの科目から，アセスメントや支援の方法についての知識・技能など，臨床心理学についての様々な専門的知見を身につけ，現代社会に生きる人々が抱える臨床心理学的問題・課題に対し，解決に向けての提言を多面的・理論的に行うための基礎を養う.

3年次からはゼミに分かれての「演習」が始まり，4年次には「卒業論文」の作成に取り組む．これらを通じて，幅広い知識を基に自ら問題を発見し，心理学的な方法論を用いた研究計画を策定し，それらを文章で表現し，また口頭で報告し，議論するといった高いレベルの能力と発信力を身につけていく.

心理系専攻では，これらの教育課程で学ぶ基礎力として，幅広く教養を身につけるために必要な日本語及び英語の読解能力・表現力を備えていること，専門的な知識に基づいて多様な視点から行動や心について自ら課題を発見し主体的に学ぶために必要な幅広い見識を持っていること，実証的な方法で行動や心についての問題を探求する方法を学び専門的知識・技術・科学的態度を身につけそれらを柔軟に適用し社会の幅広い分野で活躍するために必要な論理的・構造的思考力を持っていることを入学者受入の方針としている．また，高校までの科目履修ないし入学までの事前学習等によって，論理的・構造的に思考するための読解力・表現力などの国語力，日本及び世界の情勢や地域特性についての総合的な理解，データ等を用いて論理的・客観的に思考できる基礎的数学的素養，外国語における読解能力・作文能力・会話能力と語彙力を求めている.

3つのポリシーの変遷

心理系専攻では，これまで，「関心・意欲・態度」として興味や視点，知的好奇心を，「思考・判断」として多様性を認め科学的・論理的に思考する力を，「技能・表現」として問題設定・課題解決能力を,「知識・理解」として様々な対象に対する科学的・論理的・多面的な理解力を持つ人材を育成することを重視し，これをディプロマポリシーとして掲げてきた．これら4つの観点から設定されていたディプロマポリシーであるが，育成の目標とする人材像をより具体的・統合的なものとするため，2021年より，上記のディプロマポリシー，およびそれを中心としたカリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを制定した.

環境・まちづくり系専攻の 3 つのポリシー（Admission, Curriculum, Diploma）の変遷

藤田　香

3 つのポリシーの変遷

これまで環境・まちづくり系専攻では，環境系専攻の 3 つのポリシー（2010 年から 2014 年）から環境・まちづくり系専攻 3 つのポリシー（2015 年から 2016 年，2017 年から 2020 年）へと変遷してきた．以下では，それぞれのポリシーの変遷について記す．

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）の変遷

環境系専攻		環境・まちづくり系専攻			
2010年から2014年		2015年から2016年		2017年から2020年	
「まちづくり」や「環境政策」を学ぶ環境系専攻では、公共心や知的好奇心を持った以下のような人材を求めます。		「まちづくり」や「環境政策」を学ぶ環境・まちづくり系専攻では、公共心や知的好奇心を持った以下のような人材を求めます。		環境・まちづくり系専攻は、具体的なまちや地域を対象に、持続可能な社会づくり・環境づくりのための知識や技術を学習します。地理学、環境情報学、都市・地域計画学、環境政策学を援用しながら、具体的な地域を対象として、文化や産業・社会・環境といった地域特性を調査・分析、環境に配慮し、元気が持続する地域づくりに生かしていきます。また、都市・地域計画学や環境政策学の知識を活用しながら、持続可能なまちづくり・環境づくりを推進するための計画・政策をつくる能力を養います。このため環境・まちづくり系専攻では、公共心や知的好奇心を持った以下のような人材を求めます。	
1	まちづくりや環境政策等によってよりよい社会づくりに貢献しようと考える	1	まちづくりや環境政策等によってよりよい社会づくりに貢献しようと考える	1	まちづくりや環境政策等によってよりよい社会づくりに貢献しようと考える人。
2	人のため、地域社会のため、環境のための仕事に就きたいと考える人	2	人のため、地域社会のため、環境のための仕事に就きたいと考える人	2	人のため、地域社会のため、環境のための仕事に就きたいと考える人。
3	自ら考え、行動する主体性を大切にできる人	3	自ら考え、行動する主体性を大切にできる人	3	これからの社会のあり方について興味・関心のある人。
4	大学で学ぶだけでなく地域や現場に入り具体的な活動を行おうと考える人	4	大学で学ぶだけでなく地域や現場に入り具体的な活動を行おうと考える人	4	自ら考え、行動する主体性を大切にできる人。
5	広く関心を持ち、さまざまなことに挑戦しようと積極的に行動する人	5	広く関心を持ち、さまざまなことに挑戦しようと積極的に行動する人	5	多様な価値観を認め合い、協調して活動ができる人。
6	地域社会や環境との調和を考えた生活行動が行える人	6	地域社会や環境との調和を考えた生活行動が行える人	6	大学で学ぶだけでなく地域や現場に入り具体的な活動を行おうと考える人
				7	広く関心を持ち、さまざまなことに挑戦しようと積極的に行動する人。
				8	的確な情報分析を行い、論理的にものごとを考えようとする人。
				9	地域社会や環境との調和を考えた生活行動が行える人。
また、環境系専攻に入学するまでに、次のようなことを身につけていることが望まれます。		また、環境系専攻に入学するまでに、次のようなことを身につけていることが望まれます。		また、環境・まちづくり系専攻に入学するまでに、次のようなことを身につけていることが望まれます。	
国語：論理的・構造的に思考するための読解力・表現力が身についている		国語：論理的・構造的に思考するための読解力・表現力が身についている		国語：論理的・構造的に思考するための読解力・表現力が身についている	
地歴・公民：世界の情勢や地域特性について総合的に理解している		地歴・公民：世界の情勢や地域特性について総合的に理解している		地歴・公民：日本及び世界の情勢や地域特性について総合的に理解している	
数学：データ等を用いて論理的・客観的に思考できる基礎的素養が身についている		数学：データ等を用いて論理的・客観的に思考できる基礎的素養が身についている		数学：データ等を用いて論理的・客観的に思考できる基礎的素養が身についている	
外国語：基礎的な読解能力と会話能力が身についている		外国語：基礎的な読解能力と会話能力が身についている		外国語：基礎的な技能（読解能力、作文能力と会話能力）と語彙力が身についている	

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）の変遷

環境系専攻		環境・まちづくり系専攻			
2010年から2014年		2015年から2016年		2017年から2020年	
環境系専攻では、幅広い視野と自らの関心に基づいた専門知識を兼ね備えた人材を養成するため以下のような方針で教育を行います。		環境・まちづくり系専攻では、幅広い視野と自らの関心に基づいた専門知識を兼ね備え、具体的なまちや地域を対象にした持続可能な環境づくり・まちづくりのための基礎知識や技術も身につけた人材を養成するため以下のような方針で教育を行います。		環境・まちづくり系専攻では、幅広い視野と自らの関心に基づいた専門知識を兼ね備え、具体的なまちや地域を対象にした持続可能な環境づくり・まちづくりのための基礎知識や技術も身につけた人材を養成するため以下のような方針で教育を行います。	
1	専攻に置かれた２つのコースそれぞれに「環境政策」と「都市・まちづくり」の理解に必要な基礎知識を体系的に学習できるよう科目を配置します。	1	都市・地域計画論、環境政策学、自然地理学等を基盤に総合的なまちや地域のあり方を考える上での基礎知識を理解します。	1	都市・地域計画論、環境政策学、自然地理学等を基盤に総合的なまちや地域のあり方を考える上での基礎知識を理解します。
2	地球環境コースでは、環境アセスメントで取り上げられる内容を総括的に理解するための基礎知識や、環境政策立案のための基礎知識を身につけるとともに、環境問題についての最新の話題を取り上げ、今日的な視点に立った理解ができるようにします。	2	地理情報システム等を基盤に具体的な地域を対象とするためのそれらの援用方法について学びます。	2	まちづくり・環境政策関連の科目を通じ、公共性を身につけます。
3	都市・まちづくりコースでは、都市計画・まちづくりの歴史を押さえつつ、新しい公共や協働といったこれからの都市・まちづくりに必要な基礎知識を理解するとともに、合意形成手法など市民主体のまちづくりに必要な技法を身につけます。	3	地域・環境統計学、地域環境論等を基盤に文化や産業・社会・環境といった地域特性を調査、分析するために必要な技法を身につけます。	3	地域・環境統計学、地理情報システム、地域環境論等を基盤に文化や産業・社会・環境といった地域特性を調査、分析するために必要な技法を身につけます。
4	自らが所属するコースに配当された科目だけでなく、他コース、他専攻の科目を履修し、幅広い視野と知識を身につけます。	4	他専攻の科目を履修し、幅広い視野と知識を身につけます。	4	ネットワーク社会とは何かを理解し、ネットワーク社会にふさわしい新しい社会システムを提案・実現できる力を身につけます。
5	演習等を通じて、社会から問題を抽出し、科学的な分析を行い、問題解決の提案ができる素養を身につけます。	5	演習等を通じて、社会から問題を抽出し、科学的な分析を行い、問題解決の提案ができる素養を身につけます。	5	共通教養科目、学部コア科目、他専攻の科目を履修し、幅広い視野と知識を身につけます。
6	演習等によって既習の知識を総合化し具体的な問題解決手法を考えるとともに、課題作成や発表を通じてコミュニケーション能力を向上させます。	6	演習等によって既習の知識を総合化し具体的な問題解決手法を考えるとともに、課題作成や発表を通じてコミュニケーション能力を向上させます。	6	外国語科目によって、国際的なコミュニケーション力を養います。
7	インターンシップやボランティア実習、まちあるきイベントなどへの積極的な参加を通じて、社会で起こっている問題を実感し、学習の動機付けにつなげます。	7	インターンシップやボランティア実習、まちあるきイベントなどへの積極的な参加を通じて、社会で起こっている問題を実感し、学習の動機付けにつなげます。	7	情報関連科目によって、情報リテラシーを身につけます。
8	演習等を活用し、少人数指導を徹底します。	8	演習等を活用し、少人数指導を徹底します。	8	演習等を通じて、社会から問題を抽出し、科学的な分析を行い、問題解決の提案ができる素養を身につけます。
9	課外学習の課題を与え、自発的な学びの姿勢が身につくよう配慮します。	9	課外学習の課題を与え、自発的な学びの姿勢が身につくよう配慮します。	9	演習等によって既習の知識を総合化し具体的な問題解決手法を考えるとともに、課題作成や発表を通じてコミュニケーション能力を向上させます。
				10	演習等でのグループワークを通じて、チームワーク力やリーダーシップを身につけます。
				11	演習等でのグループワークを通じて、相互理解から合意形成への重要性を学習します。
				12	課外学習の課題を与え、自発的な学びの姿勢が身につくよう配慮します。
				13	インターンシップやボランティア実習、まちあるきイベントなどへの積極的な参加を通じて、社会で起こっている問題を実感し、学習の動機付けにつなげます。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の変遷

環境系専攻		環境・まちづくり系専攻			
2010年から2014年		2015年から2016年		2017年から2020年	
環境系専攻では、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、卒業研究を通してまちづくりや環境問題に対して総合的に取り組む能力を身につけた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質は以下のとおりです。		環境・まちづくり系専攻では、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、卒業研究を通して環境づくりやまちづくりに対して総合的に取り組む能力を身につけた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質は以下のとおりです。		環境・まちづくり系専攻では、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、卒業研究を通して環境づくりやまちづくりに対して総合的に取り組む能力を身につけた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質は以下のとおりです。	
1	「関心・意欲・態度」	1	「関心・意欲・態度」	1	「関心・意欲・態度」
1）	社会に対して広く関心を持ち、よりよい社会づくりに向けて能動的に行動できること	1）	社会に対して広く関心を持ち、よりよい社会づくりに向けて能動的に行動できること	1）	社会に対して広く関心を持ち、よりよい社会づくりに向けて能動的に行動できること
2）	多様な価値観を受容し、合意形成に向けて努力できること	2）	多様な価値観を受容し、合意形成に向けて努力できること	2）	環境問題の解決やよりよい社会づくりに貢献するための利他的な姿勢を持つことで「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格を形成していること。
3）	環境問題の解決やよりよい社会づくりに貢献するための利他的な姿勢を持つことで「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格を形成していること	3）	環境問題の解決やよりよい社会づくりに貢献するための利他的な姿勢を持つことで「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格を形成していること	3）	自ら目標を設定し、生涯にわたって自律的に学習できること。
2	「思考・判断」	2	「思考・判断」	2	「思考・判断」
1）	環境政策や都市・まちづくりの分野で起こっている問題事象を的確に把握し、解決への提案ができること	1）	地域で起こっている問題事象を的確に把握し、解決への提案ができること	1）	地域で起こっている問題事象を的確に把握し、解決への提案ができること。
2）	自らが設定した問題について、適切な情報収集・分析を行い、論理的な思考展開が図れること	2）	自らが設定した問題について、適切な情報収集・分析を行い、論理的な思考展開が図れること	2）	自らが設定した問題について、適切な情報収集・分析を行い、論理的な思考展開が図れること。
3）	ネットワーク社会にふさわしい新しい社会システムを提案し、実践できること	3）	ネットワーク社会にふさわしい新しい社会システムを提案し、実践できること	3）	収集した情報について、適切な評価を行い、活用できること。
				4）	ネットワーク社会にふさわしい新しい社会システムを提案し、実践できること。
3	「技能・表現」	3	「技能・表現」	3	「技能・表現」
1）	対話を通じて他者を理解したり、自らの考えを他者にわかりやすく伝えることができるコミュニケーション能力を身につけていること	1）	対話を通じて他者を理解し、自らの考えを他者にわかりやすく伝えることができるコミュニケーション能力を身につけていること	1）	対話を通じて他者を理解し、自らの考えを他者にわかりやすく伝えることができるコミュニケーション能力を身につけていること。
2）	国際的な活躍ができるよう、一つ以上の外国語を活用できること	2）	国際的な活躍ができるよう、一つ以上の外国語を活用できること	2）	多様な人々と活動できる能力を身につけていること。
				3）	国際的な活躍ができるよう、一つ以上の外国語を活用できること。
4	「知識・理解」	4	「知識・理解」	4	「知識・理解」
1）	社会を広く理解し深い思考ができるための教養を身につけていること	1）	社会を広く理解し深い思考ができるための教養を身につけていること	1）	社会を広く理解し深い思考ができるための教養を身につけていること。
2）	環境政策や都市・まちづくりの分野について、基礎的な知識を持ち、それを実践に結びつけることができること	2）	総合的なまちや地域のあり方について、基礎的な知識を持ち、それを実践に結びつけることができること	2）	総合的なまちや地域のあり方について、基礎的な知識を持ち、それを実践に結びつけることができること。
				3）	多様な価値観を受容し、合意形成に向けて努力できること。

入学者数・出願数からみる総合社会学部の 10 年

入試対策委員会　堀田美保

総合社会学部は，社会・マスメディア系専攻 210 名，心理系専攻 120 名，環境系専攻 120 名，計 450 名という募集定員でスタートした．その後，平成 29（2017）年度には，各定員を 1.13 倍に増やし，現在は各専攻，順に 238 名, 136 名, 136 名の計 510 名の募集定員となっている．

Figure 1 に示されるように，各年度の入学者数を男女別にみると，心理系専攻では女子率が，環境・まちづくり系専攻では男子率が，一貫して他方よりも高く，社会・マスメディア系専攻では，年度によって男女の比率は 50％前後を変動する．そのような各専攻の傾向により，学部全体としては，女子率が常に 45 ～ 50％と安定しており，非常にバランスのいい状態がこの 10 年間続いている．文系の他学部と比較してみても（Table 1），まさに「ちょうど半々」という位置にあり，女子率の向上が求められているとは言え，社会における多様な問題の提起や解決の提案を教育の目標として掲げる本学部としては，少なくとも男女という点で両者の経験や視点を，さまざまな教育場面で互いに共有できる環境は望ましいと言えるのではないだろうか．[1)]

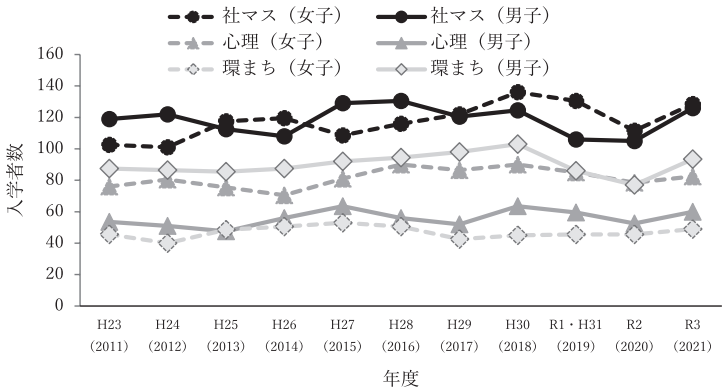


Figure 1.　入学者数の推移 [2)]

Table 1.　文系学部における女子率（%） [3)]

学部	出願数	合格者
総合社会学部	49.3	50.7
法学部	29.9	31.8
経済学部	19.7	21.3
経営学部	32.1	34.2
文芸学部	51.2	54.6
国際学部	61.8	60.2

1）　性・ジェンダーといった点では，より多様なあり方からの経験や価値観を共有できる環境が望まれるが，それが実現されているか否について入試関連のデータからの議論は難しい．

2）　各年度による変動を平滑化するために，2 年間の単純移動平均（その年度と前年度の平均）を算出した．各専攻名は短縮版を使用．

3）　近畿大学（2021）．2021 年度（令和 3 年度）入試データ　『令和 4 年度　入学試験要項（p.132)』に基づき作成．

次に，出願数の推移を見てみると（Figure 2），学部創設から令和に入るまで，順調にその数を増やしている．3 専攻の変動は同期しており，総合社会学部全体として受験生からの関心を集めていると言えるだろう．

その後，出願数は減少傾向となっているが，これについては，当時の大学受験全体の動向が影響していることに留意が必要である．文部科学省が，平成 27（2015）年 7 月 10 日付けで，「平成 31 年度から入学定員充足率が 1.0 倍を超える入学者がいた場合，超過入学者数に応じた学生経費相当額を減額する措置を導入する」という通達を出した（27 文科高第 361 号・私振補第 30 号）．いわゆる「定員管理の厳格化」であり，学生数が定員を超過している大学に対して補助金交付を打ち切るという策を段階的に開始した．本学を含め，私立大学は超過回避のために，合格者数を抑えることを余儀なくされた．受験生は，合格ラインの実質的引上げを予測し，その対策として併願校の数を増やす受験生が増加したと分析されている．

したがって平成 28（2016）年度から令和元（2019）年度までの期間はその影響が出願数の大幅な増加の大きな要因として考慮する必要がある．よって，図中の点線の傾きに示した，それ以前の期間から現在の推移を実質的な伸びとみることがより現実的であるが，それでも，それらの傾きから，3 専攻ともが着実に漸増を続けていることが見て取れる．

本特別号で展開されている他の分析により，総合社会学部におけるこの着実な出願数増加の要因が明らかにされるであろうが，それとともに，次の 10 年に為すべき課題も提起されるであろう．それらを教職員が真摯に受け止め行動に移すことで，20 周年の折にはその成果が数字として表れることを楽しみにしたい．

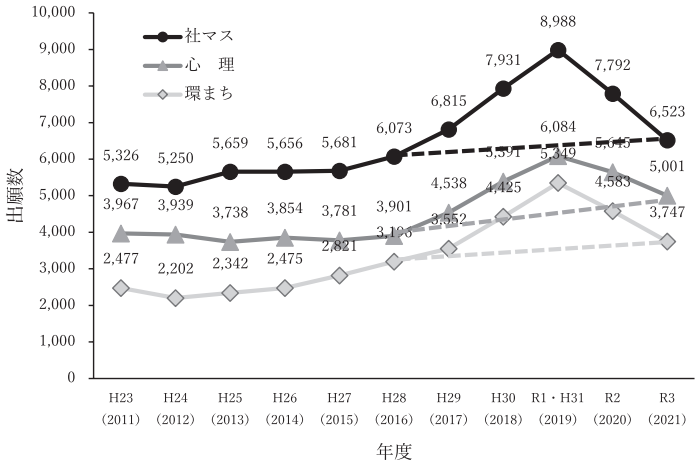


Figure 2.　出願数の推移 [4)]

4)　出願数についても同様に各年度による変動を平滑化するために，2 年間の単純移動平均で図を作成した．

各専攻および語学教育のカリキュラムの変遷

社会・マスメディア系専攻

二木一夫

2回にわたる改訂

社会・マスメディア系専攻は，2015年度と2018年度にカリキュラムを改訂した．学生によりよい教育内容を提供することが改訂の目的である．

学部設立時

2010年度の学部設立時，社会・マスメディア系専攻の専門科目は82科目が配置された．「専攻共通科目」26科目，「専門発展科目」52科目，「インターンシップ科目」4科目の構成である．学生は2年次進級時，「現代社会コース」と「マスメディアコース」に分けられ，「専門発展科目」は現代社会コースに23科目，マスメディアコースに29科目が配置された．

第1回改訂

2015年度のカリキュラム改訂により，専門科目は合計72科目と10科目減った．構成は「専門基礎科目」25科目，「専門発展科目I」24科目，「専門発展科目II」20科目，「インターンシップ科目」3科目である．「専門発展科目I」は，「生活理解群」「社会理解群」「国際理解群」「科学と人間群」「メディア群」「資格科目」の6つの群に分けられた．この改訂により，学生のコース分けは1年遅い3年次進級時となった．「専門発展科目II」の科目は，「現代社会コース」「マスメディアコース」「卒業論文・卒業制作科目群」の3グループに分けられた．

第2回カリキュラム改訂

2018年度の改訂により専門科目は合計78科目と前回より6科目増えた．構成は「専門基礎科目」25科目，「専門発展科目I」30科目，「専門発展科目II」20科目，「インターンシップ科目」3科目である．「専門発展科目I」の群の数は6から5に変更され，「生活理解群」「社会理解群」「国際理解群」「メディア群」「方法論群」と銘打たれた．

その他

社会・マスメディア系専攻は学部設立以来，3・4年次の演習，卒業論文・卒業制作は必修科目である．修得単位は2015年度の改訂時に変更があった．学部設立時は3年次演習が前期1単位・後期1単位，4年次演習が前期1単位・後期1単位，卒業論文・卒業制作が8単位だったが，3年次演習が前期1単位・後期1単位，4年次演習が前期2単位・後期2単位，卒業論文・卒業制作が6単位に変更された．

文献

近畿大学総合社会学部，2010，『総合社会学部2010履修要項』
近畿大学総合社会学部，2015，『総合社会学部2015履修要項』
近畿大学総合社会学部，2018，『総合社会学部2018履修要項』

2010 年度～ 2014 年度の社会・マスメディア系専攻の専門科目

科目区分		他専攻	授業科目の名称	配当学年	必修選択	単位数
専攻共通科目		○	社会学理論A	1		2
		○	社会学理論B	1		2
			社会調査法A	1		2
			社会調査法B	1		2
			統計学A	1		2
			統計学B	1		2
		○	情報社会学	1		2
		○	国際社会学	1		2
		○	社会学史	1		2
		○	現場からの放送論	1		2
		○	現場からの新聞論	1		2
			日本語文章力養成講座ＩＡ	1		2
			日本語文章力養成講座ＩＢ	1		2
			時事教養力養成講座ＩＡ	1		2
			時事教養力養成講座ＩＢ	1		2
			量的解析法	2		2
			質的分析法	2		2
			社会調査実習A	3		1
			社会調査実習B	3		1
			基礎講読（鑑賞）A	2	必修	2
			基礎講読（鑑賞）B	2	必修	2
			演習ＩＡ	3	必修	1
			演習ＩＢ	3	必修	1
			演習ＩＩＡ	4	必修	1
			演習ＩＩＢ	4	必修	1
			卒業論文・卒業制作	4	必修	8
現代社会コース	専門発展科目	○	経済社会学A	2		2
		○	経済社会学B	2		2
		○	現代社会論A	2		2
		○	現代社会論B	2		2
		○	現代社会論C	2		2
		○	現代社会論D	2		2
		○	コミュニケーション論A	2		2
		○	コミュニケーション論B	2		2
		○	現代文化論A	2		2
		○	現代文化論B	2		2
		○	国際地域論A	2		2
		○	国際地域論B	2		2
		○	国際経済論A	2		2
		○	国際経済論B	2		2
		○	ネットワーク論A	2		2
		○	ネットワーク論B	2		2
		○	NPO/NGO論	2		2
		○	国際関係史	2		2
		○	国際法	2		2
		○	コミュニティー開発論	2		2
		○	文化人類学	2		2
		○	多文化共生論	2		2
		○	情報と社会	2		2

科目区分		他専攻	授業科目の名称	配当学年	必修選択	単位数
マスメディアコース	専門発展科目	○	映像活字メディア論A	2		2
		○	映像活字メディア論B	2		2
		○	映像活字メディア論C	2		2
		○	出版論	2		2
		○	広告論	2		2
		○	メディアの法と倫理	2		2
		○	犯罪社会学	2		2
		○	広報論	2		2
		○	文章映像表現論A	2		2
		○	文章映像表現論B	2		2
		○	文章映像表現論C	2		2
		○	文章映像表現論D	2		2
		○	エンターテイメント論	2		2
		○	Introduction to Journalism	2		2
		○	Practice in Journalism	2		2
		△	映像制作演習	2		2
		△	新聞制作演習	2		2
		△	時事教養力養成講座ＩＩＡ	2		2
		△	時事教養力養成講座ＩＩＢ	2		2
		△	時事教養力養成講座ＩＩＩＡ	3		2
		△	時事教養力養成講座ＩＩＩＢ	3		2
		△	時事教養力養成講座ＩＶＡ	4		2
		△	時事教養力養成講座ＩＶＢ	4		2
		△	日本語文章力養成講座ＩＩＡ	2		2
		△	日本語文章力養成講座ＩＩＢ	2		2
		△	日本語文章力養成講座ＩＩＩＡ	3		2
		△	日本語文章力養成講座ＩＩＩＢ	3		2
		△	日本語文章力養成講座ＩＶＡ	4		2
		△	日本語文章力養成講座ＩＶＢ	4		2
インターンシップ科目			インターンシップⅠ	1		2
			インターンシップⅡ	1		2
			インターンシップⅢ	1		2
			インターンシップⅣ	1		2

2015 年度～ 2017 年度の社会・マスメディア系専攻の専門科目

科目区分		他専攻	授業科目の名称	配当学年	必修選択	単位数
専門基礎科目			日本語文章力養成A	1		2
			日本語文章力養成B	1		2
		□	社会調査法A	1		2
		□	社会調査法B	1		2
		○	社会システム論A	1		2
		○	社会システム論B	1		2
		○	国際社会学	1		2
			メディア概論A	1		2
			メディア概論B	1		2
			現場からの放送論	1		2
			現場からの新聞論	1		2
		○	社会学総論A	2		2
		○	社会学総論B	2		2
		○	グローバルヒストリー	2		2
		○	地理学概論	2		2
		○	現代政治概論	2		2
		○	経済学概論	2		2
		○	国際開発協力論	2		2
		○	科学的思考法	2		2
		○	時事総論A	2		2
		○	時事総論B	2		2
			基礎講読（鑑賞）A	2	必修	2
			基礎講読（鑑賞）B	2	必修	2
		□	社会調査実習A	3		1
		□	社会調査実習B	3		1
専門発展科目Ⅰ	生活科目群	○	NPO/NGO論	2		2
		○	多文化共生論	2		2
		○	環境民俗論	2		2
		○	地域社会論	2		2
	社会理解群	○	社会学史	2		2
		○	現代文化論	2		2
	国際理解群	○	国際関係論	2		2
		○	国際理解教育	2		2
		○	文化人類学	2		2
	科学と人間群	○	情報と社会	2		2
		○	ネットワーク論	2		2
		○	リスクアセスメント	2		2
	メディア群	○	広告論	2		2
		○	広報論	2		2
			映像制作演習	2		2
			映像表現論A	2		2
			映像表現論B	2		2
			ジャーナリズム論A	2		2
			ジャーナリズム論B	2		2
			出版論	2		2
	資格科目	□	量的解析法	2		2
		□	質的分析法	2		2
		□	社会統計学A	2		2
		□	社会統計学B	2		2

科目区分		他専攻	授業科目の名称	配当学年	必修選択	単位数
専門発展科目Ⅱ	現代社会コース	○	コミュニケーション論	3		2
		○	社会ネットワーク分析	3		2
		△	ドキュメンタリー制作	3		2
		○	地域・コミュニティ開発論	3		2
		○	経済と社会	3		2
		○	天文学と文明	3		2
		○	都市論	3		2
		○	国際標準化論	3		2
	マスメディアコース	○	芸術メディア論A	3		2
		○	芸術メディア論B	3		2
		○	メディア・コンテンツ論	3		2
		○	映像表現論C	3		2
		○	映像表現論D	3		2
		△	マスメディア特講A	3		2
		△	マスメディア特講B	3		2
	卒業論文・卒業制作科目群		演習1A	3	必修	1
			演習1B	3	必修	1
			演習2A	4	必修	2
			演習2B	4	必修	2
			卒業論文・卒業制作	4	必修	6
インターンシップ科目			インターンシップⅠ	1		2
			インターンシップⅡ	1		2
			インターンシップⅢ	1		2

2018 年度～ 2021 年度の社会・マスメディア系専攻の専門科目

科目区分		他専攻	授業科目の名称	配当学年	必修	単位数
専門基礎科目			日本語文章力養成A	1		2
			日本語文章力養成B	1		2
		□	社会調査法A	1		2
		□	社会調査法B	1		2
			フィールドワークA	1		2
			フィールドワークB	1		2
		○	社会システム論A	1		2
		○	社会システム論B	1		2
		○	国際社会学	1		2
			メディア概論A	1		2
			メディア概論B	1		2
			現場からの放送論	1		2
			現場からの新聞論	1		2
		○	社会学総論A	2		2
		○	社会学総論B	2		2
		○	グローバルヒストリー	2		2
		○	地理学概論	2		2
		○	現代政治概論	2		2
		○	経済学概論	2		2
		○	国際開発協力論	2		2
		○	科学的思考法	2		2
		○	時事総論A	2		2
		○	時事総論B	2		2
			基礎講読（鑑賞）A	2	必修	2
			基礎講読（鑑賞）B	2	必修	2
専門発展科目Ⅰ	生活科目群	○	NPO/NGO論	2		2
		○	多文化共生論	2		2
		○	環境民俗論	2		2
		○	地域社会論	2		2
	社会理解群	○	社会学史	2		2
		○	現代文化論	2		2
		○	現代社会論A	2		2
		○	現代社会論B	2		2
	国際理解群	○	国際関係論	2		2
		○	国際理解教育	2		2
		○	文化人類学	2		2
		○	情報と社会	2		2
		○	ネットワーク論	2		2
		○	リスクアセスメント	2		2
	メディア群		広告論	2		2
			広報論	2		2
			映像制作演習	2		2
			映像表現論A	2		2
			映像表現論B	2		2
			ジャーナリズム論A	2		2
			ジャーナリズム論B	2		2
			出版論	2		2
			日本語文章力養成C	2		2
			日本語文章力養成D	2		2
	方法論群	□	量的解析法	2		2
		□	質的分析法	2		2
		□	社会統計学A	1		2
		□	社会統計学B	1		2
		□	社会調査実習A	3		1
		□	社会調査実習B	3		1

科目区分		他専攻	授業科目の名称	配当学年	必修	単位数
専門発展科目Ⅱ	現代社会コース	○	コミュニケーション論	3		2
		○	社会ネットワーク分析	3		2
		△	ドキュメンタリー制作	3		2
		○	地域・コミュニティ開発論	3		2
		○	経済と社会	3		2
		○	天文学と文明	3		2
		○	都市論	3		2
		○	国際標準化論	3		2
	マスメディアコース	○	芸術メディア論A	3		2
		○	芸術メディア論B	3		2
		○	メディア・コンテンツ論	3		2
		○	映像表現論C	3		2
		○	映像表現論D	3		2
		△	マスメディア特講A	3		2
		△	マスメディア特講B	3		2
	卒業論文・卒業制作科目群		演習1A	3	必修	1
			演習1B	3	必修	1
			演習2A	4	必修	2
			演習2B	4	必修	2
			卒業論文・卒業制作	4	必修	6
インターンシップ科目			インターンシップⅠ	1		2
			インターンシップⅡ	1		2
			インターンシップⅢ	1		2

心理系専攻　カリキュラムの変遷

漆原宏次

総合社会学部心理系専攻では，平成22年度（2010年度）の設立以来,2度にわたりカリキュラムが改訂されてきた．設立時のカリキュラムが適用されたのは平成26年度（2014年度）入学生までであり，平成27年度（2015年度）入学生を迎えるタイミングで1回目のカリキュラム改訂が，平成30年度（2018年度）入学生を迎えるタイミングで2回目のカリキュラム改訂が，それぞれ行われた．本稿では，専攻設立時のカリキュラムから現在に至るまで，どのような狙いのもと，どのようにカリキュラム改訂が行われたかについて，心理系専攻の専門科目を中心にまとめ，現在の心理系専攻のカリキュラムの特色を改めて明確にする．

平成22年度設立時から現在まで，卒業要件単位の126単位のうち，専門科目が84単位という割り当てに変更はないが，専門科目の内訳には少し変化がある．総合社会学部設立時には，専門科目84単位のうち，12単位を学部共通コア科目としていたが，平成27年度の第1回目のカリキュラム改訂では，学部共通コア科目は6単位となり，その分，その他の専門科目の比重が増加している（72単位→78単位）．専門発展科目に変更はなく，専門基礎の必修科目が2単位，専門科目全体から自由に選べる科目が4単位，それぞれ増えている．また，平成30年度の第2回目のカリキュラム改訂では，それまでの専門発展科目が，専門発展科目Ⅰ，Ⅱと分けられ，それに伴って，専門発展科目が46単位となり，全体から自由に選択される科目がその分減っている．専攻独自の専門性をより重視する方向でカリキュラムが変遷してきたことが伺える．

総合社会学部設立以降，現在までの心理系専攻のカリキュラムに共通するのは，卒業に必要な単位を取得する過程で，認定心理士資格取得に必要な単位を無理なく修得できるよう配慮されている点である．これは心理系専攻のカリキュラムが，心理学の幅広い分野からバランスよく，十分に学習することが可能となっていることの証左といえる．また，2018年度に行われた2回目のカリキュラム改訂では，心理学の国家資格である公認心理師の資格取得に対応した学部カリキュラムとなった．心理学の基礎的な知識や技法をバランスよく十分に身につけたうえで，さらに専門的な知識・技能が修得できるようになっている．

これら2回のカリキュラムの改訂において，どのような科目が削減され，またどのような科目が追加されたのかをより具体的にみていく．表1は，平成27年度（2015年度）に行われた1回目のカリキュラム改訂前後の科目を比較したものである．目を引く変更としては，選択必修科目として,「自然科学と心理学」「社会科学と心理学」が追加された点があげられる．これらはいずれも，心理学の周辺領域との関連を強調した科目であり，同時に行われた学部共通コア科目の整理と対応している．また,「心理統計3」「実験プログラミング演習」「コミュニケーション心理学実習」など，心理学研究に必須の専門的知識・スキルをより高いレベルで身につけることを狙いとした科目が，専門基礎科目に追加されている．それと同時に,「心理アセスメント」など，いくつかの臨床的技能・知識に関する科目が，専門基礎科目から専門発展科目へと分類されている．基礎的知識・技能に関する科目を専門基礎科目として拡充し，専門的知識・技能に関する科目をより掘り下げる形での科目の整理が進んだとみることができる．

平成30年度（2018年度）に行われた2回

目のカリキュラム改訂では，先述したように，国家資格である公認心理師取得に対応することを目的として，科目名，科目内容ともに大きな改変が行われた．表 2 は，2018 年度カリキュラム改変前後での科目をまとめたものである．まず，これまでに設けられていた専門発展科目の多くは，A，B という形で半年ずつ，通年開講されるものが多かったが，これらの一方の科目名を公認心理師資格取得に必要であると定められたものへと変更し，もう一方を専門発展科目として開講する形とした．こうすることで，心理学の幅広い分野からバランスよく十分に学ぶことができるという，これまでの心理系専攻のカリキュラムの長所をそのままに，公認心理師の資格取得を目指す学生にも対応可能となった．これに沿って，これまでの専門発展科目を，「専門発展科目Ⅰ」「専門発展科目Ⅱ」と 2 つに分け，前者を専門発展科目Ⅱ，後者を専門発展科目Ⅰへと位置付けた．また，公認心理師資格取得に必要な科目群「公認心理師の職責」「関係行政論」などが新たに開講されることとなった．これらの科目の増加に伴い，「インターンシップ」「産業カウンセリング」などの専門発展科目のいくつかは，削除あるいは科目名を変更するなどの形で整理が行われた．また，公認心理師資格取得には実習科目の修得が非常に重要であるが，1 年次から必要な科目を積み上げ，最終学年で「心理実習」を修得できるように，いくつかの科目の配当年次に変更が加えられた．

2018 年度のカリキュラム改変では，公認心理師資格取得対応だけではなく，卒業論文提出を目標とした基礎固めという点でもいくつかの変更が加えられた．入学間もない時点から心理学の奥深さと面白さを体験してもらうことを狙いとして，1 年次に専門基礎科目として「心理学入門」を新たに設定した．この授業では，各教員がリレー形式で，自分の研究分野の面白さ，自分がこの研究分野と出会ったなれそめなどを伝えることで，新入生に心理学という分野，そしてそれを教えている各教員を身近なものとして感じてもらおうという狙いがある．また，これまではゼミ配属の後，3 年時の前期・後期に論文講読の授業を配置していたが，このうちの 1 つを「心理学研究基礎」という名称で 2 年次後期に前倒しして配置し，ゼミ配属以前から専門的な文献や実際の研究にふれることができるように改変した．こうすることで，2 年次の最後に行われるゼミ選択の際に，より専門的な視点から，より実りの多い選択ができると期待されている．

ここまで，心理系専攻のカリキュラムの変遷について概観した．2 回のカリキュラム改訂のうち，特に 2 回目は，国家資格に対応するために，非常に変化が大きいものとなった．このように，心理系専攻での学びはこの 10 年間でも大きくその形を変えてきている．しかし，専攻の設立時から，2 回のカリキュラム改変を通じて一貫しているのは，専門基礎科目を中心に十分な基礎的知識・スキルを修得し，そしてそれらを存分に活用しつつ，バラエティに富んだ専門発展科目で，より専門的な知識・スキルをバランスよく，十分に深く修得することを目指すという姿勢である．そして，これらの大学での学びが，4 年次に取り組む卒業論文に十分に生かされているか，大学院進学後のより専門的な学びに，基礎としてしっかりと根を張っているか，卒業後様々な職場で，生きた知識やスキルとして活用されているかなど，いかにして「活きた」学びとなっているかを，これからも問い続けることが重要であると考える．

表１　2015 年度に行われた第１回カリキュラム改変前後の心理系専攻専門科目

	2015年度-2017年度入学生			
	授業科目	配当学年	単位数	必修
専門基礎科目	心理学概論A･B	1	各2	※
	心理学研究法	1	2	※
	自然科学と心理学	1	2	※選択
	社会科学と心理学	1	2	
	心理学史	1	2	
	心理統計Ⅰ	1	2	※
	心理統計2	1	2	
	心理統計3	3	2	
	心理測定法	2	2	
	実験プログラミング演習	3	1	
	コミュニケーション心理学実習	2	1	
	心理学実験A･B	2	各2	
	心理調査法	2	2	
専門発展科目	心理療法概論	3	2	
	心理アセスメント	3	2	
	カウンセリング実習	3	2	
	知覚心理学A･B	2	各2	
	認知心理学A･B	2	各2	
	学習行動論A･B	2	各2	
	行動発達学A･B	2	各2	
	臨床発達心理学A･B	2	各2	
	社会心理学A･B	2	各2	
	家族心理学A･B	2	各2	
	犯罪心理学A･B	2	各2	
	健康心理学A･B	2	各2	
	産業心理学A･B	2	各2	
	臨床心理学A･B	2	各2	
	生理心理学A･B	2	各2	
	比較行動学A･B	2	各2	
	感情心理学A･B	2	各2	
	性格心理学A･B	2	各2	
	キャリア心理学	2	2	
	精神医学	2	2	
	心理学講読1･2	3	各2	※
	演習1A･B	3	各1	※
	演習2A･B	4	各2	※
	卒業論文	4	6	※
	産業カウンセリング	2	2	
	インターンシップⅠ	2	2	
	インターンシップⅡ	3	2	
	インターンシップⅢ	3	2	

	2010-2014年度入学生			
	授業科目	配当学年	単位数	必修
専門基礎科目	心理学概論A･B	1	2	※
	心理学研究法	1	2	※
	心理学史	1	2	
	心理統計A	1	2	※
	心理統計B	2	2	
	心理測定法	2	2	
	心理学実験A･B	2	各2	
	心理調査法	2	2	
	カウンセリング論	2	2	
	心理アセスメント	3	2	
	カウンセリング実習	3	2	
	心理面接技法	2	2	
専門発展科目	知覚心理学A･B	2	各2	
	認知心理学A･B	2	各2	
	学習行動論A･B	2	各2	
	行動発達学A･B	2	各2	
	学校心理学A･B	2	各2	
	社会心理学A･B	2	各2	
	家族心理学A･B	2	各2	
	犯罪心理学A･B	2	各2	
	健康心理学A･B	2	各2	
	産業心理学A･B	2	各2	
	臨床心理学A･B	2	各2	
	生理心理学A･B	2	各2	
	比較行動学A･B	2	各2	
	感情心理学A･B	2	各2	
	性格心理学A･B	2	各2	
	集団心理学A･B	2	各2	
	キャリアカウンセリング	2	2	
	心理学講読A･B	3	各2	※
	演習ⅠA･B	3	各1	※
	演習ⅡA･B	4	各1	※
	卒業論文	4	8	※
	産業カウンセリング	2	2	
	インターンシップⅠ	2	2	
	インターンシップⅡ	3	2	
	インターンシップⅢ	3	2	

※各時点でのカリキュラムにおいて，科目名が異なっていても内容が近い科目については同じ行に配置した.

表 2　2018 年度に行われた第 2 回カリキュラム改変前後の心理系専攻専門科目

	2018年度以降入学生					2015-2017年度入学生			
	授業科目の名称	配当学年	単位数	必修		授業科目の名称	配当学年	単位数	必修
専門基礎科目	心理学概論A・B	1	各2	※	専門基礎科目	心理学概論A・B	1	2	※
	心理学研究法	1	2	※		心理学研究法	1	2	※
	心理学入門	1	2	※					
	自然科学と心理学	1	2	※選択		自然科学と心理学	1	2	※選択
	社会科学と心理学	1	2			社会科学と心理学	1	2	
	心理学史	1	2			心理学史	1	2	
	心理学統計法1	1	2	※		心理統計1	1	2	※
	心理学統計法2	2	2			心理統計2	1	2	
	心理学統計法3	3	2			心理統計3	3	2	
	心理測定法	2	2			心理測定法	2	2	
						心理調査法	2	2	
	実験プログラミング演習	3	1			実験プログラミング演習	3	1	
	コミュニケーション心理学実習	2	1			コミュニケーション心理学実習	2	1	
	心理学実験A・B	2	各2			心理学実験A・B	2	各2	
専門発展科目Ⅰ	知覚心理学	2	2		専門発展科目	知覚心理学A	2	2	
	認知心理学	2	2			認知心理学B	2	2	
	学習行動論	2	2			学習行動論B	2	2	
	行動発達学	2	2			行動発達学B	2	2	
	発達心理学	2	2			臨床発達心理学A	2	2	
	社会心理学	2	2			社会心理学A	2	2	
	家族心理学	2	2			家族心理学A	2	2	
	犯罪心理学	2	2			犯罪心理学B	2	2	
	健康心理学	2	2			健康心理学A	2	2	
	産業心理学	2	2			産業心理学A	2	2	
	臨床心理学概論	2	2			臨床心理学A	2	2	
専門発展科目Ⅱ	知覚・認知心理学	2	2			認知心理学A	2	2	
	神経・生理心理学	2	2			生理心理学B	2	2	
	情報処理心理学	2	2			知覚心理学B	2	2	
	比較行動学	2	2			比較行動学A	2	2	
	進化心理学	2	2			比較行動学B	2	2	
	学習・言語心理学	2	2			学習行動論A	2	2	
	行動・発達心理学	2	2			行動発達学A	2	2	
	社会・集団・家族心理学	2	2			社会心理学B	2	2	
	感情・人格心理学	2	2			感情心理学A	2	2	
	司法・犯罪心理学	2	2			犯罪心理学A	2	2	
	教育・学校心理学	2	2			性格心理学B	2	2	
	障害者・障害児心理学	2	2			臨床発達心理学B	2	2	
	福祉心理学	2	2			臨床心理学B	2	2	
	健康・医療心理学	2	2			健康心理学B	2	2	
	産業・組織心理学	2	2			キャリア心理学	2	2	
	人体の構造と機能及び疾病	1	2						
	精神疾患とその治療	2	2			精神医学	2	2	
	心理学的支援法	3	2			心理療法概論	3	2	
	心理的アセスメント	3	2			心理アセスメント	3	2	
	関係行政論	2	2						
	心理学研究基礎	2	2	※		心理学講読1 （後期開講）	3	2	※
	心理学講読	3	2	※		心理学講読2 （前期開講）	3	2	※
	演習1A・B	3	各1	※		演習1A・B	3	各1	※
	演習2A・B	4	各2	※		演習2A・B	4	各2	※
	卒業論文	4	6	※		卒業論文	4	6	※
	公認心理師の職責	3	2						
	心理演習	3	2			カウンセリング実習	3	2	
	心理実習	4	2			インターンシップⅡ	3	2	
						産業カウンセリング	2	2	
						生理心理学A	2	2	
						産業心理学B	2	2	
						感情心理学B	2	2	
						性格心理学A	2	2	
						家族心理学B	2	2	
						インターンシップⅠ	2	2	
						インターンシップⅢ	3	2	

環境・まちづくり系専攻のカリキュラムの変遷

環境・まちづくり系専攻　教務委員　内海秀樹，田中晃代，石原　肇

はじめに

本稿は，第一著者がまとめたもので，2015年度カリキュラム改定作業に携わった経験や他の専攻教員から聞き取った内容等を反映し，可能な限り専攻の意向を正確に記述することを意図しているが，最終的な文責は第一著者にあることをまずはお断りしておきたい．

環境・まちづくり系専攻は，設立当初「環境系専攻」として発足した．現在の名称は，2015年度（平成27年度）以降のカリキュラム改定と同時に変更されたものである．名称の変更はカリキュラムの改定に伴ったものではなく，改定以前からカリキュラムが備えていた内容を外部からもわかりやすく表現するためであった．

環境系専攻は，文理融合を標榜し文系でありながら環境について学べる初の学部として発足したが，環境を理解する上では理系の素養を身につけることは避けられない．文系で募集する故，入試科目として理系科目を全員には課していないが，「環境は理系」という印象が当時は強く，受験生の理解が得られるか未知数の状況下での船出となった．

それ故，最初のカリキュラム改定の機会に科目構成を見直すことを想定したものとなっており，予定より1年遅れではあったが見直しがおこなわれた．本稿では，主にこの改定について記す．カリキュラムの改定は現在まで，この他に1回，軽微なものを行っている．

なお以降，設立当初のカリキュラムを「2010年度カリキュラム」，第1回改定後のカリキュラムを「2015年度カリキュラム」，第2回改定から現在のカリキュラムを「2018年度カリキュラム」と表記する．

カリキュラムの変遷

2010年度カリキュラムから2015年度カリキュラムへの改定

科目区分の変更

環境系専攻は，「地球環境コース」と「都市・まちづくりコース」の2コース制を採用していた．両コース共通の「専攻共通科目」に加えて，「地球環境コース」は「専門発展科目（環境政策分野）」と「専門発展科目（環境情報分野）」の2つ，「都市・まちづくりコース」は「専門発展科目」の1つの科目群からそれぞれコースに応じた履修を行った．「地球環境コース」の方が「都市・まちづくりコース」よりも提供科目数がやや多い分だけ履修がしやすい状況ではあった．

環境・まちづくり系専攻になり，コース制は廃止され「専門基礎科目」と「専門発展科目」の2つの科目群からそれぞれ履修するように再構成され，これで専攻の学生の履修環境に差はなくなった．また，区切りを簡素化することによって，学生各自のニーズに応じた，より柔軟な履修が可能になった．

以降，継続された科目と廃止された科目，新設された科目に分けて述べる．

継続された科目

2015年度から始まった第1回の改定前後のカリキュラムを比較し継続された科目を表1に，廃止された科目および新設された科目を表2に示す．名称ではなく授業内容が変わらなかった科目を「継続された科目」としている．

主要な科目は継続され，全体的な特徴として個別科目が多い2010年度カリキュラムに対して，系統立てた履修を促進する為にいくつかの群に再編し，学生が科目名から容易に系統を判別し履修計画を立てられるように配慮

表 1　2010 年度／ 2015 年度カリキュラム比較表（継続された科目）

2010年度カリキュラム				2015年度カリキュラム			
授業科目の名称	資格	単位数	配当学年	授業科目の名称	資格	単位数	配当学年
環境学概論A※必修（以降同じ）	2	2	1	環境・まちづくり概論A※		2	1
環境学概論B※	2	2	1	環境・まちづくり概論B※	2	2	1
自然環境理解		2	1	数理的思考		2	1
社会環境理解		2	1	ポスト近代社会論1	2	2	1
環境問題の歴史		2	1	環境政策学1	2	2	1
環境倫理学		2	1	環境計画論1	2	2	2
自然地理学	2	2	1	自然地理学1	2,5	2	2
生態学	3	2	1	自然環境論1	2	2	1
ポスト近代社会論		2	1	ポスト近代社会論2	2	2	1
環境政策学	2	2	2	環境政策学2	2	2	2
環境経済学	2	2	2	環境政策学3	2	2	3
社会調査実習	1,2	2	3	演習4	1,2,4,5	2	3
演習A※		2	2	演習1※	1,2	2	2
演習B※		2	2	演習2※	1,2	2	2
卒業研究ゼミナールA※		1	3	卒業研究ゼミナール1※		1	3
卒業研究ゼミナールB※		1	3	卒業研究ゼミナール2※		1	3
卒業論文※	4	8	4	卒業論文※	4,5	6	4
環境ライフスタイル論	2	2	2	資源循環論	3	2	2
資源エネルギー論	2	2	2	エネルギー論	2	2	3
環境マネージメント	2	2	3	環境計画論2	2	2	3
環境教育論	2	2	3	環境教育論	2	2	3
世界遺産の保全		2	3	特別講義1		2	3
環境リスク論	2	2	3	環境計画論3	2	2	3
環境情報処理の基礎	4	2	2	地理情報システム1	2,4,5	2	2
地球環境学	2	2	3	地球環境論1	2,5	2	2
環境統計学	3	2	3	地域・環境統計学	1,5	2	3
空間情報処理論	2,4	2	3	空間情報処理論	4,5	2	3
環境情報演習	2,4	2	3	地理情報システム2	2,4,5	2	2
都市計画史		2	2	都市・地域計画論2	2,5	2	2
市民参加論	3	2	2	まちづくり論1		2	2
環境デザイン	3	2	2	都市・地域計画論1	2,5	2	2
福祉環境論		2	2	特別講義2		2	3
まちづくり論		2	3	まちづくり論2	5	2	3
都市計画論		2	3	都市・地域計画論3	2	2	3
市民組織論	3	2	3	まちづくり論3		2	3
環境防災論		2	3	自然地理学3	2,3,5	2	3
合意形成手法		2	3	ファシリテーション		2	3
社会起業論		2	3	地域経済論3		2	3
インターンシップⅠ		2	1	インターンシップⅠ		2	1
インターンシップⅡ		2	1	インターンシップⅡ		2	2
インターンシップⅢ		2	1	インターンシップⅢ		2	2

資格 1.社会調査士 2.環境マネジメント実務士 3.（2も含む）上級環境マネジメント実務士 4.GIS学術士 5.地域調査士

がなされた.

非常勤教員が担当していた，専任教員では網羅できない科目を専攻ポリシーの観点から吟味した結果，継続すべきとされた科目は，特別講義１および２等と名称を変更した．この名称の変更は，時代の要請に応じた柔軟な科目提供をも可能にした.

CAP 制および共通教養科目や外国語科目の履修状況を考慮し１年次配当科目の一部を２年次へと移動し，「卒業論文」の単位数を８単位から６単位とした.

廃止された科目

ポリシーの内容をより明確に反映させるために見直しがなされ，カリキュラムのスリム化，および，自然科学系の科目の履修に難色を示す学生への配慮がなされた.

具体的には，共通教養科目や外国語科目の配当状況から，１年次配当課目としては効果的な履修を促すことが困難であると考えられた理系科目，および専攻ポリシーからやや離れた科目を中心に廃止がなされた.

社会調査士関連科目である「社会調査論」,

表２　2010 年度／ 2015 年度　カリキュラム比較表（廃止された科目と新設された科目）

2010年度カリキュラムにて廃止された科目			
授業科目の名称	資格	単位数	配当学年
環境基礎数学		2	1
環境基礎物理学		2	1
グローバル化と地域・生活		2	1
環境社会学		2	1
人文地理学	2	2	1
宇宙地球進化論		2	1
持続可能社会論	3	2	2
流れと拡散の科学		2	2
熱の科学		2	2
波動の科学		2	2
社会調査論	1,2	2	3
社会調査法	1,2	2	3
データ分析法	1	2	3
社会統計学	1	2	3
多変量解析法	1	2	3
質的調査法	1	2	3
国際開発協力論		2	2
環境民俗学	3	2	3
環境法	2	2	3
食糧と環境	2	2	3
意思決定支援技法		2	3
複雑系の科学		2	3
環境アセスメント	3	2	3
プログラミング演習A		2	2
プログラミング演習B		2	2
環境心理・行動学		2	2
都市社会学		2	3
都市文化・観光学		2	3
環境建築論		2	3

2015年度カリキュラムにて新設された科目			
授業科目の名称	資格	単位数	配当学年
演習3	1,2	2	3
卒業研究ゼミナール3※必修(以降同じ)		2	4
卒業研究ゼミナール4※		2	4
情報リテラシー演習※	4	2	1
自然地理学2	2,5	2	3
自然環境論2	2	2	3
地球環境論2	2	2	3
情報と環境・社会		2	1
地理情報システム3	2,4,5	2	3
測量演習	4,5	2	2
統計学の基礎		2	2
地域・環境調査論	1,3	2	1
特別講義3		2	3
特別講義4		2	3
地域経済論1		2	2
地域経済論2		2	3

資格 1.社会調査士 2.環境マネジメント実務士 3.(2も含む)上級環境マネジメント実務士 4.GIS学術士 5.地域調査士

「社会調査法」,「データ分析法」,「社会統計学」,「多変量解析法」／「質的調査法」が廃止され，それぞれ「地域・環境調査論」,「演習 1」,「演習 2」,「地域・環境統計学」,「演習 3」へと，一部必修科目に吸収，再構成され資格取得にも配慮した改定が行われた.

新設された科目

2015 年度カリキュラムでは，卒業論文を指導する為の必修科目として「卒業研究ゼミナール 3 および 4」を設け，学生のモチベーションを高める工夫がなされた.

環境・まちづくり系専攻でのカリキュラムがより体系的な科目構成であることを示す為に，継続された科目のみでは不十分な科目が補充されるとともに，科目対応の幅を広げる為,「特別講義 3 および 4」が加えられた.

社会調査士の関連科目として「地域・環境調査論」,「演習 3」が設けられた.

低学年での情報リテラシー教育の必要性が高まったため「情報リテラシー演習」を必修科目として設け，測量士補の資格取得を促進する科目として「測量実習」が設けられた.

2015 年度カリキュラムから 2018 年度カリキュラムへの改定

2018 年度（平成 30 年度）の改定は，測量演習を「デジタル処理演習」とし測量技術に加えて，デジタル処理技術の習得をめざした科目が設置された.

おわりに

文理融合は，まさに「言うは易く行うは難し」であることを改めて実感せざるを得ない 10 年であった．2015 年度の改定にて，カリキュラムのスリム化および科目の系統を明確にした点は，専攻ポリシーとの整合性や分かりやすさを高めたと考えられる．この点では学生に配慮したといえるが，理系科目を削減した故か数量的把握に関して苦手な学生が当初に比べてややみられるようになり，対応を検討すべきとの声も専攻内では聞かれる.

また，専攻ポリシーを実現するカリキュラムを充実させても，運用に問題が生じると意味がない．共通教養科目や外国語科目と専門科目との履修配分に関する CAP 制による制約，施設や設備による制約，資格関連科目や多様な入試による学生の学力差への対応による制約等，専攻や学部でのガバナンスにかかわる部分もあり，今後もポリシーを遵守しつつ状況に応じて他専攻や部門との協力や理解を得ながら不断の改善が行われるであろう.

語学教育のカリキュラムの変遷

西村香奈絵

2010 年度から 2014 年度

開設時，総合社会学部の語学教育は発信型コミュニケーション力をつけることを理念の一つに掲げ，英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語の 5 つの外国語科目が開講されました．最大の特徴は，英語に加え，特に力を入れる外国語としてアジアの二言語において，集中的に学習する専修コース「英語専修」「中国語専修」「韓国語専修」が設置されたことです．学生の将来のキャリア設計に応じて必要な語学力が修得できるようカリキュラムが組まれ，4 年間で 18 単位（英語必修科目 8 単位を含む）の修得が卒業条件とされました．

2015 年度から現在（2021 年度）

2015 年にカリキュラムが改訂されました．最大の変更点は，それまで 2 年次からしか履修できなかった第二外国語科目が 1 年次から履修できるようになった点です．大学時代に第二外国語学習にかけられる時間が増えることで，世界の多様な言語を知り，価値観を学び，多様な文化への知識や理解，寛容さを育む言語教育へと生まれ変わりました．三言語の専修コースは廃止されましたが，英語では，実践的な英語研修の機会を提供するべく，マッコーリー大学（オーストラリア）へのセメスター留学制度（2 年次後期）が開始されました．この留学を含み，体系的に英語のスキルアップが実現できるよう「英語国際プログラム」も立ち上げられました．英語科目も再編成され，1 年次には全員が 15 人程度の少人数でスピーキング練習をするクラス編成の整備などが実現されました．新しいカリキュラムのもと，4 年間で 18 単位（英語必修科目 6 単位を含む）の修得が卒業要件とされています．

英語プレゼンテーションコンテスト
―発信型スキル学習充実化の取り組み―

教養・基礎教育部門　下　絵津子

発表技能活用の機会

総合社会学部が開設されて以来，学部の英語プログラムでは，「英語プレゼンテーションコンテスト」を継続して開催してきた．第１期生が２年生になった2011（平成23）年度に第１回目，その後毎年開催し，2020（令和２）年度には第10回目を迎えた．実践的な英語力の育成をプログラムの主な目標のひとつとし，発表技能（スピーキング・ライティング）の養成をカリキュラムの重要部分に位置づけてきたが，プレゼンテーションコンテストでは，英語の授業を通して学んだこれら「発信型スキル」を学生が実際に活用する機会を持つこと，そしてこの経験を通して，学びをさらに深めてくれることを目指してきた．

英語の科目には，基礎的な英語力を定着させるための基幹科目，そして，自分の興味関心や学習目標に応じて選択し，発展的な英語力を身につけるための発展科目がある．そのうち，全学生が履修する１年次配当の科目を含む基幹科目において，プレゼンテーション能力の育成を段階的に行っている．現在のプログラムでは，１年では身近な話題について，前期に２～３分，後期に３～４分，そして，２年生では，社会問題や専攻で学んだ内容に関連するトピックなど，総合社会学部に適したテーマで，前期に３～４分，後期に５分程度のプレゼンテーションに取り組み，スキルを磨いている．

プレゼンテーションの評価については，英語プログラムで統一の基準を設けている．発表の内容と構成，表現や文法の適切さ，発音・発声の仕方，提示資料の見やすさ，アイコンタクトやジェスチャーの利用など，プレゼンテーションにおける重要な要素を，学習者が意識しながら学習を進められるよう，プログラム共通の学習ハンドブック「My Can-Do Handbook」に，参照用評価ルーブリックとして掲載している．また，プレゼンテーションに先立って，設定された課題に対する説得力のある見解を小論として英文でまとめ，その小論に基づいてプレゼンテーションを構成するなど，ライティング・スキルとプレゼンテーション・スキルの学習を結び付け，統合的なスキル習得の機会を提供している．

大舞台で披露・体験を通した学び

コンテストは例年１月に実施してきた．プレゼンターとして参加するのは２年生である．英語の基幹科目を通してすべての学生がプレゼンテーション課題に取り組んだうえで，12月に実施する予選に，毎年11～21名の２年生がエントリーしてきた．予選で７～９名が選抜され，コンテスト本選でプレゼンテーションを披露する．視聴者としての参加者は多い時で，学内外から200名以上が集まった．2020年度はオンライン開催となり，初めての試みに不安を抱きながらの運営となったが，来場者数は193名にまで上った．

２年生の素晴らしい発表については，プレゼ

ンターの許可を得て1年生の授業などで紹介している．上級生の発表の例は下級生にとって「身近なお手本（Near Pear Role Models）」（Murphey 1998 など）となり，1年次に大学前半2年にわたる学習の目標のひとつを具体的に立てることにつながる．1年生の学生がコンテストの司会者を担当してきたが，間近で見る先輩のプレゼンテーションが，学習の取り組みへのさらなる刺激となろう．

大聴衆とともに大教室で行ってきたコンテストだが，オンライン開催となった際には，新たな課題が生じた．スライド作成では，教室の大きなスクリーンに映し出される場合とは異なる視点が必要となった．情報機器・ソフトの新たな操作など，追加の技術が要求されることにもなり，評価項目に修正を加えた．オンライン授業であっても，発表内容の構成力や表現の利用など，重要な学習項目については，十分に網羅できるように配慮した．

総合社会学部らしさと有機的な学び

プレゼンテーションのテーマには，総合社会学部で学ぶ分野を反映する様々なものが取り上げられている．「保育園待機児童問題」「世界の貧困問題と私たち」「阪神大震災から 20 年：借り上げ復興住宅問題」「24 時間営業のコンビニは必要か」「SNS との付き合い方」「SDGs への企業の取り組み」といった，現代社会が抱える課題等に関するもの，「人は事物をどう認知するのか」「日常生活における錯覚の利用」「シンデレラ症候群」などの心理学の授業で学んだ内容から派生したトピック，「生物多様性の喪失」「音楽が記憶に及ぼす影響」「福祉のまちづくり」など，環境と人・社会を視野に入れた発表等，多岐にわたり，学部における学びを有機的に結びつける機会を創出している．審査員は，学部の各専攻の教員や他大学・他学部の英語教育関係者に依頼し，多様な観点を評価に反映していただいている．

コンテストの賞の内容は，学生のやる気を引き起こすデバイスのひとつとして，英語教員内で毎年検討し，必要に応じて変更を加えてきた．評価基準に従って選ぶ第1位から第3位に加え，独特なプレゼンテーションに対して審査員が選ぶ審査員特別賞，聴衆として参加している学生の投票によって選ぶ学生特別賞などの賞を設けてきた．表の通り，全専攻の学生が様々な賞を受けてきている．

2021（令和3）年度の第 11 回コンテストは，コロナ下の対応による授業形態の変更を受け，2年次配当の基幹科目である「英語演習 4」の各クラスにて対面またはオンライン上で開催，さらに，学部全体でのコンテストも別途オンデマンド形式で開催することになった．総合社会学部の英語プログラムでは，時代の要請に柔軟に対応しつつ，学生が体験を通して学ぶ機会を確実に提供したいと考えている．「総合社会学部の英語の授業では発表をたくさんやらされて大変だった」という思いの卒業生の皆さんが，「体験したからこそ残っている記憶」を懐かしく振り返ってもらえることを願っている．

回	実施日	第1位受賞者の専攻	第2位受賞者の専攻	第3位受賞者の専攻
第1回	2012 年 1 月 16 日	環境系	社会マスメディア系	環境系
第2回	2013 年 1 月 21 日	社会マスメディア系	心理系	心理系
第3回	2014 年 1 月 20 日	心理系	心理系	社会マスメディア系
第4回	2015 年 1 月 19 日	社会マスメディア系	社会マスメディア系	心理系
第5回	2016 年 1 月 18 日	心理系	社会マスメディア系	環境系
第6回	2017 年 1 月 23 日	環境・まちづくり系	心理系	環境・まちづくり系
第7回	2018 年 1 月 22 日	心理系	環境・まちづくり系	環境・まちづくり系
第8回	2019 年 1 月 21 日	心理系	環境・まちづくり系	心理系
第9回	2020 年 1 月 20 日	環境・まちづくり系	社会マスメディア系	心理系
第10回	2021 年 1 月 18 日	社会マスメディア系	心理系	社会マスメディア系

総合社会学部の演習（ゼミ）
—担当教員と活動内容—

金井啓子ゼミ（ジャーナリズム論）

演習の概要

金井啓子ゼミは，実践的な取材と記事執筆を通じてジャーナリズム論を学ぶゼミである．受講生はゼミに在籍する２年間に，合計で３本の長文記事を提出することを求められる．その３本目が卒業制作にあたり，「現代社会で起きている出来事の中で解き明かすべき疑問を感じるもの」をテーマとして各々が選び，取材相手へのインタビュー結果および参考文献から引用した情報を盛り込んで記事を執筆する．

卒業制作の記事でこれまでに扱われた主なテーマ

あおり運転，アクティブラーニング，アニメソング，アパレル業界，飲食店の予約キャンセル，インスタ映え，引退馬の殺処分，映画，絵本，音環境，おひとり様，音楽教育，海外ドラマ，外国人差別，仮想通貨，楽器，カラオケ，観光地，観光土産，給食，凶悪犯罪，教育，クラウドファンディング，クールジャパン，ゲーム障がい，減災，豪雨被害，高齢者，語学学習，五輪・パラリンピック，婚活，さとり世代，シェアハウス，児童養護施設，謝罪力，終活，受刑者の社会復帰，障がい者労働，商店街，女子野球，書店，震災遺構，新卒採用，審判の機械化，進路指導，睡眠，スポーツビジネス，スマート農業，スマホゲーム，生活保護，世界遺産，接客，戦場報道，銭湯，体罰，駄菓子，竹林，地方創生，朝鮮学校，通販，ディズニープリンセス，手料理，電力小売自由化，東京一極集中，特撮，2.5 次元舞台，日本製商品，バラエティ番組，東日本大震災，ヒット曲，表現の自由，美容整形，ファッションビジネス，プラスチックごみ，ボディメイク，ホームレス，まちづくり，満員電車，メイク，ゆとり教育，ゆるキャラ，落語，力士のセカンドキャリア，流行，若者の車離れ，若者の夢，HSP，LCC，LGBTQ，SNS，YouTube

杉浦　徹ゼミ

ゼミの概要

ゼミでは放送について様々な角度からアプローチをして，意見を交換し，自分たちで企画を考えるということを積み重ねていきます．

・放送やメディアに関わるテーマでのグループディスカッション
・出されたテーマに対して，時には各自で，時にはグループを組んで，番組企画書を作成
・各自が放送やメディアについて自分でテーマを決めて，研究発表
・与えられたテーマに沿った映像作品の制作

常に学生自身が企画をして，どうすればテーマや言いたい事が多くの人に分かりやすく伝えられるかを考えます．

多くの知識や経験を身につけ，そこから新しい何かを生み出し，自分なりに表現する．

その繰り返しによって，放送の世界でも一般社会でも通用する力を身につけていきます．

代表的な卒業制作・卒業論文

杉浦ゼミではグループを組んで映像作品を作る卒業制作，放送に関わるテーマで各自が取り組む卒業論文のいずれかを選んで提出します．

・ 卒業制作作品タイトル

「MY WAY ～わたしの就活」「東大阪のカレーパン事業を調査せよ」（2018）

「キャッシュレス大学～令和時代を生きるには～」「スマホのない 1 日」（2019）

・ 卒業論文タイトル

「報道の自由度ランキング　日本が 66 位の理由とは」（2020）

「自社制作番組から見る民放地方テレビ局の存在意義」（2020）

「新型コロナウィルスによるテレビの変容」（2020）

鈴木伸太郎ゼミ

ゼミ活動について

毎週のゼミの基本はゼミ生による発表です．3 年生の場合は，私が作成した 30 ～ 50 冊程度の文献のリストから，自分の関心に近いものを選んで読み，それについて発表していきます．年度の後半には，読書の枠を超えて，自分の関心の在処を探る活動を各自で行って，ゼミで報告するような形をとります．次第に自分の研究テーマが見えてきたところで 4 年生のゼミに移行していきます．4 年生の最初は卒論のテーマについての試行錯誤的な発表，それを次第に現実的な論文作成につなげていきます．

最近の卒業論文のテーマ

『ブラックミュージックの影響に関する考察』『サードプレイスから見る，現代の暮らし方』『地域ブランドにおける奈良県の見方～奈良を活性化～』『なぜ日本で HIPHOP・ラップは流行らなかったのか _ ヒップホップの変化と未来 _』『岸和田だんじり祭離れを救う.』『スポーツにおけるルール変更の在り方』『民主化で乗り越える現代アート - これからの取り組みと発展 -』『観光を消費する～現代人に求められる観光とは～』『今後の児童養護施設の課題　―心のケアの大切さ―』『たばこと社会の共存』『障害者雇用における困難の実態に関する考察』『つくり笑いの仮面 ―自由があるがゆえに―』『ペットと社会の共生』『地域活性化　地域資源と人のつながりを活かしたまちづくり』『廃棄社会の変容 ～食品ロスから見る～』『ソーシャルメディアにおける信頼とは ～インフルエンサーの一考察～』『近未来の日本社会 ～ AI の観点から考える～』『これからのサービスの在り方』『地名による地域理解とそれによる防災・減災』『映画館の歴史と現在 ～映画館離れは本当に起きているのか～』『妊娠・中絶における男性中心的な考え方』『留学によって変容する「アイデンティティー」と自己 ～日本からの留学生及び日本への留学生の「アイデンティティー」の一考察～』

辻　竜平ゼミ

演習の概要

質的分析であれ量的分析であれ，科学的な卒業論文を書くことを最終目標として指導しています．それは，科学的判断能力は，卒業

後も長く活用し続けることができる能力であると信じているからです．そのために，統計関連科目や，「社会調査実習 B」を含む調査関連科目などをゼミ生の必修科目とし，しっかりとした土台を作ることを重視しています．

ゼミの時間には，モデル構築の演習，方法論や社会学理論やネットワーク科学の文献の講読，PC を用いたデータマイニングの実習，卒論研究に向けた指導などを行っています．

爆発的な人気が出るようなゼミではありませんが，計量研究に関心がある学生や，ものの考え方や見方を着実に地道に身につけたい学生には，一定にニーズはあるようです．

主な卒業論文のテーマ

卒業論文のテーマは，学生の自由に設定してもらっています．過労死と認定されやすいのは，どんな条件が組み合わさっているケースかを，判例を用いてブール代数分析した卒論は，これまでの中でもアイディアと手法の連携が秀逸だったと思います．男性ファッションにおける「かわいい」とは何かを研究しようとした学生は，いくつかのファッション雑誌における「かわいい」の意味内容の時代変遷について記述しました．ゲーム好きのある学生は，出身地である和歌山県と大阪府の IR 誘致の論理における地域差を取り上げ，両府県の議会議事録をテキスト分析しました．スポーツ選手のライフコースに関わるものもあり，フットサル選手やアーティスティック・スイミング選手などが取り上げられてきました．

手法としては，量的分析では，回帰系の分析をする学生が多いです．自分でデータを収集する人も，既存のデータの二次分析を行う人もいます．質的分析では，事例コードマトリクスを用いた分析や，さまざまなトピックに関する twitter のログを利用した内容分析（コレスポンデンス分析を含む）を利用したものが多いです．

二木一夫ゼミ（現代新聞論）

演習の概要

新聞記者の実務経験を生かしたゼミ運営をしている．基本姿勢は「見る，聞く，読む，書く，話す」．今，社会で何が起きているかを知り，これからどうなるのかを考えることに力を入れている．たとえば，ＪＲ史上最悪の福知山線脱線事故を題材に，現代社会のひずみを考えている．毎年，ゼミ生は事故現場を訪ね，被害者を担当する社員に話を聞く．事故遺族のその後を描いたルポルタージュを読み，その著者に直接会って話を聞き，最後にリポートを書いている．

ジャーナリズム研究を専門にしている龍谷大学社会学部の畑仲哲雄教授の研究室とは毎年，合同ゼミを開催している．畑仲教授とは前職である毎日新聞社の同期入社という関係があり，コロナ禍前は対面で，コロナ下でもオンラインで，グループワークやポスターセッションに取り組んでいる．

二木研究室は前任の西木正教授が設立した「総社ジャーナル」編集局を引き継ぎ，オープンキャンパスで掲示・配布する新聞制作実習も実施してきた．記事投稿サイト「note」に web 版の「総社ジャーナル」も開設し，ゼミ生が取材した原稿を載せている．

夏期休暇などに体験したことも「私の現場」というテーマでリポートを提出させている．内容があれば「ミニ講義」もする．学生自身の世界を広げてもらうのが目的である．

主な卒業論文

テーマ設定は自由．ゼミ生本人が関心を持ち，かつ今日性のあるものを選び，独自の切り口で提言する論文の執筆を指導している．

研究対象となる分野は多岐にわたる．卒業論文の一例を挙げると，「カジノ開設による日本への影響と課題」「痛勤電車解消の切り札～鍵にぎる着席保証列車～」「バントか，強攻か～タイブレーク方式での作戦を考察する」「少子高齢社会の住宅業界」「古着とサステナブル」「ｅスポーツの行方」――など，硬軟合わせて多様である．

松本行真ゼミ

(1) 演習（ゼミ）活動

松本研究室の方針としては大きく三つ，「文献を精読できる」「フィールドへの関心を持ち」「実際にそのフィールド調査を行う」である．3 年次の演習 1A・B で前ふたつの基礎的な姿勢を身につけつつ，4 年次の演習 2A・B と卒業論文では定めたフィールドにて実際に調査研究を展開する．もう一つの活動方針に「グループで遂行することができる」こととして，文献講読や（一部）卒論を複数人で構成するグループで進めている．

卒論のテーマとしては松本自身の研究テーマである，①（被災）コミュニティの諸相と変容，②安全・安心の社会実装の論理と倫理，③地域経済の自立／自律化，④コミュニティ×メディア研究のほかにも，学生本人の希望により別途定めることも可能としている．

(2) 主な / 代表的な卒業論文・卒業研究

主な卒業論文としては

「巡礼」の時代による位置づけの変化についての研究

コンテンツツーリズムが地域に及ぼす影響と社会問題

野生動物保全と地域活性化の両立

修士論文としては

自治体と住民組織や地元メディアとの情報ネットワークの有用性―災害時における自治体の情報活動の実態と課題を基に―

がある．

山本良二ゼミ（広告コミュニケーション）

【ゼミについて】

広告コミュニケーションを入り口にしながら，考えることのおもしろさを知る．そして，ゼミ生一人ひとりが「自分の言葉」で考えられるようになる，書けるようになる，話せるようになる．そんなゼミでありたいと思っています．社会に出たら，そういう力が必要になるからです．

作文を書きます．キャッチフレーズをつくります．プレゼンテーションもグループディスカッションもします．CM をつくって，コンクールへの応募もしています．社会の課題に対しての解決策を全員で考えたりもします．模擬面接など就活につながることも積極的にやってきました．答はひとつではありません．ゼミ生一人ひとりが自分の頭と心の両方を使って，自分の答を見つけてほしいと思っています．

【主な卒業論文】

- これからのスポーツとメディアのあり方
- 人はなぜスターバックスを選ぶのか
- 未来ある本のために出版業界に求めること
- アイドルの在り方について考える
- インターネット広告はなぜウザがられるのか
- オンラインはライブ・エンタテイメントを変えるか

安達智史ゼミ

演習（ゼミ）活動

私のゼミでは，社会学の視点から，主に「ジェンダー」問題を中心に研究をおこなっています．社会学は，社会の「現実の解明」だけでなく，そうした「現実がどのように創りあげられているのか？」を探究する学問です．たとえば，女性と男性にはさまざまな違い（ex. 身体的特質，女らしさ／男らしさ）があると考えられています．そうした違い（＝性差）の多くは，「自然なもの」と認識されていますが，実際には，さまざまな「社会的装置（ex. メディア，学校／家庭教育，組織における女男別の役割配置）」を通じて，構築・形成されるものです．私のゼミでは，性差や性役割をめぐる人々の認識，およびそれを生み出す社会構造や制度的メカニズムの解明を目指し，本を読んだり，議論をおこなっています．

主な / 代表的な卒業論文・卒業研究

- 童貞の真実――大学生のインタビューに基づいて（2016 年度）
- 性愛主義を前提とした日本社会における性的マイノリティ女性の職業選択（2016 年度）
- ハリー・ポッターから読み解くイギリスの階級・人種差別（2017 年度）
- 文化再生産の計量分析――進路決定における文化資本の密輸効果（2017 年度）
- 部活動に関する言説について――国会審議での部活動の語られ方に着目して（2018 年度）
- 「り」は「め」よりなぜ 100 倍恐ろしいのか――メディアの言説分析（2019 年度）
- 「日本人」として生きる――ある在日コリアン 3 世のライフヒストリー（2019 年度）
- 「現実」と「虚構」の弁証法――ジャニオタのインタビュー・データの分析（2020 年度）
- 技能実習生制度の批判的検討――労働者，経営者，関係団体への聞き取り（2020 年度）

岡本　健ゼミ

演習（ゼミ）活動

学術的な研究の手法を，情報の「収集」「編集」「発信」と捉え，それらを学生が主体的に身に着けるゼミを展開してきました．研究テーマは自由で，学生が自分で試行錯誤しながら決定していきます．そうして身に着けた「研究力」は，産学連携プロジェクトや就職活動，普段の生活にも活かすことができます．岡本ゼミの卒業生は，様々な進路で活躍しています．

主な卒業論文・卒業研究

- 「esports の現状把握と流行までのながれ」
- 「日本のポピュラー音楽コンサートにおける映像演出の変遷」
- 「現代日本の代表的サブカルチャーコンテンツ「萌え擬人化」について」
- 「高校野球界の正義について　―全国高等学校野球選手権大会の中止会見から―」
- 「第四次韓流ブームにともなう K-POP と世界との関わり」
- 「ジャニーズアイドルの「関係性」に志向するファン－ 2000 年代以降の関係消費社会と SNS」

齋藤曉子ゼミ

演習の概要

家族や福祉のテーマ（地域の高齢者／障害者福祉, 家族の多様化, 子育て支援策, セクシュアル・マイノリティなど）を中心に研究していくゼミです．文献講読や調査方法の習得など基礎的な力を身に着けたのち，ゼミ生はそれぞれ自分の関心のあるテーマを決め，卒業研究に取り組んでいきます．自分の力で一つの研究を仕上げていくのは大変な作業ですが，真摯に取り組むことで得られるものも大きいです．ゼミを通じて，大学時代の醍醐味でもある主体的に学ぶことの楽しさを感じて欲しいと考えて取り組んでいます．

主な卒業論文

- 「日本における民間企業の女性管理職」（2021 年度）
- 「美容整形に対する若者の意識変化」（2021 年度）
- 「日本における児童虐待の現状と今後の課題」（2021 年度）
- 「福祉・介護従事者の確保，育成につながる福祉教育の可能性」（2021 年度）
- 「大人の非定型発達――及びその支援方法について――」（2021 年度）
- 「なぜ中国の子どもの学力は世界一なのか？――日本への示唆――」（2021 年度）
- 「高齢者の福祉制度の国際比較――中国と日本を対象に――」（2021 年度）

鈴木光祐ゼミ

演習（ゼミ）では主に文化人類学，東南アジア地域研究の書籍や論文を読む訓練を行なっている．また，3 年次前期に学生は自分の興味のある本（中公新書のいずれか）を一冊読んでビブリオバトルを行う．3 年次の夏休みには，自主的にフィールドワークに出る学生がほとんどで，このフィールドワークをベースにして卒業論文や卒業制作を完成させる人も多い．3 年次後期は基本的にグループワークが中心となる．「東南アジアの経済成長」など，特定の課題に対してチームごとに書籍や論文を探し，次週までに誰が何を読むかを決めて準備を行う．

4 年次の卒業論文や卒業制作は各自，自分の興味にそってテーマを決める．卒業論文としては「LGBT をとりまく社会の変化と教育」,「心霊スポットの特色と地域差」,「堺市議事録から読み解く大阪都構想」,「愛媛県松山市における移住促進活動」,「語りから見たお笑いファン・コミュニティの関係性」,「太陽光発電事業によって生じる離島社会の混乱」,「伝統色の歴史と日本人が好んだ色彩」など，卒業制作は「A KEY TO OPEN YOUR WORLD ～世界を知る」,「上海建築からの学び」,「19 Stories 大阪環状線」,「映画『保持通話』の台詞翻訳」「臺灣南部之美食」「写真集 きおく」など，幅広いジャンルからなるのが特徴である．

ソフィア リカフィカ　パトリックゼミ

演習の概要

宇宙には謎があふれている（不思議な現象や奇妙な天体等）．宇宙・銀河・太陽系・地球・生命などに関して未解決問題が沢山残されている．また，天文学は文明の繁栄から様々な形で人類へ影響を与えると同時に社会にも革命的な知識や技術まで齎されている．長年，ゼミではそのような分野の研究に必要な基礎知識の獲得を行った．そのような内容に関して卒業研究のテーマとして指導してきた．宇宙人はどこにいるのか，太陽系外惑星の中で第二の地球探し，小惑星の謎を解き明かそう：はやぶさミッションの成果，人類は月に行ってない？！などといった面白いテーマが挙げられる．要するに，このゼミでは天文学に限らず，宇宙生物学，科学，哲学科学，批判的思考・論理などの考え方や，世界中の誰よりも先に未知の謎を解明し発見するとう研究の面白さと楽しさもゼミ生に伝えている．

主な卒業論文

- 民間での宇宙旅行
- 地球を覆うスペースデブリ ～宇宙のゴミが人類に及ぼす影響力～
- 宇宙エレベーターによる宇宙開発
- 銀河系とその他の銀河の比較
- エウロパに生命は存在するか
- 第二地球の捜索

西尾雄志ゼミ

演習（ゼミ）活動

基礎購読においては，ゲームなど学生の取り組みやすい課題を入り口として，自分の頭で考えるトレーニング，論理的思考トレーニングを行なうほか，身近な問題を通してマルクスやケインズ，ヴェーバーなど社会科学の古典の基礎を学ぶ教育を実践している．演習1，2においては二年間かけて卒論の指導にとりくむ一方で，コロナ禍以前は，ユースワークを取り入れた合宿を熊本県阿蘇市で行った．

代表的な卒業論文

「世論形成の新たなあり方に関する考察――テレビ離れとインターネット動画メディア普及の観点から」「日本における企業のLGBT対応の考察」「家庭系食品ロス削減に向けた消費者意識と行動の考察」「女性差別撤廃条約とジェンダーギャップ指数に基づいた日本の男女格差に関する考察」「人口減少社会における高齢者雇用に関する考察」「単純労働に従事する外国人労働者に関する政策についての考察」「在日中国人留学生における社会的ネットワークとその機能――近畿大学の中国人留学生を事例に」「医療現場における『ろう者』への情報保障の現状と課題に関する考察」

岡野英之ゼミ

演習の概要

多くの学生は人に与えられた課題をこなすことには長けているものの，自分から選び取ることは苦手なように思える．しかしながら，岡野ゼミでの卒論執筆は，自己決定の連続である．自らテーマを決め，それに向かって自分で勉強する．卒業論文の執筆を通して，自分のことを理解してくこと．それが岡野ゼミの目指すことである．教員（岡野）自体は国際問題の専門家であるものの，単に外国の問題を知ってほしいわけではない．

卒論では，何を書いてもよい．ただし，3つ条件がある．「学術的な体裁の論文を書くこと」，「社会に関するトピックを選ぶこと」，そして，「世の中がどのように回っているのか（いたのか）を明らかにすること」である．テーマを絞っていくのも自分でする．自分の関心を掘り下げることは，自己理解を深めることにもつながる．教員はそれを手助けするに過ぎない．最後まで決断できずに，中途半端な卒業論文を書いて卒業する者もいる．その一方で，自分が思考や価値観を客観的に理解しようとし，自らの力で視野を広げていく者もいる．

自分で決めて自分で努力する．その経験は，たぶん，後の人生でも役に立つはずである．

主な卒業論文

- 「昭和初期における陸軍革新派の形成過程について ―一夕会を中心に―」（2020 年度）
- 「コロナで恋愛観や結婚観は変化したのか」（2020 年度）
- 「住民参加型アプローチはスラムの人々にどのように作用しているのか―インフォーマルセクターに注目して―」（2020 年度）
- 「日本における韓流ブームの受容」（2020 年度）

漆原宏次ゼミ（学習心理学，アニマルセラピー）

演習の概要

3年時前期には，学習心理学やアニマルセラピーについての基本知識を修得し，視野を広げるため，教科書や専門書を輪読します．後期には，各自が興味を持った分野についての論文を探し，それぞれが発表しディスカッションを行う形でゼミを進めます．この過程で，各自が卒業論文の構想を固めてゆきます．今後は，ゼミ生全員が協力して，アニマルセラピー活動を一般学生向けに提供したり，全員でテーマを決めて実験を行うことも計画しています．

4年時前期には，個別面談などを通じて各自が卒業論文のテーマを決め，それに関連する文献を読み込んで発表し，ディスカッションを行う形でゼミを進めます．自分の卒業論文のテーマだけでなく，ほかのゼミ生のテーマについても知り興味を持つことで，より広い視野をもって研究を進めることを期待します．また，この過程で，実験や調査のディテールを煮詰めてゆきます．夏休み前からは，ゼミ生各自が卒業論文の完成に向けて，実験や調査を準備し実施します．ゼミでは互いに進捗などを報告し，互いに励ましあいながら全員の卒論提出を目指します．

代表的な卒業論文のテーマ（すべて 2021 年度提出予定）

- セラピー犬・ぬいぐるみとのふれあいがストレス反応に及ぼす影響

- 日常場面でみられるスキャロップ類似現象の実験的検討―単純作業・知的作業従事時の比較
- 罰の効果の認識とストレスの諸側面の関係についての検討
- 大型犬とふれあうことで得られる癒し効果の質的分析

小泉隆平ゼミ（臨床心理学・人間性心理学・教育領域）

演習の概要

主に指導教員の専門領域からゼミ生各自が自分の興味関心から研究したいテーマを見つけます．それぞれのテーマについて先行研究を調べ，卒業論文にまとめていきます．調査したことを何度も発表しゼミ生同士がともに学び合うなかで，自己理解を深め成長していきます．3年生では通常ゼミ旅行を開催し，親睦を深めます．現地の教育施設で子どもたちにふれあい教職員と一緒に学ぶこともあります．

主な卒業論文

- 共感的羞恥と心理的距離および共感性の関連について（2020）
- 大学生の「居場所」とレジリエンス及び主観的幸福感との関連　－他者の存在による居場所の分類から－（2020）
- 情動知能得点とオンライン授業受け入れとの関係（2020）
- 中高生における自身の性格と好きな教師像の関連（2019）
- 大学生における理由のない不安　－フォーカシング的態度と自己安定化に焦点をあてて－（2019）
- 大学生の情動知能が居場所感に与える影響について（2018）
- 自己開示による精神的健康向上等の検討について　－筆記と発話の差異から－（2018）

堀田美保ゼミ

演習の概要

「人は社会的存在である」という人間観にたち，身の回りで生じている様々な現象を，人間のものの見方や考え方といった認知的要因，欲求・願望などの動機的要因，人との相互作用という対人的・集団的要因から考察していきます．また，人々が抱える心理的問題を社会情勢・制度・歴史など，社会・文化的視点から分析していくということもやります．研究を楽しむ，これを第一に進めています．

主な卒業論文

- 聞き手にとって負担の軽い愚痴（2017）
- 他者の愚痴を聞き手が不幸自慢と認知する要因の検討（2020）
- 間接的要求の使用頻度，理由，効果の検討（2017）
- 親密度，関係性，場面による断りづらさの違いの検討（2020）
- 接客場面における女性の作り笑い（2018）
- インターネット上の攻撃的発言と仮想的有能感の関連性（2018）
- にわかファンへの嫌悪感と集団アイデンティティの関連（2017）
- 「優しくされてネガティブ感情が生起する」現象に関連する要因（2018）

- 他者の言動を見て「冷める」現象とは（2019）
- 蛙化現象と自尊心及び自己愛の関連（2017）
- 同（両）性愛者の生きづらさの軽減には何が必要か（2018）
- 映画館での一体感～観客の笑いを介して（2017）
- 仲間集団への同調行動としてのポイ捨て行動（2018）

本岡寛子ゼミ（臨床心理学・認知行動療法）

ゼミの概要

青年期以降のうつ，不安に関する研究を主に扱っている．大学生の対人不安，抑うつ，あがり，トラウマ，怒り，就職不安，アルバイト離職願望，働く人のメンタルヘルス不調，ストレス，バーンアウト，心理的ディタッチメント等のテーマで研究を行っている．これらの心的現象を説明する理論として「認知行動理論」や「ストレスモデル」を基盤に検討を行っている．問題に直面した際の個人の認知・行動様式によって，結果として問題が緩和されるのか，維持されるのかに注目し，モデルの生成・検証を行っている．さらに問題解決のための介入プログラムの開発・効果検証研究を行っている．

卒業・修士論文のテーマ

2018 年度

「現代大学生の対人行動に関わる言語的記憶の特徴と自己観・対人観の関連について
－非主張性と過剰適応に注目して－」

「過去のいじめ対処に対する評価的認知と学生生活充実度が自尊心にもたらす影響」

2019 年度

「対人恐怖心性と友人関係満足感が大学適応感に与える影響」

「心理的ディタッチメントと職場からの連絡に対する返信懸念が職業性ストレスにどう関わるか－モバイル端末の普及による働き方の変化－」

2020 年度

「ソーシャルサポートと離職後の心配がアルバイトにおける離職躊躇に与える影響」

「大学生のメンタルヘルス不調時における被受容感と健康信念が被援助志向性に及ぼす影響
－受療行動に対するバリアを媒介して－」

遠藤信貴ゼミ（認知心理学）

演習の概要

認知心理学およびその周辺領域において，広く人間の「知」に関わる問題をテーマとして研究指導している．ゼミのポリシーは2つある．1つは，研究トピックの選定は学生の自由意志に委ねるが，認知心理学に軸足を据えた研究としてまとめさせることである．2つめは，心理学の基本的研究方法である「実験」にこだわり，実験的手法ベースにした卒業研究を遂行させることである．

代表的な卒業論文

- 「気分誘導操作による眼球運動特性に関する研究」（2013年度）
- 「ワーキングメモリにおける領域固有性に関する研究」（2014年度）
- 「潜在的構えによる判断が外的な教示から受ける影響」（2015年度）
- 「顔らしさを決める空間的規定因の検討」（2016年度）
- 「オノマトペによる感覚名詞の修飾表現の意味理解可能性」（2017年度）
- 「ワーキングメモリ容量が洞察問題解決過程に及ぼす影響」（2018年度）
- 「既知の人物における声記憶の正確さおよび忘却特性について」（2018年度）
- 「特性不安の程度によるコントラスト感度の変化」（2019年度）
- 「環境的文脈が虚再認の生起に及ぼす影響」（2019年度）
- 「間接再認手続きを用いた未知声の潜在記憶の特性について」（2020年度）
- 「注意バイアス修正による不安低減効果の検討」（2020年度）

大対香奈子ゼミ（応用行動分析学）

ゼミでの研究・実践活動

大対ゼミでは，3年次は「学習行動論」の授業で学んだ応用行動分析学についての論文を読み発表したり，グループ研究を行ったりしている．大対ゼミに特徴的なものとして2014年度からゼミの課外活動として東大阪市内の小学校やこども園で支援ボランティア活動を行っており，希望する学生が毎年多く参加してくれている．この支援活動では小学校やこども園に半日入り，学習についていけない子どもや集団活動から外れてしまう子どもの支援などを行っている．また，この支援活動は応用行動分析学の知識を実践する場でもあり，大学の授業で得た知識を実践に移すことで，さらに学びを深めてもらうことを目的としたものである．このような経験を通して学校での実践に興味を持った場合は，4年生になるとゼミで2017年度から行っている大阪府下の小中学校でのポジティブ行動支援のプロジェクトに参加し，その実践を通して収集したデータを卒業論文としてまとめる場合もある．またさらに専門性を高めたい場合は大学院に進学して実践や研究を続け，公認心理師や臨床心理士の資格取得を目指す．

代表的な卒業論文

- 「公立中学校での学校規模ポジティブ行動支援の効果検討－不登校傾向に着目して―」（2020年度）
- 「学校規模ポジティブ行動支援が教師のメンタルヘルスに及ぼす効果」（2019年度）
- 「就学に伴う幼稚園から小学校への環境変化についてのアセスメント」（2016年度）

奥野洋子ゼミ

ゼミの概要・指導

ゼミでは，自主性，学生同士の学び合う姿勢を重視しています．3 年生では，学生が関心のある研究論文を見つけ，発表での学生同士のディスカッションを通して，卒業研究の研究計画を考えていきます．4 年生では，研究の進行計画を立て，卒業論文を完成させていきます．研究の進行状況に応じて，ゼミ内での発表とディスカッション，相互レビューを実施しています. 4年生の卒業研究の中間発表会，3 年生の研究計画発表では，3・4 年生合同で行い，質問やアドバイスをし合う機会を設けています．

また，論文作成，心理学の研究方法，分析などの演習・実習を行い，卒業論文完成に向けて必要な力をつけていくように指導しています．個別検討を 3 回以上設け，卒業論文完成に向けての個別指導も行っています．

主な卒業論文

毎年，研究テーマは多岐に渡っています．主な卒業論文タイトルは以下の通りです．

- 小学校教員の自己開示とバーンアウト傾向の関連について（2020 年度）
- レジリエンスとソーシャルスキルが精神的傾向に及ぼす影響（2018 年度）
- 中学校時代の親の養育態度が子どもの自己肯定感に与える影響（2017 年度）
- 青年期における過去の時間的展望と内省の取り組み方が劣等感に及ぼす影響（2017 年度）
- 音楽聴取が大学生のストレス減少に及ぼす影響についての検討（2015 年度）
- 青年期の男女における愛着スタイルと攻撃性の関連（2014 年度）
- 発達障がい児童をもつ母親のストレス（2014 年度）
- 情動知能と生活満足度および読書との関連について（2013 年度）

佐藤　望ゼミ（人間工学・産業心理学）

演習の概要

心理学の産業場面への応用に関連する研究テーマに関心を持つゼミ生が主体となり，大きく分けて二つのテーマのもとで研究活動を行っています．その一つは製品の使いやすさに関わる心理的な要因を明らかにすることです．例えば，どのような視覚情報や聴覚情報を製品に付加すると，見間違いや聞き違いをせずに効率的に製品を使いこなすことができるのか，製品のデザインに対する嗜好は使いやすさにどのような影響を及ぼすのかといった問題に取り組んでいます．もう一つは働く人々が健康で安全に働くことのできる作業環境の要因を明らかにすることです．例えば，作業速度，作業姿勢，休憩のタイミングといった要因と精神的ストレス，ヒューマンエラーとの関係などについて検証を進めています．こうした応用的な内容を取り扱う傾向が強いゼミですが，3 年次には文献講読や研究手法に関する実習などを通して卒業研究の実施に向けた基礎固めを行います．その上で，4 年次に実験や質問紙調査を行い，卒業論文を作成します．

主な卒業論文

- 「フォントの印象が人物の印象形成に与える影響」（2020）
- 「美しい製品を構成するデザインの視覚的要素―ダサピンク現象に着目して―」（2019）
- 「仕事の自律性と作業姿勢がパフォーマンス

と疲労に及ぼす影響」（2018）
- 「午後の短時間仮眠が眠気・疲労感・状態的自己制御に及ぼす影響」（2017）
- 「精神テンポ及びBGMのテンポが作業効率に及ぼす影響」（2016）
- 「家電製品におけるインタフェースデザインと使いやすさ」（2015）
- 「スマートフォンにおけるボタン・差込口・カメラの使いやすい配置の調査」（2014）
- 「視覚的使いやすさと使用後の使いやすさ評価の比較分析」（2013）

塩﨑麻里子ゼミ

演習の概要

本ゼミでは，教員の専門性を中心に多彩な卒論研究を展開している．その基礎力をつけるのが，3年時の演習である．心理学的な研究の構成を学び，身近なテーマにおける問題提起から研究計画の立案，実施までをグループ実習形式で身に着ける．4年時の演習では，それらの基礎力を基に，自らの大学での学びの集大成としての卒論に取り組む．テーマは自由であるが，主に，教員の専門である家族心理学，サイコオンコロジー，臨床死生学，老年心理学，健康心理学，社会心理学分野にまたがるものが主である．希望者は，医療関係施設を見学する，他学部との共同研究プロジェクトに参加するなど，ゼミ時間以外の活動に参加している．共同研究として，論文を学術誌に投稿するための指導も行っている．

代表的な卒業論文のテーマ

家族心理学分野

母子関係が大学生の過剰適応傾向に及ぼす影響と父親の役割

女の幸せはシンデレラになることなのか？

サイコオンコロジー分野

乳がん患者の配偶者の夫婦間コミュニケーションにおける困難に関する質的研究

臨床死生学分野

青年の生きがい感を高める日記についての検討

いのちの教育が大学生のレジリエンスに及ぼす影響

老年心理学分野

中年期夫婦における会話時間と会話における感情表出が夫婦関係満足感に及ぼす影響

直井愛里ゼミ（健康心理学・スポーツ心理学）

演習の概要

3 年生の演習では，健康心理学，スポーツ心理学などに関する論文を読み，卒業論文のテーマについて考え，4 年生の演習では，自らの興味，関心のあるテーマで，卒業論文を仕上げていきます．健康心理学のテーマでは，大学生を対象に食生活，睡眠，運動習慣などの健康行動について調査を実施し，これらの健康行動とストレスなどの関連性を研究しています．最近では，SNS の使用と睡眠習慣の関連などについても検討しています．スポーツ心理学のテーマでは，主にアスリートを対象に，あがりやモチベーション，ソーシャルサポートなど，アスリートの実力発揮やメンタルヘルスの向上に関係する調査を行っています．また，大学生を対象に，ダーツを課題として，心理的要因がパフォーマンスに与える影響についての実験を行っています．

主な卒業論文

- 「自信と性格特性があがりに及ぼす影響 ～野球における守備場面を対象として～」（2013）
- 「スポーツの楽しさと競技意欲が集団効力感に与える影響」（2014）
- 「大学生の運動習慣と動機づけおよび身体への気づきの関連」（2015）
- 「大学生アスリートの音楽聴取と競技不安，バーンアウト，情緒不安定性の関連性」（2016）
- 「フィードバックが認知的方略とダーツパフォーマンスに与える影響 －方略的楽観主義者と対処的悲観主義者を比較して－」（2017）
- 「インターネット依存と睡眠状況および疲労感の関連」（2018）
- 「プレッシャー下における注意の向け方がダーツパフォーマンスに与える影響」（2019）
- 「性格特性とあがりの対処法の関連」（2020）

中川知宏ゼミ

ゼミの活動について

中川ゼミでは，犯罪や非行，あるいはそれらに関連する現象（例えば，社会的排斥）を対象に社会心理学的観点から検討しています．主なゼミ活動は論文を輪読したり，研究計画を作成し，問題点に応じて修正したりと地道な作業ですが，卒業論文の大事な土台となります．それとは別に，ゼミ合宿を開催したり，有志で少年鑑別所や裁判所に見学に行ったりもします．残念ながら，今はコロナのためにそうした機会が持てませんが，近い将来，再開したいと思っています．

主な卒業論文

- 「ストレインと非行の関係―社会的絆は調整要因となり得るか―」（2013 年度）
- 「社会的排斥が受容・排斥サインへの注意に及ぼす効果―制御焦点による影響―」（2014 年度）
- 「Cheater’s High（悪事による気分高揚）―規定因としてのスリルと自己正当化―」（2015 年度）
- 「人はどのような状況で，抑止動機に基づく処罰を与えるのか？－評価傾向理論を基盤とした不安感情による検証－」（2016 年度）
- 「ポジティブ感情が関係再構築行動に与える影響－拡大・構築理論における解釈－」（2017 年度）
- 「被害者と加害者の関係性がストーカー認識に及ぼす影響―媒介要因としての怒り感情と

被害者非難―」（2018 年度）
- 「リスク的意思決定の促進要因：集団成員性と評価可能性に着目して」（2019 年度）
- 「排斥状況における傍観者は加害行為を促進するか～集団実体性からの検討～」（2020 年度）

上野将敬ゼミ（比較行動学・進化心理学）

演習の概要

多様な文化の中で生活するヒトも動物の 1 種です．では，ヒトはどのような動物でしょうか．この問いを探るためには，ヒト以外の動物，特にヒトと進化的に近縁な霊長類（ニホンザルやチンパンジーなど）との比較が重要な手掛かりになります．ヒト以外の霊長類も，仲間と一緒に生活し，ケンカをしたら仲直りをするし，道具を使うこともあります．ヒトと他の霊長類の共通点・相違点を明らかにすることでヒトという動物の特徴が浮き彫りになってくるのではないかと考えられます．上野ゼミでは，ヒト以外の動物やヒト自身を対象とした行動観察や実験研究を通して，ヒトの心の進化を探る研究に取り組んでいます．

ゼミの特色として，3 年生時には，動物園での行動観察実習があります．動物園で生活をする動物を観察し，行動の観察方法を学びます．学生の皆さんには楽しんでいただけているように感じます（写真は動物園でペンギンを観察するゼミ生です）．

写真　動物園実習の様子

主な卒業論文

- 飼育フクロテナガザル集団における次子の誕生が長子と父母の相互交渉に及ぼす影響
- ケープペンギンの行動が集団内の社会順位に及ぼす影響
- 大学生の恋愛における嫉妬を引き出す要因の性差
- 同性愛の名称変更と差別意識の関連

石原　肇ゼミ（地域政策）

演習の概要

本ゼミは担当者が 2020 年 4 月に着任した新しいゼミである．このため，2020 年度と 2021 年度の卒論生の人数は比較的少なく，ゼミでは卒論生に毎回の発表を求めている．本ゼミでは，卒論生本人の関心のある分野とそれを調査するに相応しい地域を選定し，調査を進めることとしている．このため，テーマは環境・まちづくりに係る広範な分野が含まれ，以下に示すとおり多様なものとなっている．調査を進める中で，研究目的を達成するために，関係者へのヒアリングが必要となる．卒論生が自らヒアリング先を選定し，ヒアリング先への依頼を行う．間もなく社会に出る学年であり，ヒアリング先に失礼のないよう，準備段階から指導を行っている．

なお，3 年生については，個々の学生の関心のある分野とは関係なく，前期には，地域調査の基本書を用いて共通認識をもつように努めている．

主な卒業論文

- 2020 年度：泉州綿織物産業の現状と課題
  豊中市における市立 eMIRAIE 環境交流センター設置の効果と課題
  奈良県吉野町の観光の現状と課題
  阪堺線への堺市の支援と今後の課題
- 2021 年度：金沢市の北陸新幹線開業の影響
  岐阜市における中心商店街の再生
  神戸市の市民農園の位置と運営方法の比較
  鳥取市における移住促進対策
  枚方市における避難所の空間確保に関する調査等をテーマに取組み中

田中晃代ゼミ

（キャリア形成の内発的動機づけとしての実践の「場」を用意する）

演習の概要

2017 年度から始まった農家の一室をお借りしてゼミ生とカフェを開設した「すみっこカフェ」．都市民と農村民が出会う「場」として，3 年間不定期に運営してきました．コロナ禍により，その活動も休止しましたが，思えば，教員として取り組んだ学生支援の中でも，かなりの労働力とアイデアが試される活動であったといえます．原価率や利益率の計算など店舗経営の初心者として，学生も私も素人の域を越えることが出来ず，赤字を出すという状況が続きました．しかし，教育という意味では，この実践が有意義なものであったと考えます．その一つは，実践から学んだ学生自らの考えをメディアに情報発信する力を養うことができたということ，もう一つは，学生のキャリア形成に役立つことができたということ，さらには，都市と農村の交流のあり方を現場で学ぶことができたということです．一つ目は，学生が主体的にカフェを運営するということで，FM ラジオや新聞社の取材を受けた際，学生自身が柔軟に対応したということです．学生の実体験を一度自分の中に取り込み，新たな価値を付加して情報発信するという行為は，まさに私が望んだまちづくり教育の真髄でした．二つ目は，すみっこカフェを体験した学生が，就職先を選ぶにあたって，「一般企業」ではなく，「地域おこし協力隊」に就職した学生がいたということです．地域活動をマネジメントするその仕事に関しては，

個人の裁量で地域の活力をあげるという，非常に難しい，しかし面白い仕事を選んだということです．今後もキャリア形成の動機づけとして，ゼミ活動を充実させていきたいと考えています．

主な卒業論文

- 2017 年度「古民家を活用したコミュニティ・カフェの意義および役割－川西市黒川地区の古民家カフェ「すみっこ」を事例として－」

久　隆浩ゼミ

ゼミの概要

研究室では，都市計画や環境デザイン，まちづくり，社会システムについて総合的に研究を行っています．

1. 21 世紀型社会システムに関する研究
2. 環境デザイン・景観形成に関する研究
3. 都市計画・まちづくりのあり方に関する研究

上記のテーマに関わらず，計画やデザイン，まちづくりに関連する内容について，学生の興味にしたがって自由に研究してもらっています．

主な卒業論文

- 「公共空間における知的障がい者の食事スペースのあり方に関する研究」（2013 年度）
- 「宝塚市における住宅外構空間の地域性に関する研究」（2014 年度）
- 「海辺に位置する神社の立地特性に関する研究」（2015 年度）
- 「大平正芳の思想に対するトマス・アクィナスの影響について」（2015 年度）
- 「死者のための都市計画としての墓地に関する研究」（2016 年度）
- 「赤十字奉仕団と自治会の関係に関する研究」（2017 年度）
- 「大阪市東住吉区桑津地区の歴史及び変容に関する研究」（2018 年度）
- 「式年造営御柱大祭小宮祭の衰退要因と今後の対策に関する研究」（2018 年度）
- 「海辺集落の空間と文化の特性に関する研究」（2019 年度）
- 「まちづくり人材ネットワークの分析」（2020 年度）
- 「21 世紀の都市計画論の方向性，課題に関する一考察」（2020 年度）

藤田　香ゼミ

ゼミナールの概要

ゼミナールは自主的に学習を進めることを基本方針として，近年では SDGs について学んだうえで，環境問題を素材として「環境」「経済」「地域」「社会」の視点から，社会経済の複雑な問題や現象に対し，自ら考える力を養い，健全な批判的精神を身につけ，課題を探究する能力を育成することを目的としている．これまで通常のゼミナールに加え，自校学習：オープンキャンパスでのキャンドルワークショップのスタッフ，研究発表・研究交流：「西日本インカレ」（日経 BP），「おおい町まちづくり政策コンテスト」（福井県おおい町）での研究発表，龍谷大学との研究交流ゼミ，東京スタディツアー：エコプロでの環境学習を実施するとともに，eco 検定（環境社会検定試験）の受検，営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）によるサツマイモ栽培：同事業と

市民協働活動による農地の利用促進について学ぶフィールド学習を実施している．

多様な卒業研究のテーマ

これまでに 1 期生から 8 期生（2021 年卒業）まで 102 名が卒業研究に取り組んできた．研究対象地域は国内では関西はもとより東北から，中部，四国，中国，沖縄まで，海外では中国，マレーシア，ドイツと多岐にわたる．研究のキーワードは「地域おこし協力隊」「世界遺産」「旧町丁名復活」「こども食堂」「隠れ待機児童」「昆虫食」「ヴァーチャル・ウォーター」「アダプトプログラム」「サステイナブルファッション」「レジ袋有料化」「緑視率」「多文化共生社会づくり」「ワーケーション」「観光型 MaaS」「ラウンドアバウト」「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」「人とペットの同行避難」「食育」など多様である．

飯塚公藤ゼミ（地理学・GIS）

演習（ゼミ）活動

飯塚ゼミでは，以下の 3 つを主な活動としている．

① GIS を用いた地図化・可視化・空間分析手法について学ぶ．ArcGIS や QGIS をはじめ，様々なソフトウェアを用いながら，GIS の可能性について議論する．ゼミではゼミ生全員が「GIS 学術士」資格を取得するために，GIS を用いた卒業論文を執筆する．

②大学周辺や近隣地域でのフィールドワーク（日帰り）を実施する．2021 年度から近大通りに関する現地調査と過去の住宅地図による店舗変遷について取り組んでいる．

③京都市をはじめ，様々な地域におけるフィールドワーク（宿泊を伴う）を実施する．実施後，フィールドワークで得られた知見や情報を GIS を用いて地図化し，ArcGIS Online やストーリーマップ，Mapillary などのアプリを用いて情報共有や発信する．

今後想定される卒業論文・卒業研究

- GIS を用いた街並み景観の変化に関する研究
- 水辺空間の利用変化に関する GIS 分析－水都大阪を事例に－
- ネットワークボロノイを用いた冬季の函館市における津波避難圏の時空間分析
- フードデザート問題の実態把握と解決策の提案－大阪府泉佐野市を事例として－
- 生野コリアタウンの店舗から見る商店街の活性化
- 地下道と交差点が引き起こす交通事故の要因
- 都市と地方の世襲議員分析
- 大和葛城山における登山道整備状況

今西亜友美ゼミ（地域生態学）

ゼミ活動の概要

3年次は，図鑑を使って樹木の名前を調べる方法や，樹木の大きさ，日射量，土壌水分量の測定などの環境調査手法を学ぶフィールドワークと，論文の検索･図解などの座学を行う．4年次は，科学的文章作成法や効果的なスライドデザインを学ぶとともに，各自で卒業論文のテーマを決めて調査を実施する．卒業論文作成にあたっては，ゼミ内での発表・議論を繰り返し，他者の意見を聞いて自分の考えを深め，より良いものへと改善していく．

卒業論文のテーマ

卒業論文のテーマは，地域の自然環境に関する研究と，環境教育に関する研究の2つに大きく分けられる．

地域の自然環境に関する研究では，動物や植物の中から，対象とする分類群や種を選び，在来種であれば保全，外来種であれば防除・駆除に向けて，対象分類群・種の生息・生育環境条件などを明らかにする生態学的研究もあれば，自然への人々の意識や自然がもたらす人々への効果，自然保護団体の特徴や課題等について社会調査手法を用いて明らかにする研究もある．代表的な卒業論文として，「外来植物メリケントキンソウの生育環境及び種子散布に関する研究」(2016)，「大阪市役所屋上緑化における緑化方法の違いによる昆虫相の差異」(2017)，「犯罪不安の抑制と好ましさの両立を目指した緑道の樹木に関する研究」(2020) が挙げられる．

環境教育に関する研究では，幼少期や学童期における自然体験活動が，子どもの心身や将来の環境配慮意識・行動に及ぼす影響について，社会調査手法を用いて明らかにする研究が多い．代表的な卒業論文として，「森のようちえんと通常の幼稚園の子どもたちの意欲と社交性の差異」(2019)，「ESDで育みたい力とボランティア経験との関係」(2020) がある．

津島　光ゼミ（環境とまちづくり）

演習の概要

津島ゼミ各員のテーマは環境まちづくり系専攻とのこともあり，まずは環境を主題として副題にできるだけ研究対象を明記する事で近畿大学のめざす実学教育の実践とすることを趣旨としている．毎年学生が作成してくれているおもしろいテーマや対象もあり，実績を積んでいるのではないかと考えている．

主な卒業論文

- 「ブータンから学ぶ「幸福」とは　―これからの都市・まちづくりへの視点について―」(2013)
- 「日本人にとってのサードプレイスについての研究　―スターバックス等の店舗展開から―」(2013)
- 「食品の安全性に関する研究　―　中国における酪農業問題から―」(2014)
- 「音の風景とまちづくりに関する研究　―心地よい音とはどのようなものか―」(2015)
- 「ユーモアある環境デザインに関する一考察」(2015)
- 「GISを用いた水力発電導入有望地域の抽出と導入ポテンシャルの考察」(2016)
- 「大阪市の住みやすい町づくりに関する一考察　―世界一住みやすい町メルボルンから―」(2016)
- 「ブランディングについての一考察　―ブラ

ンディング概念から見る都市の在り方―」(2017)
- 「廃校ビジネスによる地域活性化についての考察　―京都府と兵庫県の「商業施設」の事例から―」(2018)
- 「J リーグと地域貢献活動に関する一考察 ―J リーグに求められる地域貢献活動とは―」(2018)
- 「心地よい音環境に関する考察」(2019)
- 「山城の変化と街の発展についての研究　―安土城の都市構造から―」(2020)
- 「地域ブランドによる地域活性化　― 児島ジーンズを例にして ―」(2020)

中田真木子ゼミ

ゼミの概要

ゼミでは大気環境に関する基礎知識を身につけ，論理的に環境問題について考えることができる力を習得することを目指しています．3 年生の前期のゼミでは，自分の暮らすまちの大気環境に興味を持ってもらうために，視程観測を行います．さらに，気象データや大気環境データの扱い方を学び，大気混濁度に影響を与える要因について考えてもらっています．3 年生の後期には，ゼミでの議論やグループワーク，上級生の研究発表の聴講などを通して，卒業論文のテーマを決めていきます．4 年生のゼミは，テーマに沿って，卒業論文を作成していくことがメインとなりますが，進捗報告を行い，各自の研究経過をゼミで共有しながら進めています．

主な卒業論文

総合社会学部 1 期生が卒業してから 2020 年度までに 90 名のゼミ生が卒業論文を作成し，巣立っていきました．大気環境や気候，気象に関連した内容を中心に，ゼミ生が興味関心をもったテーマを卒業論文の題材としています．卒業論文を振り返ると，その時期の社会の様子を反映しており，2013 年に $PM_{2.5}$ が脚光を浴びたことから，2013 年度には $PM_{2.5}$ をテーマとした卒業論文が登場します．日本の大気環境については，越境汚染の影響を考える必要があるため卒業論文でもローカル汚染と越境汚染の寄与を調べる研究に取り組んできました．また，気候変動の影響や温暖化対策における大気汚染エアロゾル排出削減についての検討を行った卒業論文も実施してきました．相次ぐ気象災害に関心をもち，降水について調べる卒業論文や観天望気など自らの体験をもとに興味を持った内容をテーマにした卒業論文もありました．2020 年度の卒業論文では，コロナ禍に関連し，緊急事態宣言による大気汚染緩和を調べた研究もありました．

内海秀樹ゼミ

演習の概要

学部創設時（2010）からある研究室のひとつである．例えば「資源」は最初からあるのではなく，あるものを社会的文脈とのかかわりとしてみた時に「資源」となり得るか，なり得ないかという，両者のかかわりを「環境」としてとらえる立場から教育を行っている．廃棄物問題や資源と社会･環境，環境配慮行動，食に関する問題等が主要なテーマであり，学生の思考力を付けるために彼らの希望を優先

した指導をしている．

主な卒業論文

卒業論文は，2013 年度から始まり 2020 年度時点で 81 編ある．主なものを次に示す．（消費者側からの廃棄物問題）「訪問介護サービス中における手つかず食品の排出実態について－東大阪市の訪問介護事業所を対象に－」(2016)，「環境配慮行動の代替行動の評価に関する研究－マイバッグ持参行動を対象に－」(2014)，「ポイ捨てされたレジ袋と配布元との関わりについての研究」(2018)，「厨芥類分別行動における潜在因子に関する研究－斑鳩町の地域社会とゼロ・ウェイスト政策を対象として－」(2019) 他．（行政側からの廃棄物問題）「粗大ごみ収集手数料徴収方法が収集量の変化に与える影響－大阪府下市町村を対象として－」(2016)，「資源ごみ回収拠点の分布状況と地域特性との関係についての考察－東大阪市を事例として－」(2013)，「災害廃棄物処理計画の検討事項についての研究－伊丹市と倉敷市を事例に－」(2019) 他．（資源と社会・環境）「割り箸をめぐる環境保全及び社会貢献についての研究」(2013)，「伝統食の観光資源化とその環境への影響－香川県の「讃岐うどん」を対象として－」(2018)（食に関する問題）「親の過去の食育経験と子どもへの食育との関連性－親の食育と子どもの食状況との関連について－」(2019)

大野司郎ゼミ（地盤環境学）

ゼミの概要

ゼミでは，地域のインフラ整備やまちづくり，地域防災のあり方，自然と人間社会との関係など環境に関わる時事問題を取り上げ，数理的な思考による解決策の議論を行っています。単純な問題提起と簡単な議論からはじめ，議論の中から生まれたアイディアを，3 年次には懸賞論文や学外コンペに応募すること，4 年次には卒業論文を自分の言葉で書きあげることをゼミ全体の目標にしています。特に，無為自然の概念を基調として，無理をしない環境整備やまちづくりのイメージを捉えられること，“技術”が核となる研究展開，社会的企画への協力，将来の進路に関連した研究課題の設定をゼミ活動の柱としています。

主な卒業論文

- 高齢化社会に対応するための趣味のビジネス化に関する提案（2013 年度）
- 電子レンジを用いたバイオマスの減容化に関する基礎的研究（2014 年度）
- 福島原発被災地における居住限界に関する調査研究（2015 年度）
- 近畿大学 E キャンパスにおけるビル風環境の評価（2016 年度）
- 災害避難時におけるエコノミークラス症候群防止対策（2016 年度）
- バイオマス固化体におけるサンドブラスターデザインの適用（2017 年度）
- PERT を用いた高齢者の最適な避難計画の検討―桜島地域の避難訓練を事例に―（2018 年度）
- ヨガ運動を対象とした動作解析システムの開発（2018 年度）
- 大阪市内河川水質の現状と改善策の提案―道頓堀川・東横堀川を事例として―（2019 年度）
- 鉄道高架下空間の利活用に関する研究（2020 年度）
- 海外にルーツを持つ人の支援について―伊賀市を対象として―（2020 年度）

保本正芳ゼミ

ゼミの概要

3年：エクセルによる統計処理や地理情報システムを用いた実習を行う．グループワークでは，社会課題を意識したテーマを設定させ，調べ，意見をまとめ，パワーポイントで発表，報告書の作成を行わせる．後期からは，各自で卒業研究のテーマの検討をさせる．4年生との交流は，卒業研究進捗報告会，親睦会などを実施する．キャリア教育も行い，様々な分野の社会人のゲストを招き，仕事や学生時代の話を聞かせる．自己分析の指導も行う．

4年：毎週，進捗報告を行い，1年間の研究成果として，卒業論文にまとめてもらう．

卒業論文のテーマ

卒業論文のテーマは，「環境情報」と「ICTや教育」に関わる分野に分けられる．

環境情報：地上や人工衛星からのデータを用いて，自然環境分析を行う．テーマ例）アジア域における大気汚染物質の排出量の変化の把握，北極圏海氷領域の抽出，沖縄周辺のサンゴ礁分布図の作成，インドネシア森林火災の影響評価，宇宙から観た都市の明るさ，衛星データによるツキノワグマの生息地評価，水環境変化による魚類への影響など

ICTや教育：社会情報分析やマルチメディア・コンテンツの制作，教育支援など．テーマ例）中小企業でのSDGs経営実施に関する調査，中学で実施するSDGs教育やキャリアデザイン教育の運営の検討（例：近畿大学附属中学の授業に参加），スマホ決済導入に関する調査，ICTを活用した商店街活性化プロジェクト（例：ふせのわ，https://fusenowa.com/），SNSを活用した観光プロモーションの検証，社会が求める人物像に関する調査，キャリア教育用コンテンツの制作など

石井隆之ゼミ（言語と文化を総合的に学ぶ）

演習の概要

私の専攻は「文法の文法（＝文法を成立させる原理）」の探求を目的とする理論言語学ですが，総合社会学部の学生のゼミを担当するにあたり，社会と言語の関わりを研究する言語学分野である社会言語学をゼミで教えています．

具体的には，方言，女性言葉，若者言葉，敬語，業界用語，流行語，公用語，バイリンガリズム，日本社会における言語現象（言霊の発想，キラキラネームなど）を扱っています．

同時に，私が学生時代に通訳案内士（観光ガイド）の資格を取得し，そのころから日本文化を幅広く研究し始めたこともあり，「日本文化」もゼミでの研究テーマとしています．

主に，比較文化論的アプローチによる日本文化論（気の文化，木の文化，手の文化，間の文化，甘え文化，「なる言語」の文化，縮み志向，切り志向，重なり志向，過去指向など），宗教的事象（祖先崇拝，神道，日本神話，仏教，神仏習合など），日本文化の諸側面（衣食住，年中行事と通過儀礼など），および，日本のサブカルチャーを研究対象としています．

言語と文化を総合的に扱い，教養基礎教育では，英語も教えているので，ゼミ生の論文の中には，英語教育に関するものもあります．

主な卒業論文

- 「若年層の広島弁使用の衰退についての考察」
- 「キラキラネームにおける問題点」
- 「日本と世界における時間の捉え方の違い ---比較文化的視点から」
- 「スペインの食文化と年中行事の関係について」
- 「英語教育の矛盾と新たなアプローチ」

下　絵津子ゼミ（言語教育）

演習の概要

ゼミ活動のキーワードには，「教育と社会」「異文化理解」「多文化共生」「ことばと思考」「比較文化」「言語学習」「言語教育政策」「ことばと文化」がある．具体的には，「人はどのように言葉を身につけるのか」「異言語の学習開始は早ければ早いほどよいのか」「なぜ英語やそのほかの言語を勉強するのか」「身につけるべき言語力とはどのようなものか」「言語学習にはどのように取り組む（べき）ものか」そして，「世界では英語やそのほかの言語はどのように使用されているのか」といった問題を扱っている．言語習得のプロセス，言語学習の動機づけ，学習ストラテジー，学習者ビリーフ，言語政策などをトピックに，文献講読，討論（ディベート），グループ・個人での調査，論文執筆，発表等の活動を行っている．

主な卒業論文

これまでの卒業論文で扱ったテーマには，「外国人児童生徒の貧困と就学について」「外国語活動のために国語教育をどう考えていくか」「若者の電子端末依存と会話離れの現状」「ヘヴィメタルの持つ暴力性は人を暴力的にさせるのか」「幼少期における英語教育」「日本人は受験英語で英語を身につけられるか」「小学校における外国語活動の現状」「日本文化と教育の在り方」「外来語の表記ゆれについて」などがある．2021 年度のゼミでは，流行歌の歌詞に反映される日本社会における女性像の変化，コミュニケーションにおける沈黙の機能や役割，ネット上のコミュニケーションとインターネットスラングなど，ゼミ活動のキーワードをもとに学生がそれぞれに関心のあるテーマを設定し，発表や原稿の読みあい等を通して互いに切磋琢磨しながら，個々のプロジェクトに取り組んでいる．

好並　晶ゼミ

教養基礎教育部門に所属している私がゼミを受け持ち始めたのは 2019 年度からである．2018 年度入学生数が例年に較べ大幅に増え，教養基礎教育部門の教員がゼミ運営の協力をする，という事情からだったが，私にとっては自分のゼミ生を持つという好機でもあった．二年生の「基礎講読（鑑賞）」から，私は〝プレゼミ〟と呼んで学生主体のゼミ授業を始めた．共通テーマは「趣味を考える」．私自身が元々映像に興味を持ち，中国映画に出逢って今の人生経路を歩んだ経験を踏まえ，自らの趣味を学問的に考察する，それによってその趣味ジャンルが生まれた社会背景，そしてそれを愛好する主体の在処を感得することを主眼に置いた．2021 年度に四年生となったゼミ生たちの卒論テーマは，「ゲームは第八芸術となり得るか」「アイドルと映像―認識論を踏まえて―」「1970 年代と日本アバンギャルド」「SNS によるバイクブームの変貌」「アニソン・Jpop 新世代論」「列車旅・再考」など多岐に亘り，私は教え導きながら学生たちを取り巻く新事象を知るという知的交歓を愉しんでいる．2021 年度卒業生を無事送り出した後は，2020 年度入学〝コロナ第一世代〟のゼミと、2021 年度入学生の基礎購読（鑑賞）を開講する予定である．

デラ　リチャードゼミ

演習の概要

2年のゼミでは，日本の歴史に焦点を当てます．第一期は，軍記物語などの日本文学に見られるように，日本の歴史における戦士のイメージを研究します．次に，この画像を戦士の歴史的現実と比較します．第二期は江戸時代から始まり，歴史のさまざまな議論の余地がある部分を考察します．たとえば，人気のある忠臣蔵．この 47 浪人のイメージは？時間の経過とともにどのように変化しましたのか？他には，「大正デモクラシー」という用語は，本当にその時代のイメージ通りなのかを考察していきます．

3年と4年のセミナーは教育に焦点を当てています．モチベーション，教育学，テストなど，教育に関連するさまざまなトピックを調べます．さらに，日本，米国，タイなどの国々で，目標，教師の免許要件，教科書の採用に関して，教育がどのように異なるかを調査します．

主な卒業論文

私のゼミでは，学生の皆さんは様々なテーマを自由に選んでいます．

西村香奈絵ゼミ（言語学）

ゼミ活動

「ことば」をキーワードに，不思議，面白い！と感じる言葉や現象について事例収集して観察し，文献を調べ，時にはアンケート調査をしたり，実際の会話を収録するなどして実情を調べて分析します．人の成長には，気づき，やる気，面白さ，助け合いなど，仲間からの刺激が何より大事だと考え，ゼミではグループやペアでの活動をできるだけ多く行うようにしています．ゼミの雰囲気は，その年ごとに集まってくる人たちによって全く異なっています．個性派ぞろいの時もあれば，しっかりものの集まりの時もあれば，まったりした雰囲気の時も，一匹狼の集まりのような時もあります．一人一人の個性に出会うのが毎年とても楽しみです．どの人にも素晴らしいところがあり，人によってそれが見えにくければ見えにくいほど，掘り出すのが楽しみです．見つかったと思ったら2年間はすぐに過ぎ去って，あっさりみんな卒業して行ってしまうのが寂しくて，毎年卒業式はとても苦手です．

主な卒業論文

- 「英語の可算名詞と不可算名詞の分け方」（2014 年度）
- 「若者言葉の使用実態－本来の意味と近年若者が使用する意味とのズレ－」（2014 年度）
- 「漫画の効果音として用いられる擬音語・擬態語の翻訳方法」（2014 年度）
- 「21 世紀の日本語母語話者が使う程度副詞」（2015 年度）
- 「ファッション雑誌における言語表現の特徴」（2015 年度）
- 「広告コピーからみることばとジェンダー」（2020 年度）
- 「日本語ラップと英語ラップの韻の違い」（2020 年度）
- 「日本語の言語表現に隠された日本人の心」（2020 年度）

松田紀子ゼミ

演習の概要

私のゼミでは，1～2年生のうちは大学での学びにおいて必要な基本的なスキル（読み，書き，発表，討論等をするためのスキル等）を身につけることに力を注いでいます．特に2年生後期のゼミの授業では，ディベートの練習をしながらクリティカルシンキングのスキルを磨くのですが，学生の皆さんがめきめきとスキルを伸ばしていく様子を拝見できることに喜びを感じます．また，柔軟な発想をぶつけ合うことで新たな化学反応が生じる様子を見ていると，グループで学ぶことの重要性に改めて気づかされます．3～4年生ではリサーチリテラシー（研究をするための基礎的な力）を身につけることに重きを置いています．その上で，卒業論文には興味のあるテーマを自由に選んでほしいと考えています．論文として成立するような内容で興味のあるテーマを選ぶことは，大学での学びを象徴するような，やりがいのある，かつ重要な課題だと思っています．ゼミでは，何より主体性を重んじていますので，テーマは自分で探すことを勧めていますが，一緒にテーマを探すときもあります．私自身も一緒に探すことで学ぶことが多く，様々な力を伸ばしていける機会だと感じています．Zoomを使用することで遠隔でも個別指導に力を注げるようになったため，就職活動等で忙しい期間は学生の皆さんの都合の良い日時に合わせて指導しています．就職活動や卒業論文の作成で頑張っている姿を見て，励まされることが多かったように思います．学生の皆さんの目標達成に向け，一緒に学ぶ機会があることに感謝しています．

主な卒業論文

私のゼミでは，学生の皆さんは様々なテーマを自由に選んでいます．中には，私もこんなことを調査してみたいと思わせるような，魅力的な研究もあります．4年生ゼミを初めて担当した2021年度の卒業研究は多岐に及んでおり，私の研究分野である応用言語学の研究もあれば，就職活動やキャリアへの意識，健康意識，化粧意識，主観的幸福感，自己肯定感，承認欲求，パーソナリティ，食品廃棄，スマホ依存症，SNSと消費行動，読書と主体性に関する研究等があります．

奥田祥子ゼミ

演習の概要

社会学（メディア論，ジェンダー論，逸脱研究等）の概念・理論の修得と，インタビュー調査など質的調査の実践，話す，書く，人の話を聴いて受容したうえで，説得力のある客観的な理由づけによって同意，反論する，といった技能を磨くためのグループ・ディスカッション，1人ずつのプレゼンテーション，レポート提出などを展開しています．

ホットな社会問題をテーマとして取り上げるべく，ゼミ生各自の興味に合わせ，メディア，ジェンダー，労働問題はもとより，医療・福祉，貧困，教育，環境，大衆文化などさまざまなテーマに取り組んでおり，共通テーマとしてSDGsについても学んで議論し，考察を深める機会を設けています．

代表的な卒業論文

大別すると，ソーシャル・メディアを含めたメディア関連，ジェンダー・ギャップなど

のジェンダー問題，そしてオタク・アイドル研究などポップカルチャーの 3 つの分野を卒業論文のテーマに選ぶ学生が多く，若い人たちならではの斬新な視点，発想による優れた卒論が多く提出されています．

そのひとつが，「若者の活字離れは本当に進んでいるのか」（2018 年度）をリサーチクエスチョンとした卒論です．新聞，書籍など印刷物からの活字離れは確かに進行しているが，SNS での活字のやりとりは好んで行うなど，若者は活字そのものを嫌い，離れているわけではないことを検証しました．「女性の仕事と家庭の両立困難」（2019 年度）をテーマにした卒論では，サポート資源として地域に着目し，さらなる女性の社会進出に向けた方策を提示しました．

西口善則ゼミ

演習の概要

「今を斬る！」というテーマで社会を見つめる．討論やレポート作成，プレゼンを通して様々なニュースを見つめ，考え，表現する力を身につけていきます．就職活動や社会に出て活躍するための“時代感覚”“感性”を磨いていきます．

主な卒業論文

2013 年度…『報道の原点に関する考察～石巻日日新聞にみる東日本大震災の報道と被災地～』『日本の“アイドル”に関する考察～本当にアイドルは必要なのか～』など．2014 年度…『男役からみる宝塚歌劇団 100 周年』『WEB サービスの発展と影響～ SNS に見る生活の変化に関する考察～』など．2015 年度…『「派閥政治の功罪」―自民党 60 年から多様性の考察―』『ゆるキャラから考えるコミュニケーション―地域ブランディングとキャラクター―』など．2016 年度…『新撰組の真実―新撰組はヒーローか，悪役か―』『NPB における移籍市場の活性化に向けて』など．2017 年度…『スマホ依存について～スマートフォンに飲み込まれないために～』『ホークスの育成選手はなぜ育つのか』など．2018 年度…『韓国文化が日本の若者にもたらす影響とその魅力～なぜ今日本の女性は韓国に憧れるのか？～』『NHK「朝ドラ」の 50 年』など．2019 年度『未来に繋ぐための伝承～広島・長崎の被爆体験から考える～』『ホームレスを取り巻く現状』．2020 年度…『新型コロナウイルスによる影響～東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンの変化～』『「鬼滅の刃」がヒットした要因とその後の影響』など．

安田直史ゼミ

ゼミでの学びの概要

グローバル化の進行により，感染症拡大，環境破壊・温暖化，人権やジェンダー，貧困という地球規模の（グローバルな）社会問題への対応が求められる時代です．私たちには時代の変化に合わなくなった価値観や社会観を修正するために，まず地球的な視野をもって現実を見直し，自分で考えた意見を持ち，問題解決のための行動を起こすことが求められます．

当ゼミでは「社会課題への関心」「国際的視野」「考えて行動する」をキーワードとして調べ，大いに議論し，考えたうえで SDGs week などで自分たちでイベントを企画・実施して

研究や行動の成果を発信してきました．3年生の初めと卒業時では，多くの学生が見違えるほど自分の意見を主張し，議論をファシリテートし，まとめる能力を高めてきました．近大での学びは世界を変える第一歩と信じてゼミを行ってきました．

代表的な卒業研究

卒業研究の対象は学生の興味を尊重し，雑多ですが以下の様なものを含みます．

「コミュニティFMと地域の繋がり」(2018)，「映画から読み取る性的マイノリティ（LGBT）問題の変化」(2018)，「現在の日本のコミュニティーにおける災害時捜索救難のあり方」(2018)，「日中におけるいじめ問題の比較研究」(2019)，「『考える力』と中学校社会科教育の関係に関する研究」(2019)，「移民受け入れのための教育体制」(2019)，「ポリアモリーから見る現代日本についての研究」(2019)，「技能実習生に対して，労働基準法違反が多発するのは何故なのか？」(2020)，「食品ロスにおける食品の期限表示と消費者に関する考察」(2020)，「若者のUターン就職について」(2020)，「ナショナリズムとオリンピックの関係」(2020)，「大学生のファッションスタイル選択要因分析」(2020)

平松　燈ゼミ（地域経済論）

ゼミ活動の内容

3年生は12月の研究発表会（複数の大学の地域経済系ゼミとの合同ゼミ）に向けて，前期は，地域経済学と分析手法を輪読により学び，次に個別研究をゼミで発表する．後期は，グループワークで研究し，発表会で発表する．実際の研究テーマは「ディズニーリゾートに訪れる訪日外国人について」「カジノ大作戦 in Osaka」「瀬戸内海の美術館の観光」「大阪の都市交通の歴史」「ファストファッションと環境」．4年生は卒業論文に取り組む．

主な卒業論文

「経済波及効果からみた関西の観光産業」「ワインブームが大阪府の地域経済に与えた影響」「兵庫県西宮市におけるプロ野球開催による経済波及効果」「LUCUAOSAKAへの人工シミュレーション」「犯罪発生に対する経済的アプローチ」(2017年度)「観光特急A列車で行こうが熊本県に与えた経済効果」「コウノトリの野生復帰に伴う経済効果」「インスタ映えするまちづくり」「高齢化による福祉が与える経済効果」「地域経済におけるロックフェスティバルの経済効果」(2018年度)「スポーツツーリズムによる地域活性化」「世界遺産観光客の推移のタイプ分類および姫路城の平成の大修理の経済効果」「観光における経済効果とEF値による環境負荷」「三重県における石油産業の産業連関分析」「嵐が被災地に与える経済効果」「次世代型観光からみるまちづくり」「ひこにゃんの経済効果」「e-sportsの普及による経済波及効果」「地方地域が活性化するための考察」(2019年度)「訪日客による消費と経済効果」「訪日外国人観光客の及ぼす経済効果」「大学建設が地域に与える経済効果」「東京ディズニーリゾートが与える千葉県浦和市への影響」「北陸新幹線開業による石川県への経済効果」「岸和田だんじりまつりの経済効果」「神戸市西区西神地域の都市開発」「泉州地域における道の駅の経済効果」(2020年度）など．

学生たちの活動

学生主体の活動団体の概要

大野司郎

総合社会学部にはいくつかの公認団体が存在する。学部発足当初から継続して活動している３つの団体の在学生に，2021 年秋に座談会形式で自分達の活動をそれぞれ振り返ってもらった。

近畿大学総合社会学部自治会：各学部に設けられている文字通り「学生の自治」を推し進めるための組織で，大学－学生間の窓口の役割を果たしている。学生の様々な意見や要望を取りまとめて大学側（主に学部長）と折衝したり，学生のためのスポーツや文化的イベントを企画したりしている。

公認団体「**自治会**」のメンバー 11 名（3 年の**Ａくん，Ｂさん，Ｃさん，Ｄくん，**2 年の**Ｅくん，Ｆさん，**1 年の**Ｇくん，Ｈくん，**委員長経験者 OB の**Ｉくん，Ｊくん，Ｋくん**）が自分たちの歩みを振り返り，1 ～ 3 年の現役生が 4 年以上委員長経験者 OB に問い掛ける形で，現在の活動と，将来への期待について語り合った。

Ｊくん：僕は，総合社会学部に特に希望とかなく，何となく入ってやりたいこともなく適当に過ごしてきたなと思うけど，総合社会学部の学びや**自治会での活動で**，誰かのために何かをするというのが好きな自分を見つけられたことが大きかったです。みなさんはどうですか。**印象に残っている活動として**は，自分達の代で新入生交流会という企画を行ってそれが大成功を収めたことが自分の財産ともなっています。

Ｂさん：今年も新入生交流会を行って，沢山の新入生が自治会に興味を持ってくれました。去年できなくて，今年は対面でできたので，良かったです。

Ｉくん：去年は様々なイベント企画が中止を余儀なくされて，様々な制約のなか，自治会として表立った活動があまりできなかったことを申し訳なく思います。

Ｂさん：ただ SNS を使ったことが様々な今年の活動に繋がっているので，制限のある中での去年の工夫があって良かったんじゃないかと思っています。

Ａくん：確かに今年は堅いイメージのある自治会を何とかポップなイメージにしようと SNS で発信することに努め，少しずつ自治会の印象は変化していると実感しています。

Ｈくん：先輩達の代で，こうしたら上手くいくなど**大切にしたほうがいいというもの**があれば，自治会としてそれを引き継いでいきたいと思いますが，なにかありますか。

Ｉくん：僕は何かを成し遂げるときの原動力にはモチベーションが最も重要だと思うので，それを育むことに重点をおくことが大切かなと思います。

Ｊくん：僕は，1. 明るく楽しく元気に，自治会はファミリー（最低限の礼儀の上での仲の良さ）と，2. 個々と団体のそれぞれ目標を持つこと，この２つを大切にしてほしいです。

Ｂさん：現在コロナの影響もあって２年生の人数が少ない中，自治会としての業務を本来は引退する３年生が行っている実状があって，**後輩との業務面での関わり方で何か注意すべきこと**はありますか。引継ぎ書は作っています。

Ｋくん：引継ぎ書を作っているんだとすれば，今の状況は仕方がないんじゃないかな。下の学年の人が上の学年のやっている業務を見て引継いでいく流れがあるのなら，３年生の主体的な関わりは決してマイナスではないと思う。

G くん：僕は来年度**忙しい文化祭の係になる予定**で，先輩を見ていて，その**仕事量の多さに不安**しかないんですけど，なにかアドバイスをいただけないでしょうか。
I くん：忙しい係になったらなったで，アドレナリンが出て体が独りでに動くから大丈夫。
J くん：確かにそれはある。確かに仕事もものすごく多い。だけど，それ以上のやりがいがある。学業に支障が出ない程度の仕事量なので，日々コンスタントに仕事をこなしていけば大丈夫だと思う。来場者を楽しませるというマインドだけは忘れないでください。
E くん：僕は次期委員長になるんですが，**先輩方が委員長になった理由**を教えてください。
A くん：僕は今しかできないことに挑戦したいと思ったこと，自分が失敗しても周りの仲間が心の支えになってくれるのできっとやり遂げられる，という 2 点で引き受けました。
I くん：僕は 2 年で文化祭の係を行って，自分はこんなにできるんだという自分を再発見して，その勢いでもっとできると思って委員長になりました。
K くん：僕は自分がほとんど何もできない中で，周りの人がとても優秀で信頼があったので，委員長をやってもいいかなと思ってなりました。
J くん：僕は小中高と生徒会やってきて，大学が集大成だと思って，委員長になりました。自分ができると思ったし，実際しっかりやれたと思う。そんな自信をもってやったらいい。
K くん：最後に**現役生へのエールとして**，僕らの代ではコロナ禍という活動制限があってやりたいこともあまりできなかったという心残りはあります。ただ，その中でも自分達でできることを考えて実行するという姿勢が大切かなとあらためて思います。
K くん：自治会では様々なイベントでいろいろ行動すると思うけど，とにかく後悔のない選択をすると大学生活が充実したものになるので，後悔しない選択が重要かなと思います。
J くん：僕からは，とにかく楽しんでください，とだけ。できること・できないことある中で，まずはトライというところから始めてください。
E くん：先輩方ありがとうございました。ひととおり聞いてみて，なんだかんだいって自治会のメンバーは皆真面目なんだなあということを感じました。（ありがとうございました）

まちあるき実行委員会：環境・まちづくり系専攻に設けられている年 2 回春と秋に実施する「まちあるき」イベントを実施する委員会で，毎週一回の会議とイベントの下見・当日運営が主な活動である。また学部内のオープンキャンパスでの展示やゲストへの相談コーナー，模擬講義アンケートの集計など幅広くボランタリーに学部に協力してきている。

公認団体「**まちあるき実行委員会**」の委員 4 名（3 年の **L くん，M さん，N さん，**2 年の **O さん，**1 年の **P くん**）が自分達の活動について語り合った。
L くん：僕たち「**まちあるき実行委員会**」は，2019 年の春に津山・美作，秋に近江八幡・大津に行って以来，コロナ禍でずっとイベントが中止となっていてほとんど活動できていないけど，そんな中でのまちあるき実行委員会の活動について語り合いたいと思います。
M さん:正直，あんま覚えてないんやけど。（←編集してくださいとの依頼あり。貴重な感想のため記載）
N さん：私たちの活動は，年 2 回のまちあるきイベントと，年 4 回のオープンキャンパスでのその活動内容の広報なんですが，私は最初からの委員でなく，最初のイベントで L くんや M さんが実行委員会でみんなを案内していたのを覚えています。
M さん：私は 1 年の春から委員として活動してて，先生方との繋がりが増えるよ，まちあるきはこんなことしてるよとの先輩の話に，「まぁやるか」というノリで委員になりました。
L くん：僕もそう，みんな最初はそんな感じだと思う。1 年の春のイベントは，2 年の先輩が秋からずっと計画を立ててくれていたから，イベント当日のサポートはしたけども，ほとんど参加者に近い立場で参加したね。まちづくりの勉強というよりは，友達づくりだった。
P くん：僕は 1 年の最初からオンライン授業だったので，6 月に一部の対面授業が始まるま

で実行委員会以外の友達づくりもほとんどできなくて。4月に先輩たちが履修相談のオリエンテーションを開いてくれて，それがとても有難かったです。その時に委員になって毎週水曜日のオンライン会議に参加して，同級生や先輩と知り合うことでき，様々なわからないことを先輩達に教えてもらう機会があって，本当に委員になって良かったなと思いました。

Mさん：繋がりが作りづらい環境であったことは確かなので，そういうサポートができていたという話はとても嬉しいです。

Nさん：まちあるきは専攻内の団体なので，一般のサークルだと同じ所属の友達が意外に作りづらいなかで，専攻内の友達を作りやすいということに今気づきました。

Lくん：そういう利点もあるよね。ただ僕たちは1年の時の2回しか“まちあるき”イベントを実施していないから，ここで紹介する内容が少ないかもしれない。

Mさん：（イベント開催ができていなくても毎週の会議は行って）しおり作りや公式LINE@担当などそれぞれの役割に対して，みんなで頑張ってきたという自負はあります。

Nさん：私は事後アンケートの作成とまちあるきに参加を促すプロモーション（資料作成・広報）を行いました。自分の資料で参加者数が増えも減りもすると考えると責任重大だと感じる中，みんなに意見をもらいながらインパクトのある資料作りを心掛けました。

Mさん：印象深いカワイイ資料でそれ覚えてます！私は高校時代に放送部だったので当日のアナウンス担当でした。その原稿は別の人達が作ってくれて，バスの中で読み上げるだけだったんだけども，実際にまちのことを知らなければ読みにくい部分や伝わりにくいだろうなと思う部分もあり，事前に勉強して，わかりやすいアナウンスを心掛けました。

Lくん：それらのことが勉強面に活かされたというふうなことはありますか。

Nさん：ものすごくあります。授業などの発表ではPPT資料を第三者目線で改善することがこれまでなかったけど，この委員会で他の人から改善点を指摘されたことでわかりやすい資料作りを考えるようになり，作るのが早くなり，何より資料作りが楽しくなりました。

Mさん：意外とまちあるきの活動がスキルアップに繋がってるんだね。自分の経験も活かせるし，人の経験も作れるし，みたいな感じだね。

Lくん：自分たちの活動は，まちあるき参加者への学びの場の提供ということを目的にしているけども，知らず知らずのうちに，自らの学びの場ともなっていることに気付けたね。コロナ禍で準備して中止になってが繰り返され，活動のモチベーションはどうですか。

Oさん：この委員会は2年生秋のイベントで引退して引継ぎという形なのですが，2年生の私達はまだまちあるきそのものを経験してなくて（笑）。オンライン会議で引継ぎ内容を教わりながら，自分たちで模索しながら，彦根に行けるように準備だけはしっかり行いました。だけど結局イベント中止となって，委員会としては，現地に行けなくても動画を見てまちあるきに近い内容を学習できるような動画作成を行う方向の活動を検討しています。

Lくん：コロナ禍という状況では致し方ない面があって，また新しい企画にはなかなか難しい状況が想像できるけども，今与えられている環境で自分達にできることを考えて活動している後輩達をとても頼もしく感じています。

Mさん：私達は一つ上の先輩から“イベント中止”の残念な気持ちを受け継いで，自分達の代の“イベント中止”の残念な気持ちも加えて下の後輩に引き継いで，今の1年生が一番何もわからず大変だと思うけども，後輩達には自分たちがやりたいようにやってほしいなという思いがあります。

Oさん：自分たちは引退まで少ししかないんですが，まちあるきに一度は行ってみたい，いつかは実現させたいなという気持ちがあります。ただそれができなくても，他にできることがあるということをみんなと楽しく話して実現していきたいなと思っています。

Pくん：僕らはまだ1年生で十分時間はあります。実際にコロナ禍がどうなっていくのかわからない，前例がないので困っているという状況で，だからこそ，実際に現地に行かな

くても楽しめるという「新たなまちあるき」の形を模索して，それを成功させてみたいです。

N さん：コロナ禍でイベントが開催できない中で，別の方向性を見つけていこうという気持ちになれたことは，委員会の活動の幅が広がって良かったと感じました。

L くん：今回，これまでのまちあるきの活動をあらためて振り返り，また先輩後輩関係なく話し合うことができて，今後のまちあるきを考えるいい機会になりました。ありがとうございました。

エコクルー：環境・まちづくり系専攻に設けられている，主に廃油キャンドルのワークショップを行う団体で，学部のオープンキャンパスや他機関でのイベントでのワークショップを行う団体として幅広く活動してきている。

公認団体「**エコクルー**」のメンバー2名（3年生の**Q さん**，**R さん**）が世話係の保本講師と10年の振り返りとともに，現在の活動について語り合った。

保本：「エコクルー」は，総合社会学部が開設された年に，『環境活動の取り組みとして何かできないか？』という呼び掛けに応える形で学生が任意に集まり，その中でA君（Ⅰ期生）が廃油を使ったキャンドルを作りたいと熱心に活動を始めたことが切っ掛けです。当時10名ほどの学生さんがオープンキャンパスでボランティアとして来場者の高校生にキャンドル作りのワークショップを行うこととなり，それが人気で定例イベントとなりました。Ⅲ・Ⅳ期生の頃に，廃油キャンドルグループから「エコクルー」と自らを名乗るようになり，学外の環境イベント「アースデイ大阪」や生駒市の環境イベントに参加するなど活動の幅を拡げてきました。

Q さん：私もオープンキャンパスや生駒市の七夕のベントに参加しました。高校生や子供達と一緒に，廃油キャンドル作りやクイズ大会を通して環境について考える機会を楽しみました。

R さん：私も以前行われた生駒市の環境イベントでは，子供達とコミュニケーションをすることで楽しいひとときを過ごしました。

Q さん：ふと思うことに，オープンキャンパスで高校生を対象に行う廃油キャンドル作りと，環境イベントで小学生を対象に行うそれとは，イベントを行っている目的が違うので，楽しみ方も変わりますね。

R さん：歳の近い高校生とは進路や学生生活の情報交換が主体で，その中で自分たちの学んでいる分野を知ってほしいという気持ちを持って話をするのに対して，小学生とは環境イベントへの関わりそのものを楽しむというもので，その空気感がかなり違いますね。

保本：生駒市の環境イベントへの参加は，卒業生のYさん（Ⅴ期生）が講演会で知り合った生駒市の職員の方と自分たちの環境活動を紹介する中で，参加協力を依頼されたと聞きました。学生さんが自分たちの活動や学んでいる内容に誇りを持ち，さらに自ら学外に出ていくような活動となっています。まだ歴史は浅いですが，素晴らしい積み重ねだと思います。

R さん：エコクルーの活動は廃油キャンドルのワークショップがメインのものですが，残布を使ったエコティッシュカバー作りもありますね。

Q さん：コロナ禍の中で，ほとんど活動らしい活動はできていませんが，環境意識が高いかどうかではなく，何でもいいから，何かのきっかけになったらいいなと思いながら参加しています。

保本：自分自身は，教員として廃油キャンドル作りに関心があるかと問われると非常に怪しくて，これまで頑張ってきた学生さんが人懐っこく接してきてくれているから世話係として協力するという形になっています。こうして振り返ると，自分でもいろいろなことに気づくことがあったし，課外で学生さんの気づきのお手伝いができているという喜びも実感しています。イベント参加はいろんな意味で面倒なことも多いけれど，かけがえのないものを得るチャンスですから，そこを乗り越えてほしいですね。（本日はありがとうございました）

学生の受賞歴

2014 年

社会・マスメディア系専攻

「MADE IN OSAKA CM AWARDS」（公益社団法人大阪広告協会主催）

テレビ CM 学生部門　優秀賞（田中実ゼミ　チーム YUKEMURI）

2016 年

社会・マスメディア系専攻

「MADE IN OSAKA CM AWARDS」（公益社団法人大阪広告協会主催）

テレビ CM 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　うさぎさんチーム）

ラジオ CM 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　おさるさんチーム）

環境・まちづくり系専攻

「生野区空き家リノベーションデザインコンクール」（大阪市生野区主催）

優秀賞（田中晃代ゼミ，大阪工業大学大学院生と連携）

2017 年

社会・マスメディア系専攻

「MADE IN OSAKA CM AWARDS」（公益社団法人大阪広告協会主催）

テレビ CM 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　チームライフ）

ラジオ CM 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　チームももたろう）

環境・まちづくり系専攻

「第 1 回課題解決型ビジネスプランコンテスト」（近畿大学経営学部主催）

最優秀賞（田中晃代ゼミ，久隆浩ゼミ　はのけんず）

「第 4 回課題解決型ビジネスプランコンテスト」（近畿大学経営学部主催）

優勝（田中晃代ゼミ，久隆浩ゼミ　はのけんず）

「学生まちづくり政策コンテスト」（福井県おおい町主催）

優秀賞（近畿大学総合社会学部農業体験サークル「やまぼうし農園」）

「学生まちづくり政策コンテスト」（福井県おおい町主催）

特別賞（大野司郎ゼミ（総合社会学部，農学部，総合文化研究科文化・社会学専攻の混合チーム））

2018 年

社会・マスメディア系専攻

「MADE IN OSAKA CM AWARDS」（公益社団法人大阪広告協会主催）

テレビ CM 学生部門　最優秀賞（山本良二ゼミ　チーム考え中）

テレビ CM 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　学生 1 名）

環境・まちづくり系専攻

「KANSAI STUDENTS PITCH GRAND Prix」（KANSAI STUDENTS PITCH GRAND Prix 連絡協議会主催）

審査員特別賞（田中晃代ゼミ，久隆浩ゼミ　はのけんず）

2019 年

社会・マスメディア系専攻

「HaHaHa Osaka Creativity Awards」（公益社団法人大阪広告協会主催）

テレビ・WEB 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　☆スタードリーム☆制作会社）

テレビ・WEB 学生部門　優秀賞（山本良二ゼミ　CM つくっちゃお☆）

ラジオ学生部門　最優秀賞（山本良二ゼミ　チームダイエット中）

2020 年

社会・マスメディア系専攻

「HaHaHa Osaka Creativity Awards」（公益社団法人大阪広告協会主催）

ラジオ学生部門　優秀賞（山本良二ゼミチーム熱帯低気圧）

2021 年

環境・まちづくり系専攻

「第 11 回近畿大学懸賞論文」（（株）自然総研主催）

佳作（大野司郎ゼミ）

総合社会学部 就職・進路状況

インターンシップ・キャリア支援委員会　本岡寛子

1．卒業生の就職率・進路決定率

2010年に総合社会学部が設立され，2013年度に最初の卒業生が輩出された．毎年度，就職希望学生の9割以上が就職を決めている（Table 1）．一般企業に正社員として就職する者が7～8割を占めているが，公務員，大学院進学の道を選ぶ者もおり，進路決定率は8～9割程度となっている（Table 2）．

2．進路先（業種）の特徴

総合社会学部全体として，卸売・小売業，サービス業，金融・保険業，製造業に就く卒業生が多いが（Table 3），3専攻において各々に特徴がみられる．

Table 1　2013年度～2020年度卒業生の就職率

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
就職（正社員）	315	298	341	357	388	418	399	391
非就職来年度企業受験	13	20	15	10	11	11	12	24
就職率	96.0%	93.7%	95.8%	97.3%	97.2%	97.4%	97.1%	94.2%

Table 2　2013年度～2020年度卒業生の進路決定率

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
就職（正社員）	315	298	341	357	388	418	399	391
就職（公務員）	12	12	20	17	16	11	14	18
就職（教員）	2	3	4	0	4	3	2	0
就職（自営）	1	0	3	9	1	5	3	4
就職（派遣）	0	0	1	0	1	0	1	1
就職（契約）	6	14	3	3	4	4	2	3
進学（大学院）	7	9	12	18	12	12	19	15
進学（大学）	0	2	0	1	0	0	1	0
進学（その他）	2	0	0	0	0	0	0	0
卒業生	412	415	437	447	465	497	490	502
進路決定率	83.7%	81.4%	87.9%	90.6%	91.6%	91.1%	90.0%	86.1%

Table 3　2013年度～2020年度卒業生（学部全体）の進路（業種別）

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	医療・教育	サービス業	自営	公務員	教員	大学院進学
2013年度	5.0%	12.7%	9.0%	3.3%	29.0%	9.7%	2.3%	6.0%	15.7%	0.3%	4.0%	0.7%	2.3%
2014年度	2.6%	9.2%	8.9%	4.0%	34.7%	10.7%	1.8%	3.0%	15.9%	-	4.4%	1.1%	3.3%
2015年度	6.4%	9.4%	7.6%	2.4%	28.0%	15.2%	2.1%	1.5%	15.5%	0.9%	6.1%	1.2%	3.7%
2016年度	3.8%	11.3%	7.3%	1.8%	25.0%	19.2%	2.6%	4.4%	11.9%	2.6%	4.9%	-	5.2%
2017年度	3.2%	9.3%	11.0%	1.5%	27.8%	9.9%	4.6%	4.3%	18.8%	0.3%	4.6%	1.2%	3.5%
2018年度	6.0%	13.4%	8.8%	4.0%	24.8%	12.0%	3.1%	2.9%	16.2%	1.4%	3.1%	0.9%	3.4%
2019年度	4.2%	10.7%	10.1%	4.5%	27.6%	9.0%	3.7%	2.8%	16.6%	0.9%	3.9%	0.6%	5.4%
2020年度	3.6%	8.9%	11.2%	3.6%	29.9%	7.1%	3.6%	4.1%	16.5%	1.2%	5.3%	-	4.4%

Note：医療・教育:「医療・福祉」「教育・学習支援業」，サービス業:「飲食・宿泊業」「複合サービス業」「サービス業」の合計

環境・まちづくり系専攻（環境系含む）は，建築業，不動産業，公務員の割合が他専攻より割合が大きい（Table 4）．就職先として，大和ハウス工業，積水ハウス，大東建託，住友林業，農林水産省近畿農政局，大阪府庁，京都府庁等がある．

心理系専攻は，他専攻と比較して医療・福祉・教育領域への就職と大学院進学が多いのが特徴である（Table 5）．病院や福祉施設，NPO 法人，教育委員会等にも就職している．また，大学院進学者が多い理由は，公認心理師，臨床心理士の資格取得を目指している学生が一定数存在するからである．

社会・マスメディア系専攻は，他専攻より情報通信業の割合が大きいという特徴がみられる（Table 6）．就職先として，毎日新聞，朝日新聞，神戸新聞，毎日放送，TBS スパークル，放送映画製作所等がある．

3．総合社会学部独自のキャリアサポート

キャリア形成や就職活動をサポートする学部独自のセミナーを数多く開催している（Table 7）．低学年から卒業後のキャリアについて考える機会を設けることで，大学生活において何をすべきか，今の自分に何が必要なのかを理解し，時間をかけて職業観と社会人基礎力を養えるよう支援している．

卒業生ひとりひとりが，総合社会学部での学

Table 4　2013 年度～ 2020 年度卒業生（環境・まちづくり系専攻（環境系含む）の進路

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	医療・教育	サービス業	自営	公務員	教員	大学院進学
2013年度	7.3%	12.5%	6.3%	4.2%	31.2%	8.3%	3.1%	5.2%	16.7%	-	4.2%	-	1.0%
2014年度	4.1%	11.0%	6.9%	5.5%	30.1%	12.3%	2.7%	2.7%	12.3%	-	4.1%	1.4%	5.5%
2015年度	13.3%	14.5%	4.5%	4.5%	23.3%	8.9%	2.2%	2.2%	14.4%	1.1%	6.7%	1.1%	3.3%
2016年度	7.2%	15.3%	8.2%	1.0%	28.6%	16.3%	1.0%	2.0%	12.3%	-	7.1%	-	1.0%
2017年度	3.0%	12.9%	5.9%	3.0%	25.7%	9.9%	5.9%	4.0%	15.8%	1.0%	9.9%	1.0%	2.0%
2018年度	7.4%	11.2%	7.4%	7.4%	26.9%	10.2%	4.6%	2.8%	10.2%	1.8%	6.5%	1.8%	1.8%
2019年度	7.7%	15.2%	3.8%	3.8%	31.4%	9.5%	7.6%	1.0%	9.5%	-	8.6%	-	1.9%
2020年度	7.1%	10.1%	9.2%	5.1%	32.3%	2.0%	7.1%	1.0%	13.1%	2.0%	9.1%	-	1.0%

Table 5　2013 年度～ 2020 年度卒業生（心理系専攻）の進路

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	医療・教育	サービス業	自営	公務員	教員	大学院進学
2013年度	4.2%	8.5%	7.0%	1.4%	25.4%	9.9%	2.8%	12.7%	14.1%	1.4%	4.2%	1.4%	7.0%
2014年度	4.0%	9.2%	2.7%	5.3%	38.7%	6.7%	2.7%	5.3%	13.3%	-	6.7%	2.7%	2.7%
2015年度	2.6%	9.0%	9.0%	1.3%	16.7%	28.2%	3.8%	1.3%	11.5%	-	5.1%	-	11.5%
2016年度	4.9%	4.9%	2.4%	1.2%	19.5%	20.7%	2.4%	6.1%	12.2%	3.7%	4.9%	-	17.1%
2017年度	2.2%	7.6%	6.5%	-	26.1%	7.6%	3.2%	4.3%	27.2%	-	3.3%	2.2%	9.8%
2018年度	3.5%	10.5%	5.8%	-	23.2%	19.8%	3.5%	4.6%	16.3%	-	2.3%	-	10.5%
2019年度	3.5%	8.1%	10.4%	3.5%	19.7%	7.0%	1.2%	5.8%	19.8%	1.2%	3.5%	1.2%	15.1%
2020年度	1.2%	4.8%	6.0%	2.4%	27.7%	9.7%	2.4%	8.4%	19.3%	-	3.6%	-	14.5%

Table 6　2013 年度～ 2020 年度卒業生（社会・マスメディア系専攻）の進路

	建設業	製造業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	医療・教育	サービス業	自営	公務員	教員	大学院進学
2013年度	3.8%	15.0%	12.0%	3.8%	29.3%	10.5%	1.5%	3.0%	15.7%	-	3.8%	0.8%	0.8%
2014年度	0.8%	8.1%	13.9%	2.4%	35.0%	12.2%	0.8%	1.6%	19.5%	-	3.3%	-	2.4%
2015年度	4.4%	6.8%	8.7%	1.9%	36.0%	12.5%	1.2%	1.2%	18.0%	1.2%	6.2%	1.9%	-
2016年度	1.2%	12.2%	9.1%	2.4%	25.6%	20.1%	3.7%	4.9%	11.6%	3.7%	3.7%	-	1.8%
2017年度	3.9%	7.9%	17.1%	1.3%	30.2%	11.2%	4.6%	4.6%	15.8%	-	2.0%	0.7%	0.7%
2018年度	6.4%	16.6%	11.5%	3.8%	24.2%	8.9%	1.9%	1.9%	20.4%	1.9%	1.3%	0.6%	0.6%
2019年度	2.4%	9.2%	14.1%	5.5%	29.3%	9.8%	2.4%	2.4%	19.5%	1.2%	1.2%	0.6%	2.4%
2020年度	2.6%	10.3%	15.4%	3.2%	29.5%	9.0%	1.9%	3.8%	17.3%	1.3%	3.8%	-	1.3%

Table 7　学部独自のキャリアサポートセミナー

タイトル	概要	内容
総合セミナー	「就職活動って何をすればいいの？」という素朴な疑問に応え、基本からガイダンスするプログラム	1，2年生向け： 「自分の未来について考える」どんな仕事がしたいのか、どんな業種や企業があるか、低学年から準備すべきこと 「インターンシップ講座」インターンシップ参加の戦略等 3年生向け： 「インターンシップ・就職活動の基礎知識」就活スケジュール、就職ナビサイトの使い方、自己分析や企業研究の仕方等 「自己分析・エントリーシートの書き方」 本格的な企業研究・業界研究の仕方等 「就活直前講座」 就活目前に控えた時期に改めて考えておくこと等
メディアチャレンジセミナー	マスメディア（新聞・放送・広告・出版など）を目指す学生を応援する講座	「社会人ホンネ講座」：現在メディア業界で第一線で活躍されているマスコミ人、旬なクリエーターによる講座。 「マスコミ対策実践講座」：エントリーシートの書き方，SPI試験，WEB試験，面接試験などにおけるノウハウに関するセミナー
心理系キャリアセミナー	公認心理師や臨床心理士資格がなくても目指せる「心の仕事」について、その業界の方を招いて仕事の内容を紹介	「大阪府の心理職・福祉職の仕事紹介・採用案内」 「兵庫県警の採用案内」 「大阪少年鑑別所の心理技官・法務教官の仕事紹介・採用案内」
環境・まちづくり系キャリアセミナー	環境・まちづくり系専攻の学生が目指す職種で働いている方を招いて、経験談等をお話しただくセミナー	公務員、JA、生協等の公益法人、NPO職員、まちづくりコンサルタント、環境関連企業等で働いている方を招いて、経験談を聴き懇談する

びを活かし一社会人として，様々な業界から，これからの社会を支えてくれることを願っている．

卒業時の学生の満足度等の変化
―卒業生アンケートの分析―

辻　竜平

卒業時の学生の評価を分析する意義について

学生が入学し，勉学・研究に勤しみ，卒業するという一連の流れに即して，アドミッション・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，ディプロマ・ポリシーが設定されている．このうち，ディプロマ・ポリシーが遵守されているかどうかを評価することは，本学・本学部での学生の学びが全体として適切であったかどうかを評価することでもある．そのため，大学としても学部としても，この評価は重要である．

ディプロマ・ポリシーが遵守されているかどうかを評価する方法としては，教育を与える側である教員や，その教育を支える事務職員の，個別あるいは組織としての自己評価がある．そしてもう1つ，教育を受けた学生に，卒業時にディプロマ・ポリシーあるいは教育に関わる評価をしてもらう方法もある．

卒業生アンケートの分析

本稿では，後者の方法を用い，2013年度の最初の卒業生から，2020年度の第8期の卒業生までの「卒業生アンケート」を時系列的に分析する．

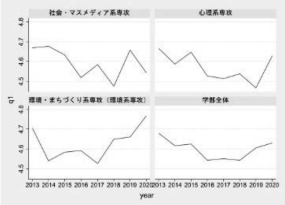
大学本部に保管されている「卒業生アンケート」のうち，私が分析に使えたのは，各年度の各専攻および学部全体としての各項目の平均値のみであった（個票データは使えなかった）．データの分散が分からないため，分散分析のような方法は使えなかった．そのため，可能なことは，単純な平均値の推移をグラフ化することくらいだった．下記のグラフは，問1～問21の中で継続的に取られている15問について，各設問における社会・マスメディア系（左上），心理系（右上），環境・まちづくり系（左下），学部全体（右下）の得点の推移を示したものである．その上で，専攻別に，各設問（自由記述問題を除く全21問．うち20問は5段階尺度．1問は11段階尺度で，これを5段階にリスケールした）の8年間の最大値－最小値（変動幅）を計算した．その変動幅の，全設問，全専攻の平均値（すなわち，変動幅の平均値）は0.344，標準偏差0.198，最大値0.791，最小値，0.006であった．

まず，全体的に見ると，評価は全体として決して高いとは言えない．5点満点の評価であるが，継続的に取られている15問のうち，定常的に平均値が4点以上ある設問は，4問にとどまっており，4点前後のものが5問である．このことから，まだまだ改善できる余地は大きいと考えられる．

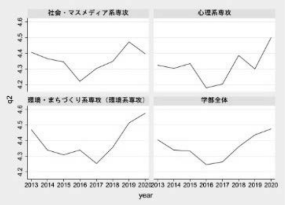
さてここで，やや無理を承知で直感的な概算をしてみよう．各設問の分散や標準偏差は不明だが，個票データの標準偏差を，仮に1とし，毎年の各専攻の評価者数を120人とする．これをt検定の式に適用すると，おおむね2つの年度間（必ずしも連続した年度である必要はない）に0.25以上の変化が見られる場合には，5%水準で有意な変化があると考えられる．

2019年度から新たに加わった6問（問7, 8, 10, 13, 15, 16）を除くと，どの専攻においてもいずれかの年度間で有意な変化があると推察できる設問は，問2, 3, 4, 5, 6, 9, 11, 12, 14, 17, 18, 19, 20 21の14問である．その10年の変化のパターンを見ると，最初の数年間は高く，中盤に落ち込み，近年は上昇するパターンと，中盤あたりから上昇するパターンに分かれるようである．ともあれ，多くの設問において，近年は比較的高い値になっている設問が多い．

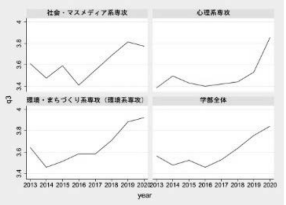
この結果は，最初の数年間は，学部開設時の高揚感のようなものを学生が感じており，一種のご祝儀相場であった可能性がある．しかし中盤になると，そのような高揚感はなくなった．しかし，カリキュラム改定などを通して，各専攻の内部で改革が行われるようになり，それが近年の卒業生の高評価につながってきているものと考えられる．



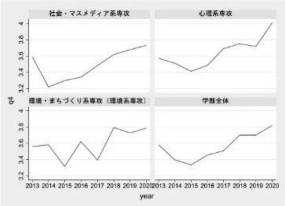
問 1　学友を得た



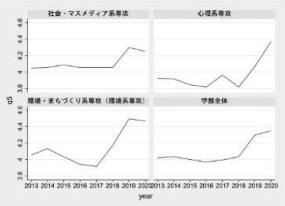
問 2　有意義な学生生活



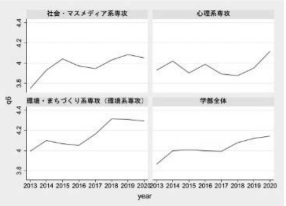
問 3　入学時の目標達成



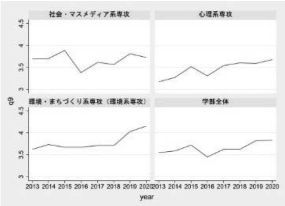
問 4　勉学に励んだ



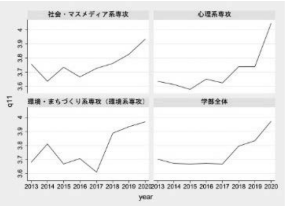
問 5　コミュ力身についた



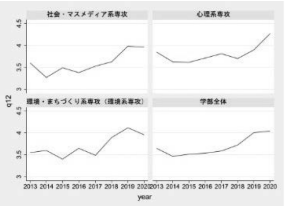
問 6　進路に満足



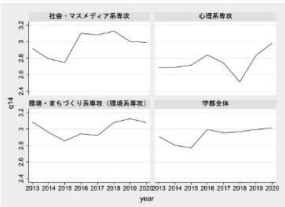
問 9　組織活動と行動力向上



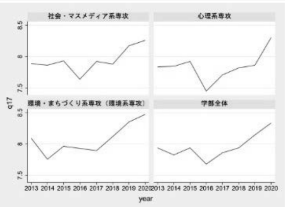
問 11　自主性・問題解決能力



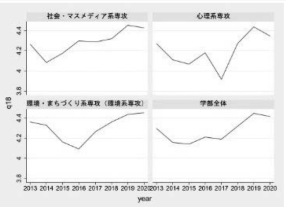
問 12　専門的学力・考え方



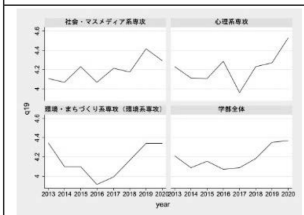
問 14　英語力身についた



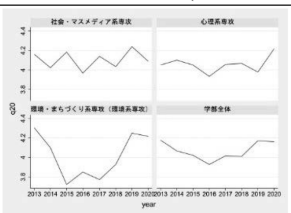
問 17　学生生活(10 点満点)



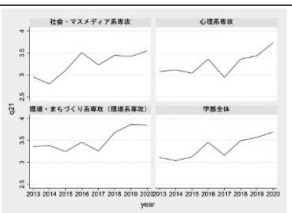
問 18　設備・環境満足度



問 19　専攻満足度



問 20　教員との接触



問 21　事務職員の窓口対応

卒業生アンケートからの考察

まず，定常的に4点以上となる設問数が4項目にとどまっていることから，学生たちの評価は，決して高いとは言えない．また，かなり多くの項目で（おそらく）有意な変動が見られたことを考えると，学生の評価は，教育の質などによって敏感に反応するということである．教員も3つのポリシーを時々見ながら，自己点検を行い，自己評価を高めていく努力すべきであろう．

最後に，2020年に評価が落ちている項目がいくつかある．これは，新型コロナウイルスによって，評価が厳しくなってきていることを示唆している．今後しばらくは，評価は低い状態が続くかもしれない．しかし，困難な状況においても，改善しながらしっかりと教育を続けていくことが重要であると思われる．

卒業生からの寄稿

好奇心を未来の力に

多里まりな

社会と向き合い学ぶ

この度は学部創立10周年，誠におめでとうございます．節目にこのような機会をいただき大変有難く思います．

私は2012年に3期生として入学しました．卒業後は栃木県の地方紙で記者として働いています．学生生活を振り返ると，社会の事象を自分事と捉え，自分なりの考えや思いを持つ大切さを認識させられた4年間でした．各講義のアセスメントペーパーに加えて日本語文章力養成講座，マスメディア就職を目指す学生が集う「グループ未来」の課題作文と“書く”作業が多くありました．単に文章力を向上させるというだけでなく，多角的な視点で物事を考察し，人の気持ちに寄り添う姿勢を身に付ける訓練でもあったように思います．「多様性」という言葉が浸透しつつありますが，ジェンダーや家族の在り方など現代議論されている問題に正しい答えはありません．そういった中で自分の軸を持ちながら他者を受け入れるという人間力を磨く機会にもなりました．

ホンモノに触れる大切さ実感

書く中で，言葉に説得力や共感力を持たせるためには幅広い知識や経験が必要となりましたが，総合社会学部では実践的な学びが重視されていて，知識，経験を吸収できるチャンスが多くありました．所属していた金井教授のゼミでは，自身の関心事をテーマに取材して記事を執筆します．4年次，差別の根底にある人の心理を知りたいという思いからヘイトスピーチについて本を出版されているフリージャーナリストの安田浩一さんにお話を聞き，かつてデモがあった東京都新宿区新大久保に足を運びました．現場で見聞きしなければ分からないことがあると改めて感じました．3年次に参加した「生き直しの学校」のツアーは記者を志すようになった一つのきっかけです．当時抱いた「子どもの未来を明るくする仕事がしたい」という気持ちは今も働く原動力になっています．

これからも学生の「やりたい」「知りたい」という意欲が発揮でき，好奇心が将来につながる場であってほしいと心から祈願するとともに，益々の発展をお祈り申し上げます．

自分の「興味」に出会えた学部

森田奈々子

幅広い学び

近畿大学総合社会学部の創立10周年を心よりお祝い申し上げます．自分の興味がどこにあるのか分からないまま2015年に入学した私にとって，幅広く学べる学部での4年間はとても充実しました．新聞やテレビ，広告，ボランティア団体など色んな場所で活躍された教授に直接話を聞け，働く姿を想像しながら将来についてじっくり考えられました．在籍していた社会マスメディア系専攻だけでなく，環境・まちづくり，心理系専攻の授業を受けられるのも，学部の魅力だと感じています．

自分で見て聞いて感じる面白さ

特にゼミでの学びは記者職を目指す一つの理由になり，今の仕事につながっています．金井啓子教授のゼミ課題は，関心のある事についてさまざまな人から話を聞き文章にまとめるという内容です．これまで気になる事は教授に聞いたり，図書館やインターネットで調べたりするだけでした．キャンパスの外に出て，自分の疑問を直接誰かにぶつける面白さに気付くきっかけになりました．

ゼミの課題が終わっても，関心事ができれば積極的に足を運びました．そのうち自分の目で見て，聞いて，感じる面白さや大切さに気が付きました．なぜなら現場では，勝手に思い込み想像していたことと大抵違うことが起きているからです．地方紙の記者として，見たものを世に発信したいと日々奮闘しています．

学部での幅広い学びを通じて自分の興味を追求し，挑戦したいことを見つけられました．これからも学生一人一人の可能性を広げてくれる学部であることを願っています．

自由で，こだわりのある学び舎
―総合社会学部の思い出―

乾　彩絵

私は，2013 年本学部社会・マスメディア系専攻に入学しました．面接の日，面接官の清島先生が，私の面接シートを見ながら「〝初音ミク〟って知ってる？」と尋ねられたことを今でも新鮮に思い出し，面白い学部に入学できたことは私の財産です．

在学中は，「近大オールスターズ」という団体で活動していました．

この団体はオープンキャンパスの際に，入学志望の高校生に大学の魅力を伝えるキャンパスツアーを中心に活動します．私は日々の生活から学部の楽しさ，面白さを探していました．私が高校生に伝え続けたのは，「自由」ということです．

授業のなかで印象深かったのは，ドラマ鑑賞です．フジテレビ製作の「早春スケッチブック」を半年かけて鑑賞するのです．問い掛けられたのは，物語を捉え，自分がどういう感情を抱くのか，というとても抽象的な問題でした．劇中人物が，主人公を「骨の髄までありきたりだ」と罵る場面があり，頭を金槌で殴られたような思いがしたものです．社会人になり，何かに迷った時，重圧が辛いと思う時，この言葉を思い出して自分を奮起させています．

もうひとつ，私には不思議で大切な出会いがありました．それは中国語教員の好並先生です．第二外国語で「中国語専修履修」を希望した私を，好並先生は歓迎して下さり，それから 2 年間，授業だけでなく，中国語検定の指導でも，みっちりと教えて下さいました．

好並先生とは中国語だけでなく，アニメーションについて語り合う機会を多く持てました．先生からは昭和以降のアニメの文法を教わり，私からは現代アニメの鑑賞法を語るという，楽しい時間を過ごしたものです．知識をどんどん吸収し，就職活動には，先生から頂いた知識を生かして進路を定めていくことができました．自分の趣味の更に奥を知る楽しさを，好並先生から教えて頂いたのです．

自由で，こだわりを持った先生たち，学生たちがいる．

今でも総合社会学部で出会えた人たちを思い出すと，こだわりを忘れず自分の道をしっかり生きようと思うのです．

総合社会学部での多様な学び

榊原愛里（旧姓　中村）

学生時代を振り返って

受講した講義で特に印象に残っているのは，ゲームの歴史などを扱った「ネットと社会変化」と，海外の児童労働などを取り上げた「世界の貧困と格差」です．いずれも高校生までの授業では取り上げられなかったテーマばかりで，衝撃的だったのを覚えています．他にも出版や広告に関する講義や心理学なども受講し，多方面の知識を得て広い視野を持つことができました．どの講義にも懸命に取り組みましたが，私が特に力をいれていたのは「英語演習」です．第二言語を履修せず英語に専念し，よりハイレベルな英語を学ぶ「英語専修クラス」に所属していました．英語専修では他の講義以上にレポートやプレゼンテーションの機会が多かったため，より一層レポート力とプレゼン力が磨かれたと思っています．学部内の英語プレゼンテーション大会に参加したことも良い経験でした．

仕事で活かされたスキル

社会人になった際，レポート力やプレゼン力は特に活かされました．就職して１年目から職場における会議議事録の執筆を任され，会社のCSRレポートへの寄稿を依頼されたこともありました．また，就活生向けの職場案内では職場紹介プレゼンターに任命され，パワーポイントを使用してのプレゼンテーションを行なったのですが，「プレゼンに慣れていたので安心して任せられた，内容も分かりやすい」と上司からお褒めの言葉を頂きました．このように，大学時代に培われた知識や経験は社会人になってからも役に立ちます．現代社会における様々なテーマを学べる点が総合社会学部の大きな魅力なので，これからも新しいテーマを取り上げ続け，学生たちの豊かな学びを支える学部であってほしいと願っています．

記念誌発刊に寄せて

胡　嘉原

総合社会学部10周年を心よりお祝い申し上げます．2016年の春，私はスーツを着て，桜とともに赤レンガの門を入り，近畿大学総合社会学部で四年間，勉強をしてきました．そして今も，上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科にて，在日中国人留学生の社会的ネットワークに関する研究を続けています．

故郷を離れた越境者の私にとって，近畿大学での生活は，斬新な挑戦の連続でした．はじめての日本語授業に興奮するとともに，学習面や生活面などでの問題に直面しました．学内の日本語サポートにより，勉強上の問題や生活面の悩みなど相談に乗ってもらいました．また学校で学びながら，多国からの留学生と触れ合い，楽しく充実した大学生活を送りました．

私は，社会問題を報道するジャーナリストになろうと考えていたため，メディアと現代社会の両方が学べる社会マスメディア系専攻を選びました．様々な情報を批判的に読み取る力を養い，自分独自の考え方を発信して，現場に

行って経験的に社会現象を学ぶことができました．特に西尾雄志先生のゼミでは，ハンセン病問題，NPO ／ NGO，過疎化など幅広いテーマが取りあげられ，他のゼミ生たちと，一歩踏み込んだ議論を行いました．そこから，批判的に考える姿勢を身に付け，自らの力で課題を発見し，解明することの魅力を経験しました．西尾先生から熱心，かつ丁寧な指導を受け，また自分の将来と研究について何度も相談して，無事に大学院に進学することができました．

大学での経験が，その後の人生に大きな影響を与えて，素晴らしい人と出会うという貴重な体験ができて本当に良かったと感謝しています．現在コロナ禍ですが，積極的な「オンライン」授業の導入や，世界を舞台にした交流と教育の展開によって，近畿大学がグローバルな視点と多文化社会に柔軟に対応する力を養う大学に，発展していくことを願っています．

今の自分につながる時間

塚本恵梨

大学を卒業して 8 年間，附属小学校の教員として働いています．働き始めの数年間は目の前の仕事をこなすことで精一杯でした．ただ，大学生の時に課題や実験レポートなどをやり遂げたことが私の糧になっていて，大変なことも乗り越えることができました．教職の授業も受けていた分，学部の授業との両立が難しく，苦労したこともあります．しかし，自分の将来につながる学びのために努力した 4 年間はとても充実した時間でした．

今の仕事は，学部で学んだ心理学の知識を活かす仕事ばかりではないですが，相手の話をよく聴くことや自分の考えを他者に分かりやすく説明すること，与えられた情報を懐疑的に見て考えるということは，大学の授業を通して身についたことだと思います．また，総社で過ごす時間の中で「人と関わることが好き」と改めて気づくことができ，それが自分の行動力につながっていると感じます．これは仕事以外の場面でも良かったと思うことが多いです．そして，仕事に慣れてきた頃から「一緒に仕事をしたいと思われる人になりたい」と思うようになり，「私にできることはなんだろう」と，自分の強みを考えるようになりました．大学で学ぶ 4 年間は，きっとこの強みを増やす時間でしょう．本を読んで知識を蓄えること，色々な場所に出かけてそこでしかできない経験をすること，自分と違う環境にいる人に話を聞くことなど，自分のために多くの時間を使える大学生のうちに視野を広げ，物事の見方や考え方を増やせる経験を積むことは，その先の自分の財産になると思います．

私の人生で一番勉強したと思える 4 年間．1 期生として総合社会学部に入学したときには全く想像していなかった今の自分の姿ですが，10 年前よりも今が楽しいと思えるのは，総社で学んだ 4 年間があるからです．これから学んでいく学生の皆さんにとっても，総社という学び舎がそうした有意義な時間を過ごせる場所であればいいなと思います．

心理学を通じて身につけた基礎力と応用力

西村友佳

近畿大学総合社会学部総合社会学科心理系専攻を卒業してから今年で6年目になる．卒業したあとの5年間は，関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻の博士課程前期課程および後期課程に在籍していた．そのため，近畿大学入学時から数えると，9年間心理学（特に知覚心理学や認知心理学）と関わり続けたことになる．こうした経験を生かし，今年度からは株式会社 ARISE analytics という会社でデータサイエンティストとして勤務している．

データサイエンティストは，データ分析を通じてビジネスにおける意思決定や社会課題の解決を支援することができる人材だと私は考えている．ビジネス場面や社会課題において明らかにしたいことは多岐に渡るが，その中でも今あるデータから現状を理解したいときに，心理学での学びを通して身につけられたことが大いに役立っている．例えば，t 検定や分散分析のような学部で習う統計的な分析手法を直接使うことはなかったとしても，データの可視化方法や分析設計，実験計画の立て方を活用することはできる．加えて，人間の行動に関する問いであれば，分析結果の解釈に心理学の知見を生かすこともできる．さらに，得られた分析結果を他者にわかりやすく伝えるためには，実験実習のレポートや卒業論文を通じて身につけた論理的な文章を書く技術が必要になる．

特に，論理的な文章を書く技術および論理的思考能力は，将来何をするにしても基礎となる能力である．実際，就職活動の際には「文章がわかりやすい」という理由で選考を通過することができた．そして，基礎が磐石であれば，今後さらに複雑化していく現代社会を理解し，課題解決の緒を見つけることも可能となるはずである．学部教育は，これからも社会で活躍するために必要な基礎的スキルを身につけられる場であってほしいと願っている．

自分の思いを伝えること

楠　麻依子

私は心理学を勉強したいと思い，近畿大学に入学し，その後大学院も含めて6年間お世話になりました．学生時代の思い出として，総合社会学部では1回生の頃から少人数でのゼミ形式の授業が多く，自分の意見を主張する機会が多かった印象があります．その後，ゼミに入ると，よりディスカッションする機会が増えました．当初は「どのようにまとめたら伝わるのだろうか」「自分の考えは正しいのだろうか」など悩んだり，緊張して，ゼミの前はよく不安になったりしていました．しかし，大対先生やゼミのメンバーは意見や発表について否定するのではなく，何でも言って大丈夫という雰囲気で，徐々にゼミの時間が楽しみになりました．それまでは「ディスカッション＝憂鬱」だったものが，自分とは違う意見やディスカッションする事で新たな意見が出てくる場という風に捉え方が変わっていました．私にとっては，大対先生，そしてゼミの仲間に出会えた事で自分の考えを伝える事に対する自信がついたと思いま

す．そして，この出会いによって，自分が何をしたいのか，考えられるようになったと思います．

現在，私は岸和田子ども家庭センターという大阪府の児童相談所で働いています．そこでは，児童心理司として虐待を受けた子ども達の心理判定を行ったり，その結果を保護者の方や関係機関に伝えたりする仕事をしています．責任のある仕事であり，不安になる事も多いですが，大学・大学院時代に近畿大学で過ごした事で，自分の考えを伝えたり，意見を交わしたりする事への恐怖心が少なくなったと思います．現在もうまく伝えられない事に歯がゆい思いをする事はありますが，子ども達のためにどうすればいいのかという視点は学生時代に経験した事が糧になっていると振り返ると感じています．

総合社会学部卒業生による座談会

2021 年秋に総合社会学部の卒業生 3 名（2016 年社会・マスメディア系専攻卒／証券会社勤務の**A 君**，2019 年心理系専攻卒／他大学大学院進学の**B さん**，2019 年環境・まちづくり系専攻卒／地方公務員の**C さん**）に学生時代の思い出と近況を語り合っていただいた．

A 君：僕の総合社会学部入学～ 2 年までの学生生活の話をしますね．僕の学生生活は典型的な大学生，フットサルやイベントのサークル活動とアルバイト，そして大学では後方の席で寝て過ごし，将来なにがしたいかなどと全く考えたこともなく，軽い気持ちで毎日楽しければいいなと思いながら過ごしました．

B さん：私は，高校時代に凶悪犯罪のニュースがいくつかあってどうしてそんな犯罪が起こるんだろうという疑問を持ち，犯罪心理学を学んでみたいと思って，その専門の先生がいる大学を調べて近畿大学に入学しました．ものすごく期待していたのですが，授業が 2 コマ程度しかなくて，自分としては消化不良な気持ちがあって，対象を社会心理学に拡げて大学院に進みました．

C さん：私は附属高校出身で，高校時代から近畿大学の様々な学部の模擬講義を受ける機会があって，その時にまちづくりという学問分野があることを知って，それからはもうずっとまちづくりや地域活性化のことばかりを大学卒業まで考えてました．

C さん：私は附属高校から近畿大学に進学して，（これは附属高校あるあるなんですけど）「あぁ附属かぁ」といつも言われて周囲にマウントをとられたり，教育システム上“できない子”として扱われてしまって，少しだけ残念に感じる気持ちがありました．高校まではとても平和で学力差というのをそこまで意識したことがないんですが，大学では英語のクラス分け，授業や課題に取り組んだときなどで周囲との一般知識の差を肌身で感じ，現実を知らされるという経験をしました．中にはそれを差別的な感覚と受け取る人もいるかもしれない．そんな中で私は自分らしさを探すような感覚で，教職や司書など取れる単位は全部取る！という目標を掲げて合計 257 単位修得しました．

B さん：私は地方から一般入試を経て近大に来て，親の脛かじりなので真面目な学生生活を送るというのが必然でした．また，うちの専攻（心理系専攻）のカラーと合ってしまって，交友を広げなければ勉強以外何もない，という恐れもありました．たまたま友人に恵まれて，他専攻の人・他学部・地域の人々と知り合い，地域のイベント活動へのボランティア参加などで世界が広がったという感覚を持ちました．

A 君：僕は 3 年のゼミ配属がたまたま外国人の先生だったので，これも楽しいことがあればいいなという感覚で，1 年休学してワーキ

ングホリデーの制度を利用してニュージーランドに留学しました．今振り返ると，学部で先生たちが留学を支援してくれたこともあって，“これを勉強しました”というものがなく，興味の赴くままに行動しても何とかなってきたと思います．多くの人のお陰で，運よく世界観が広がっていったというか．なので，総合社会学部の良さを挙げろというなら，単位に縛られない自由度！目に見えない表現できない人と人との繋がりで得られる価値観の気づき，そういったことがあると思います．異文化理解という目的の授業で，当時日韓関係が悪化した頃に朝鮮学校へ訪問したことも，ニュースソースに触れることや講義で学ぶだけのものでなく，実際に相手方の話を聞いてみたり，周辺の人々にインタビューしてみることで，解決方法が分からないまでも両方の立場の論理や価値観について理解を深めることができたなと感じました．今もよく覚えています．

Bさん：私も他専攻の授業を受けられるということで，その授業を受けたので，同じことを思いました．他専攻の授業を受けなければいけない学部のカリキュラムに最初はとても戸惑いましたが，大学院に進学してみてその当時に広くいろんなことを学べたことが様々な気づきに繋がっていると実感します．

Cさん：私は今福祉系の係で仕事をしているので，ちょうど立場の違いという現実問題に直面していて，学問だけに収まらない現実的な解決法に憂鬱な日々を過ごしています．町の地方公務員で福祉系の窓口業務担当と言ったら部署に何人いると思います？私一人です．そこで町の様々な人が訪れてきて話を聞くことになって．いくらお話し好きな私でも物凄いストレスを感じています．3つの専攻でたくさんの講義をとってきて，それぞれの立場の福祉論を勉強してきた自負はありますが．解決できないことも多いと開き直る技術がうまくなりました．

Bさん：私はこの4月から病院に就職するので，そういう現実に向き合わないといけないんだなと今緊張感を持って聞いてしまいました．わりと真面目に学生生活を送ってきたので，タラレバの話にはなりますが，もう一度近畿大学を受けるなら，ちょっとコミュニケーションで世界観が広がる国際学部がいいなと思ってたりしたんです．もう少し気持ちを楽にしてコミュニケーションを図りたいな，どうしても心理的なコミュニケーションを考えてしまうなというのが少し考えるところだったりします．

A君：僕は逆に学生時代にもう一度勉強するなら，心理学を学びたいなと思います．なにも考えず運よくこれまで過ごしてきた人生なのですが，金融関係で仕事をしていると，経済学的な知識は日々必然的に勉強していくので，それを根源的に解釈するためには心理学の基礎的な知識が社会や経済を見る目になるんじゃないかなって最近考えるようになりました．

Cさん：私も心理学を学びたいなと思います．私の場合，業務で，ということでなく，自分自身に向き合ってみたい，その時の道標みたいなものが心理学になるのかなと．今の職場にカウンセラーが居ないこともあって，ちょろっと勉強した経験だけでは今の私のストレスの源が何なのかが知りたいですね．とりあえず，愚痴を聞いてほしい（笑）

Bさん：私が聞きますよ（笑）

A君：振り返って，大学時代にいろいろ勉強したり経験したりして良かったなとひととおり感じるけど，それらが実を結んだなあと実感できるのはもっとずっと先．それぞれの価値観で，なにかに縛られることなく自由にやっていい，そしてゼミや卒論必修のような，最低限これをやれなくちゃダメというメリハリのきいた学部の教育システムがあったんだなと，このやりとりで感じました．ひとつ要望を，贅沢をいうとすれば，就活のエントリーシートで受け付けてもらえない，いわゆる学歴フィルターから脱却したポジションを近大には獲得してほしいな，と思います．あ，これは自分のエントリーシートの書き方の問題か（笑）

（文責：大野司郎）

FD 活動としての専攻横断談話会
―近畿大学総合社会学部の取り組み―[1)]

FD 委員長　石井隆之

専攻横断談話会は FD 委員会が業務開始 2 年目に立ち上げたもので，2011 年 10 月，第 1 回の談話会が開催された．

学部独自の FD が，具体的な企画となって初めて実現したのは学部開設半年後の 2010 年 10 月である．ただし，それは専攻横断談話会としてではなく，「授業運営意見交換会」という名称のものであった．この会は，文字通り授業運営のあり方や，授業実践の現状，課題等について，フリートーキングによって意見を交換し合うというものである．一定の成果を収めたものの，テーマが拡散して議論がまとまりにくいことや，総合社会学部の大きな特色である多専攻が共存する学際性を十分生かしきれないことなど，満足しにくい点もあった．そこで FD 委員会で検討を重ねた結果，その趣旨を発展的に再編し，新たに開始することになったのが「専攻横断談話会」であった．

専攻横断談話会のコンセプトは，文字通り，あるテーマについて専攻を横断する形で話し合いの機会をつくることで，自他の専攻に関する教育・研究等について幅広く知見を広め合い，かつ同僚間の親睦も深めようというものである．以下は開催の実績である．

開催年月	話題提供者	所属部門	演題
2011 年 10 月	田澤　新成	環境系専攻	総合社会学部（文系学部）における数学教育の試み
2011 年 11 月	木地平　浩次	事務部	学士課程教育の質の充実 ―学生の主体的学習の促進と支援―
2011 年 12 月	パトリック・ソフィア・リカフィカ	社会・マスメディア系専攻	人・地球・宇宙の繋がり
2012 年 1 月	新田　香織	教養・基礎教育部門	総合社会学部における英語教育
2012 年 5 月	中川　知宏	心理系専攻	なぜ逸脱行動に関与するのか ―環境的アプローチと心理的アプローチ―
2012 年 10 月	西川　清一	事務部	アーチェリーと私―バルセロナへの道―
2013 年 2 月	須賀井義教	教養・基礎教育部門	朝鮮半島の文字生活―ハングル創製以前と以後―
2013 年 6 月	秦　　辰也	社会・マスメディア系専攻	タイの社会と文化 ―近年の諸問題と私の関心領域を中心に―
2013 年 12 月	加治　増夫	環境系専攻	食物と人間のエネルギー効率
2014 年 2 月	遠藤　信貴	心理系専攻	ヒトを測る―実験心理学的アプローチによる認知行動特性の理解―
2014 年 6 月	石井　隆之	教養・基礎教育部門	言葉の曖昧性を言語学的に考える
2015 年 2 月	金井　啓子	社会・マスメディア系専攻	金井のお仕事　番外編
2015 年 6 月	山田　恵里	環境・まちづくり系専攻	産業集積と地域成長
2015 年 11 月	須佐見憲史	心理系専攻	こころの実験室： ―研究者が見てきた実験や方法と近未来の展望
2016 年 2 月	田中　穂徳	事務部	今より少しだけオリンピックが楽しく観れる話
2017 年 2 月	西尾　雄志	社会・マスメディア系専攻	自己紹介とこれまでの研究と教育
2018 年 2 月	平松　　燈	環境・まちづくり系専攻	訪日外国人の増加と長期的な地方経済の衰退
2018 年 9 月	山取　　清	教養・基礎教育部門	迷走する「教養」教育
2019 年 2 月	本田　善久	教養・基礎教育部門	機械力学・制御分野のこれから
2019 年 10 月	松本　行真	社会・マスメディア系専攻	復興とコミュニティ―津波被災からの復興―
2021 年 1 月	漆原　宏次	心理系専攻	私たちとペットをつなぐ心理学
2021 年 6 月	齋藤　曉子	社会・マスメディア系専攻	ケアの社会学 ―ケアの受け手・与え手からみる高齢者介護―
	石原　　肇	環境・まちづくり系専攻	環境・まちづくりの研究対象の変遷と今後の方向性

1）本稿の執筆に当たって，平成 27 年度から教職教育部に移られた戸井田克己先生のメモを参考にさせていただいた．

科研費等の外部資金獲得状況

年度別　総合社会学部　科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金採択一覧

年度	学術変革領域研究(A)	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的研究（開拓）	挑戦的研究（萌芽）	若手研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	研究成果公開促進費(学術図書)	研究成果公開促進費(ひらめき☆ときめきサイエンス)	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
R3				1	9		1	4					1	1	1		18	25,500,000	5,460,000
R2		1			10		1	3		1			1	1			18	12,900,000	3,870,000

年度	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的研究（萌芽）	挑戦的研究（開拓）	挑戦的萌芽研究	若手研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	研究成果公開促進費(ひらめき☆ときめきサイエンス)	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
R1	1			8	1					3			1	1		–	15	11,100,000	3,330,000

年度	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的研究（萌芽）	挑戦的萌芽研究	若手研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H30				5					2			1		–	–	–	8	14,700,000	4,410,000

年度	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的研究（萌芽）	挑戦的萌芽研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H29				4				3			1	–	–	–	–	–	8	6,700,000	1,650,000

年度	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	基盤研究(C)特設分野研究	挑戦的萌芽研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H28				1				3				–	–	–	–	–	4	3,600,000	1,080,000
H27				3				4	1			–	–	–	–	–	8	5,700,000	1,710,000

年度	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的萌芽研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H26				4	2		5	1			–	–	–	–	–	–	12	9,000,000	2,700,000
H25				3	3		5	1			–	–	–	–	–	–	12	9,000,000	2,700,000

年度	特定領域研究	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的萌芽研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H24				1	2		3	3	1			–	–	–	–	–	10	9,300,000	2,790,000

年度	特別推進研究	特定領域研究	新学術領域研究(研究領域提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的萌芽研究	若手研究(A)	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	特別研究員奨励費(外国人特別研究員)	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H23					1	2			4					–	–	–	7	5,719,596	1,715,878

年度	特別推進研究	特定領域研究	新学術領域研究(研究領域提案型)	新学術領域研究(研究課題提案型)	基盤研究(A)	基盤研究(B)	基盤研究(C)	挑戦的萌芽研究	若手研究(B)	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	特別研究員奨励費(外国人特別研究員)	研究成果公開促進費(学術図書)	–	–	–	学部合計件数	直接経費(円)	間接経費(円)
H22						1	2		4					–	–	–	7	8,100,000	2,430,000

寄附研究費

会社名	団体種別	役職	名　前	学部	学科	名前	氏名	研究名称	研究開始	研究終了	研究費用
リオン株式会社		取締役常務執行役員	吉川　教治	総合社会学部		教授	前田　節雄	人体振動の計測・評価・影響評価に関する研究の為	25年８月	26年３月	500,000
株式会社ＴＶＣ		代表取締役社長	山本　茂晴	総合社会学部		教授	須佐見憲史	五感を活用した広告手法の研究	26年3月	27年3月	100,000
リオン株式会社		取締役常務執行役員	吉川　教治	総合社会学部		教授	前田　節雄	人体振動の計測・評価・影響評価に関する研究	26年4月	27年3月	500,000
アトム株式会社		代表取締役社長	平　雄一郎	総合社会学部		教授	前田　節雄	各種手持振動工具に適した防振手袋に関する研究	26年6月	27年5月	1,000,000
産経新聞社		営業局営業第三部　部長	神余　直行	総合社会学部		教授	田中　実	企業商材使用のマーケティング及び CM 映像制作	26年9月	27年1月	100,000
アトム株式会社		代表取締役社長	平　雄一郎	総合社会学部		教授	前田　節雄	手持振動工具に適した防振手袋開発に関する研究のため	27年6月	28年5月	1,000,000
アトム株式会社		代表取締役	平　雄一郎	総合社会学部		教授	前田　節雄	手腕衝撃障害防止の手袋開発に関する研究のため	28年5月	29年5月	1,000,000
アトム株式会社		代表取締役	平　雄一郎	総合社会学部		教授	前田　節雄	手持振動工具に適した防振手袋開発に関する研究のため	29年6月1日	30年5月31日	1,000,000
大成建設株式会社		執行役員原子力本部長	今村　　聡	総合社会学部	環境・まちづくり系専攻	准教授	小川　喜弘	放射線治療施設の遮へい設計	29年4月1日	30年3月31日	300,000
株式会社シードコンサルタント		代表取締役	市田富久夫	総合社会学部	環境・まちづくり系専攻	准教授	小川　喜弘	地理学分野における UAV や 3D ソフトの利活用研究	30年11月7日	31年3月31日	100,000
公益財団法人放送文化基金	公益法人等	理事長	濱田　純一	総合社会学部	社会・マスメディア系専攻	准教授	松本　行真	有事をみすえた地域社会におけるラジオ局の再定位	2年4月1日	3年3月31日	2,000,000
株式会社シードコンサルタント		代表取締役	峯　　明広	総合社会学部		准教授	小川　喜弘	地理学分野における UAV や 3D ソフトの利活用研究	2年6月19日	3年3月31日	200,000
公益財団法人たばこ総合研究センター	公益法人等	理事長	大久保憲朗	総合社会学部	まちづくり専攻系	教授	石原　　肇	コロナ時代における嗜好品を楽しめる空間創出の試みに関する研究	3年4月1日	4年3月31日	500,000
公益財団法人旭硝子財団	公益法人等	理事長	島村　琢哉	総合社会学部	総合社会学科	講師	岡野　英之	隣国タイにおける難民・移民の政治運動・社会運動は、ミャンマーの民主化にいかなる影響を与えているのか	3年4月1日	5年3月31日	1,000,000

受託・共同研究

受入年度	受託先	団体種別	学部	学科	職	氏名	事業名	研究名称	研究分野	研究費総額	研究開始	研究終了	依頼者役職	依頼者氏名
	独立行政法人 防災科学技術研究所		総合社会学部		教授	前田　節雄		振動台を用いた有人加振実験に関わる法規整理と実験実施のための技術指導		498,000	23年1月	23年1月	理事長	岡田　義光
	独立行政法人 防災科学技術研究所		総合社会学部		教授	前田　節雄		三次元震動台を用いた振動実験データを用いた人体への影響評価に関する技術指導		489,000	23年1月	23年2月	理事長	岡田　義光
	奈良県土木部 まちづくり推進局 地域デザイン推進課		総合社会学部		教授	久　　隆浩		幹線沿道における景観まちづくり手法の研究		998,340	22年6月	23年3月	地域デザイン推進局 局長	上田　喜史
	株式会社バーテック		総合社会学部		教授	前田　節雄		アングルグラインダーに取り付けたワイヤーブラシの振動計測		1,470,000	23年6月	24年6月	代表取締役社長	末松　仁彦
	豊田通商株式会社 自動車用品・資材部		総合社会学部		教授	前田　節雄		骨伝導装置の人体影響評価に関する研究		3,480,750	23年11月	25年3月	部長	村井　義之
	西宮市		総合社会学部		教授	久　　隆浩		都市計画マスタープランに基づくまちづくりの成果に関する研究		483,000	24年7月	25年3月	西宮市長	河野　昌弘
	パナソニック株式会社 AVC ネットワークス		総合社会学部		教授	前田　節雄		骨伝導ヘッドフォン振動の人体影響評価に関する研究		998,975	25年1月	25年9月	AV ネットワーク 事業グループ 開発チーム チームリーダー	友田　晴久
26	国立大学法人 九州大学	国	総合社会学部		講師	中田真木子	環境省再委託 (環境研究総合推進費)	短寿命大気汚染物質・雲・降水相互作用に伴う領域気候変動の評価	環境	3,824,061	26年5月	27年3月	総長	有川　節夫
27	国立大学法人 九州大学	国	総合社会学部		講師	中田真木子	環境省再委託 (環境研究総合推進費)	短寿命大気汚染物質・雲・降水相互作用に伴う領域気候変動の評価	環境	4,083,000	27年4月1日	28年3月31日	総長	有川　節夫
27	自由民主党・市民クラブ大阪市会議員団	地方公共団体	総合社会学部	社会・ マスメディア系専攻	准教授	金井　啓子		大阪市の「特別区設置住民投票」をめぐる大阪市民と自民党大阪市議団の行動研究	その他	300,000	27年6月10日	27年9月30日	幹事長	柳本　　顕
27	パナソニック株式会社 アプライアンス社	大企業 (同一県内)	総合社会学部		教授	前田　節雄		模擬車室内での骨伝導ヘッドホンとノーマルヘッドホン等の受聴時におけるスピーチ明瞭度の比較評価実験	製造技術	927,338	27年10月1日	28年9月30日	ホームエンターテインメント 事業部オーディオビジネス ユニットアクセサリー商品 企画課課長	友田　晴久
28	国立大学法人 九州大学	国	総合社会学部	総合社会学科	准教授	中田真木子	環境省再委託 (環境研究総合推進費)	短寿命大気汚染物質・雲・降水相互作用に伴う領域気候変動の評価	環境	3,878,000	28年4月1日	29年3月31日	総長	有川　節夫
29	国立大学法人 九州大学	国	総合社会学部	総合社会学科	准教授	中田真木子	環境省再委託 (環境研究総合推進費)	短寿命大気汚染物質・雲・降水相互作用に伴う領域気候変動の評価	環境	4,072,000	29年4月1日	30年3月31日	総長	久保　千春
29	公益財団法人 日本生命財団	その他 公益法人等	総合社会学部	心理系専攻	准教授	大対香奈子		学校での児童生徒の教室支援における実践介入と評価のためのツール開発	その他	1,000,000	29年10月1日	30年9月30日	理事長	甲斐　啓史
30	国立大学法人 九州大学	国	総合社会学部	総合社会学科	准教授	中田真木子	環境省再委託 (環境研究総合推進費)	短寿命大気汚染物質・雲・降水相互作用に伴う領域気候変動の評価	環境	3,868,400	30年4月1日	31年3月31日	総長	久保　千春
2	株式会社増進堂・ 受験研究社	中小企業 (同一県内)	総合社会学部	社会・ マスメディア系専攻	准教授	岡本　　健		出版不況下における書籍の企画・出版・広報の研究―コンテンツ分析の成果を活用した書籍出版のアクションリサーチ	その他	220,000	2年4月1日	3年3月31日	代表取締役社長	岡本　明剛
2	株式会社カワセミ	大企業 (県外)	総合社会学部	社会・ マスメディア系専攻	准教授	岡本　　健		出版不況下における書籍の企画・出版・広報の研究―コンテンツ分析の成果を活用した書籍出版のアクションリサーチ	その他	0	2年4月1日	3年3月31日	代表取締役	杠　　洋
3	株式会社 テンシュカク	中小企業 (県外)	総合社会学部	総合社会学科	准教授	奥野　洋子		モノをため込む行為の心理的背景に関する研究	その他	32,000	3年7月1日	4年3月31日	代表取締役	新家　喜夫
3	大阪広域水道企業団	その他 公益法人等	総合社会学部	総合社会学科	准教授	岡本　　健		ＶＲを活用したＰＲコンテンツ制作等研究	情報通信	880,000	契約締結日	4年3月31日	企業長	永藤　英機

総合社会学部の専任教員―研究・社会貢献活動―

金井啓子（ジャーナリズム論）

研究テーマ・学位・主要論文

ジャーナリズム論

文学士（東京女子大学） Bachelor of Arts（Regis College）

在外研究・研究休暇等

サンフランシスコ州立大学（San Francisco State University）にてジャーナリズム教育に関する在外研究（2019年10月～2020年3月）

社会貢献活動

ファクトチェック・イニシアティブ（FIJ）理事（2017年～現在）

大阪日日新聞にて週刊コラム執筆（2010年～現在）

ウォールストリート・ジャーナル日本版にてコラム執筆（2011年～2012年）

コメンテーターとして『スーパーニュースアンカー』（関西テレビ），『関西TODAY』（J:COM）など，講師として『世界一受けたい授業』（日本テレビ）に出演

杉浦　徹（放送論）

私は実務者教員として2018年に総合社会学部社会マスメディア系専攻のマスメディアコースに着任しました.

前職は大阪の毎日放送でテレビ・ラジオの制作現場（主にディレクターやプロデューサー業務）を中心に，編成，宣伝，放送実施など放送に関わる様々な部署を経験しました.

そうした経験をベースに，個々の番組ソフトについてから，放送そしてメディア全般についてまで，大きな変化の波の中にあるメディアの現在を，時に俯瞰的に，時に細部に注目しながら，確認分析し，これからの映像・音声メディアの展開を研究しています.

番組ソフトの分析

バラエティ，ドラマ，ニュース，ドキュメンタリーなどテレビが提供する様々なジャンルのソフトについて分析し，制作者の意図や能力，時代や社会との関わり，ソフトとしてのビジネス展開など，多様な側面からアプローチをしていきます.

これからのメディア（放送とネットメディア）

放送というデバイスが曲がり角を迎える一方，ネットによるボーダーレスでタイムフリーな環境への変化は，映像・音声ソフトにとって大いなる可能性の広がりをもたらしました.

メディア環境の変化とともに，ソフトの編成方針から個々のソフトの作り方まで，どのように変わっていくのか．実際の変化を注視しながら，これからのメディアを考えていきます.

ラジオのこれから

音声メディアとして長期に渡り厳しい環境にさらされながら，独特の立ち位置を維持してきたラジオ．しかし近年，いち早くWEBを使った展開を進め，新たな可能性を見出してきています．メディア環境が大きく変化する中での，ラジオの魅力や可能性を考えています.

鈴木伸太郎

豊かで自由な社会に暮らしている私たちですが意外に苦労しながら生きていないでしょうか．お金がないから大変，病気や怪我をして大変という話は，ひとまず別にして，例えば，選択肢がたくさんあるということ．好きなものを選べるのはいいのですが，迷い始めると大変です．選んでしまって後で悔やむのもまた辛いものです．「選ぶ」のは，人間関係もそうです．いろんな人とお付き合いができる社会であり，私たちは人と上手に関わりながら楽しく生きていきたいと願っているのに，時々コミュニケーションの仕方が分からなくなって孤独を感じたりします．私の研究は，このような現状認識から始まっています．

「共同体形成力」と題する論文を書いたことがあります（近畿大学日本文化研究所編『危機における共同性』風媒社，2012 年所収）．現代のような社会になる以前，人間は小さな共同体の中で生活することが当たり前でした．閉鎖的な共同体ですが，その分安心して身をゆだねることができる，拡大した家族のような人間関係です．対して現代社会は，そのような共同体の影がどんどん薄れていく社会です．私たちにはもう「故郷」はないのでしょうか．…昔のイメージで「故郷」を探し求めても仕方がない，というのが私の結論です．過去と違い，現代の私たちが学びつつあるのは，できるだけオープンな態度で人に接するという姿勢です．現代社会を孤独な砂漠にしないための鍵を私たちは握っています．必要に応じて共同体を作り出す力．これが今後ますます大事になるでしょう．

私の研究の，ある意味延長上にあることですが，現代社会に適応して生きていくために生涯学習の必要性というものも，かつてなく高まっていると考えています．社会人の方々と一緒に読書会などもしていますが，社会貢献活動として，私は大学の地元・東大阪市の社会教育委員も務めています．

辻　竜平（数理・計量社会学，社会ネットワーク分析）

研究テーマ

人々のつながりからなる社会ネットワークについて，それが，自分や他者・組織・社会に対してもたらすさまざまな効果や，社会ネットワークの形成・変容のプロセス，また，社会ネットワークの測定法などについて研究しています．研究テーマとしては，多岐にわたっています．大学院生の頃（1990 年代初期）からの年代順に示せば，以下のようになります．

1. 社会ネットワークと協力行動（大学院生の頃から，このテーマで Ph.D. 取得）
2. 地域社会のネットワークと震災復興（2005 年頃から）
3. 社会ネットワークが地域や個人の格差の縮小（拡大）にもたらす効果（2010 年頃から）
4. 文化活動を促進する社会ネットワークの効果（2010 年頃から，現在も科研費プロジェクトが進行中）

また，最近では，特に社会ネットワークと関わらなくても，「集団的自衛権を誰が容認したのか」や「新型コロナウイルスの社会的影響」といった時事問題に関わる調査研究も行っています．

受賞歴

2011 年，第 13 回日本社会心理学会奨励論文賞
高木大資・辻竜平・池田謙一，2010,「地域コミュニティによる犯罪抑制：地域内の社会関係資本および協力行動に焦点を当てて」『社会心理学研究』26（1）: 36-45.

2015 年，第 13 回日本 NPO 学会優秀賞
辻竜平・佐藤嘉倫編著，2014,『ソーシャル・キャピタルと格差社会：幸福の計量社会学』東京大学出版会.

二木一夫（現代新聞論）

研究テーマ

専門は現代新聞論．2018年，前任の西木正教授の研究室を引き継いだ．全国紙の一つ，毎日新聞社の記者・論説委員を務めた経験をもとに，調査報道，取材手法，文章論を研究している．文章論については，専門科目「日本語文章力養成A・B・C・D」の授業で作文指導に生かしている．

平成から令和に改元された2019年，新聞は平成時代をどう総括したのかを検証した．その結果について，近畿大学総合社会学部紀要第8巻第1号（2019年9月発行）に「新聞報道は『平成』をどう総括したか～三大紙の大型企画を読む～」という題名の研究ノートを投稿した．要旨は次の通り．

「明治維新」「大正デモクラシー」「昭和元禄」．元号は，その時代と社会の世相を投射してきた．それでは平成の時代はどんな言葉で言い表せるのだろうか．憲政史上初めて天皇陛下の退位により，2019年5月1日に皇太子が新天皇に即位し，「平成」は幕を閉じた．退位特例法が制定されたことによって，退位の時期が事前に決まり，新聞各紙は平成という時代を総括する企画記事を改元前に掲載することが可能となった．朝日新聞と読売新聞，毎日新聞は特集面を使って，政治，経済，災害などのテーマごとに平成を振り返る大型企画を始め，記録として残した．本稿は，3紙の大型企画と世論調査を分析し，平成という時代を新聞がどう総括したのかを提示する．昭和天皇逝去による前回改元時との違いも示し，大型企画に欠けていた視点についても言及したい．

毎日新聞社との提携協定

毎日新聞社に在籍していたことから，近畿大学と毎日新聞社との授業協力・提携協定に基づく専門科目「現場からの新聞論」を開講している．毎日新聞社の現役記者を講師役として招き，受講生に報道のあり方を教えている．同じ協定に基づいて，インターンシップも毎夏実施し，社会・マスメディア系専攻の学生を毎日新聞社が受け入れている．参加学生がマスメディアに就職した実績もある．

松本行真

(1) 研究テーマ・学位・主要論文

研究テーマは次の四つ.

①コミュニティの諸相と変容

松本行真，2015,『被災コミュニティの実相と変容』御茶の水書房

吉原直樹・山川充夫・清水亮・松本行真編，2020,『東日本大震災と＜自立・支援＞の生活記録』六花出版

②安全・安心の社会実装の論理と倫理

松本行真，2016,「津波被災地域における復興まちづくりに向けた「連携」の現状と課題」『関東都市学会年報』17：19-27

Michimasa Matsumoto, Kaori Madarame, 2018, "Evacuation from Tsunami and Social Capital in Numanouchi Ward, Iwaki City", Journal of Disaster Research, 13（6）: 1113-1124

③地域経済の自立／自律化

松本行真，2015,「都市と相互作用の世界」吉原・堀田編『交響する空間と場所 I: 開かれた都市空間』法政大学出版局

松本行真，2018,「原発事故被災地における新たな観光コンテンツ創出の可能性―双葉郡未来会議による「マーケティングの論理」の超克」『東北都市学会年報』17・18：75-90

④コミュニティ×メディア研究

松本行真，2020,「平時・有事におけるコミュニティ放送局の役割と課題―北海道胆振東部地震を事例に」『日本都市学会年報』53：159-168

(2) 受賞歴

該当なし.

(3) 在外研究・研究休暇等

該当なし.

(4) 社会貢献活動

東北都市学会事務局（2021 年 9 月～）

山本良二（広告コミュニケーション）

【研究テーマ】

広告会社に 36 年間勤め，テレビ CM の企画制作やキャンペーン立案などの仕事に携わってきました．そんな「広告コミュニケーション」の実務を通じて培ってきたことを，できるだけリアルに学生の皆さんに伝えたいと考えながら，研究を続けています.

人々の意識や生活は変化し，メディアも変化し，私たちを取り巻く環境の変化はこれから

ますます加速していくことでしょう．日本にも世界にも課題はたくさんあります．そんな

さまざまな課題の解決に向かって，広告界も動いています．もはや，広告をつくることだ

けが広告会社の仕事ではありません．社会のさまざまな課題と向き合い，アイデアやコミュニケーションの力で世の中をよくしていく．それが，これからの広告界の重要なミッションのひとつです．そんな広告コミュニケーションのこれからについて，考え続けていこうと思っています.

【受賞歴】

東京コピーライターズクラブ 新人賞・部門賞

ACC CM フェスティバル 郵政大臣賞・ゴールド・シルバー・最優秀地域テレビ CM 賞

読売広告 最優秀賞・読者大賞，朝日広告賞 部門賞，フジサンケイ広告大賞，

毎日広告デザイン賞 部門賞，広告電通賞，やってみなはれ！佐治敬三賞，

ニューヨーク ADC 賞，ロンドン国際広告賞ほか

【校外活動】

大阪市の特別参与として，市の広報企画・広報紙・HP・映像コンテンツ・広報研修などに関しての助言を行っています.

安達智史

研究テーマ・学位・主要論文

○研究テーマ：
現代若者ムスリム女性の信仰と社会参加
○学位：博士（文学）
○主要著作：
・『再帰的近代のアイデンティティ論』（晃洋書房，2020 年）
・『リベラル・ナショナリズムと多文化主義』（勁草書房，2013 年）
○受賞歴：
・第 20 回日本社会学会奨励賞（著書の部，2021 年）
・関西社会学会大会奨励賞（第 62 回大会，2011 年）
・第 9 回日本社会学会奨励賞（論文の部，2010 年）
○在外研究・研究休暇等
・マレーシア（2017 年 4 月～ 2018 年 3 月）
・イギリス（2009 年 6 月～ 2009 年 12 月，2013 年 4 月～ 2015 年 3 月）

社会貢献活動

・ちたビジョンプロジェクト（外国にツールをもつ子どもの学習支援団体）設立者
・『知多市における外国人市民の生活に関する調査報告書』作成（2012 年度，知多市多文化共生研究会・代表）

岡本　健

研究テーマ

コンテンツツーリズム研究，メディア・コンテンツ（映画，アニメ，漫画，ゲーム等）研究

学位

『情報社会における旅行者の特徴に関する観光社会学的研究』（学位論文）博士（観光学）

主要論文：

岡本健（2020）「コンテンツツーリズムの平成と令和　―アニメと観光の関わりの変遷を考える」『観光研究』31 巻，2 号，pp.74-75
OKAMOTO Takeshi（2015）「Otaku tourism and the anime pilgrimage phenomenon in Japan」『JAPAN FORUM』Vol.27, No.1, pp.12-36

受賞歴

2020 年 1 月 7 日：近畿大学 近大メディアアワード 第 2 位
2019 年 7 月 7 日：観光学術学会 著作賞『アニメ聖地巡礼の観光社会学』（法律文化社）

齋藤曉子（ケアの社会学）

研究テーマ

ケアをする人される人，双方とも犠牲にならないようなケアリング関係は現代社会においてどのように実現されるのでしょうか．高齢者介護におけるケアリング関係に関心を持ち，国内外での調査に基づいた研究を行っています．

学位

博士（社会科学）（お茶の水女子大学）

主要業績（論文，著書）

齋藤曉子，2007,「高齢者・家族・サービス提供者の相互関係分析――夫婦間介護におけるサービス＜受容＞のプロセス―」『社会政策研究』7:176-196.

――――，2015,『ホームヘルプサービスのリアリティ――高齢者とヘルパーそれぞれの視点から』生活書院

受賞歴

一般財団法人 社会調査協会　第九回『社会と調査』賞受賞（2019 年，対象論文「社会調査実習におけるアクションリサーチの成果と課題」『社会と調査』第 22 号）

社会貢献活動

浜田市社会福祉協議会地域包括支援センター検討委員会 委員長（2019 年 1 月 - 2020 年 3 月）

浜田市子ども・子育て支援専門部会 副部会長（2018 年 11 月 - 2020 年 3 月）

鈴木光祐

大きく 2 つの研究プロジェクトを進めている．一つは地球環境の「攪乱」と「景観」について人間と非人間（植物や動物）の相互作用という視点から考察している．このテーマに関しては「マングローブ湿地のシンプリフィケーション」や「中世の開発フロンティア・葛川の民族誌」といった論文としてまとめている．もう一つのプロジェクトは「アートと人類学」に関するもので，人類学的な調査結果や知見を文字ではなくアート作品（写真，アクリル画，陶芸など）で表現する試みを行なっている．2017 年以降, Anthropological Art Project を立ち上げ，限界集落で開催された美術展や，京都陶磁器会館（写真は陶芸作家の多田恵子とコラボして会館で行った展覧会の DM），シカゴ大学人類学部，ギャラリーなどで作品を発表してきた．また，このアートプロジェクトについては，日本人類学会や白山人類学研究会などで発表を行うと同時に，「遺され村の美術展・インタビューを中心に」という論考にまとめた．

学位

博士（地域研究）（京都大学）

在外研究

シカゴ大学人類学部 /Visiting Scholar（2019 年 4 月～ 9 月）

パトリック ソフィア リカフィカ（地球惑星科学）

研究テーマ・学位・主要論文

主な研究プロジェクト：①地球型惑星形成と水星・金星・地球・火星の水の起源について．②太陽系未知の惑星理論の研究．③太陽系小天体の軌道進化に関する研究．

学位

2007 年 3 月：地球惑星科学専攻・博士学位を取得（PhD・学術），神戸大学．

主要論文（全て査読付きの国際専門誌）：

1. Lykawka P. S. 2020. Can narrow disks in the inner solar system explain the four terrestrial planets? Monthly Notices of the Royal Astronomical Society, 496, 3688–3699.
2. 【招待論文】Horner J., Kane S., Marshall J., Dalba P., Holt T., Wood J., Wittenmyer R., Lykawka P. S., Hill M., Salmeron R., Bailey J., Agnew M., Carter B., Tylor C. 2020. Solar System Physics for Exoplanet Research. Publications of the Astronomical Society of the Pacific, 132, id.102001, 115 pp.
3. Lykawka P. S., Ito T. 2019. Constraining the Forming the Four Terrestrial Planets in the Solar System. The Astrophysical Journal, 883:130 (22 pp).
4. Lykawka P. S., Ito T. 2017. Terrestrial Planet Formation: Constraining the Formation of Mercury. The Astrophysical Journal 838:106 (10 pp).
5. 【招待 monograph】Lykawka P. S. 2012. Trans-Neptunian objects as natural probes to the unknown solar system. Monographs on Environment, Earth and Planets 1, 121-186.

受賞歴

2017 年 4 月：国際天文学連合より功績を称えられ小惑星「(10018) Lykawka」が命名された．

社会貢献活動

ニュースリリース「地球型惑星形成に関する新たな制約条件の解明」，国立天文台天文シミュレーションプロジェクトが発表しました．
https://www.cfca.nao.ac.jp/pr/20190927

☆彡研究業績，受賞歴，国内外の講演会 / 招待訪問，アウトリーチ，社会活動などの詳細は http://sites.google.com/site/patryksofialykawka/ をご参照ください．

西尾雄志

研究テーマ・学位・主要論文

研究テーマ：ハンセン病問題，社会運動論，社会哲学，経験学習理論

学位：博士（学術）

主要論文：2014,『ハンセン病の『脱』神話化――自己実現型ボランティアの可能性と陥穽』皓星社 .2015,『承認欲望の社会変革――ワークキャンプにみる若者の連帯技法』（共著），京都大学学術出版会 .2019,「ボランティア学習と経験学習理論」日本ボランティア学習協会（19）29-37. ほか

受賞歴：2006 年週刊金曜日ルポルタージュ大賞　優秀賞

社会貢献活動：文部科学省生涯学習政策局「体験活動関連事業に係る技術審査委員会」技術審査専門委員 , 国立教育政策研究所「奉仕活動・体験活動の推進・定着のための研究開発『社会教育を基盤とした地域づくりに資するボランティア推進体制に関する調査研究委員会』委員 , 公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター理事（前代表）．災害時の学生ボランティア引率指導，中国ハンセン病回復村，フィリピン少数民族集落などでのワークキャンプ（労働奉仕ボランティア）活動，他多数.

岡野英之（文化人類学／武力紛争・政治研究）

研究テーマ

私は文化人類学者であり，フィールドワークを通した他者理解が学究活動の根幹となる．現在，私が取り組んでいるのは，ミャンマー内戦（1948 年―現在）における隣国からの影響についての研究である．中でも現地調査のため，タイ側のミャンマー国境と近い地域にしばしば訪れている．この地域には，内戦に巻き込まれ，国境を越えて逃げた避難民が暮らしている．また，国境地域には，シャン人を主体とする武装勢力が拠点を構え，ミャンマー政府と対峙している．避難民や武装勢力が隣国タイにおいてどのように関わりあっているのかが私が現在取り組んでいるテーマである．研究上で心掛けているのは，研究対象である他者が自分と同じ人間であることを気付くことから他者理解は始まるということである．武力紛争に参加した戦闘員や司令官であっても，そのことは変わらない.

学位・主要論文

大阪大学大学院人間科学研究科博士課程修了．博士（人間科学）．著書に『アフリカの内戦と武装勢力』（昭和堂，2015 年）．最近の論文に「タイにおけるミャンマー避難民・移民支援と武装勢力」（『難民研究ジャーナル』，2020 年），「シエラレオネにおける国家を補完する人脈ネットワーク――エボラ危機（二〇一四 - 二〇一六年）からの考察」（末近浩太・遠藤貢編『紛争が変える国家』所収，岩波書店，2020 年）.

漆原宏次（学習心理学・アニマルセラピー）

研究テーマ

ヒトを含む動物の行動が，経験によってなぜ／どのように変化するのかを探求する，学習心理学が本来の専門です．特に，古典的条件づけやオペラント条件づけなどの単純な学習現象のメカニズムと，ヒトの示す複雑な行動の関係を解き明かすのが中心的テーマです．

また，アニマルセラピー（動物とふれあうことで得られるポジティブな効果）についても研究しています．愛犬のフルフルと出会ったことがきっかけで本格的に取り組み始めたテーマですが，フルフルと協力して行う実践や研究だけでなく，最近では，乗馬経験が人に及ぼすポジティブな影響や，水族館が私たちの心に与える影響などについても調べています．

学位

博士（心理学）　関西学院大学

主要論文

Urushihara, K., & Miller, R. R.（2017）. Causal superlearning arising from interactions among cues. Journal of Experimental Psychology: Animal Learning and Congnition,43, 183-196.

漆原宏次・伊藤麻衣（2016）. 大型犬とのふれあいがもたらす短期・長期心理的効果の検討―動物介在活動の効果に関する予備調査―. 北海道医療大学心理科学部研究紀要 , 12, 21-30.

Urushihara, K., & Miller, R. R.（2010）. Backward blocking in first-order conditioning. Journal of Experimental Psychology: Animal Behavior Processes,36, 281-295.

Urushihara, K., Stout, S. C., & Miller, R. R.（2004）. The basic laws of conditioning differ for elemental cues and cues trained in compound. Psychological Science, 15, 268-271.

小泉隆平（臨床心理学・人間性心理学・教育領域）

研究テーマ・学位・主要論文

研究テーマ：児童生徒・保護者への支援，フォーカシング指向心理療法

学位

博士（心理学）　名古屋大学

主要論文

小泉隆平（2017）. フォーカシング指向心理療法におけるクリアリング・ア・スペースの活用について－ Thinking About という技法を巡って－ 近畿大学総合社会学部紀要 , 6（1）, 21-39.

小泉隆平（2014）. 問題の核心に向かい合えず，そのテーマについて語れないでいた女性との面接過程 －“Thinking About”とノートテイキングを用いて－ 人間性心理学研究 , 32（1）, 45-56.

小泉隆平（2010）. 復讐心を淡々と語る男子中学生との面接過程―「第二の皮膚」の特徴をフォーカシング的態度につなげる工夫」心理臨床学研究 28（4）, 467-478.

受賞歴

東日本大震災支援業務に対する感謝状（京都府知事）2011 年 9 月

社会貢献活動

特別支援教育サポート拠点事業府専門家チーム　委員　京都府教育委員会

特別支援教育専門家チーム　委員　岸和田市教育委員会

尼崎市いじめ問題対策審議会　会長　尼崎市教育委員会

堀田美保（社会心理学）

研究テーマ

アサーティブ・コミュニケーション，対等性の修得

分配行動，フェアネス認知，意見分布認知

学位

1987 年 3 月 26 日　学術修士
大阪大学大学院人間科学研究科

1992 年 6 月 12 日　Doctor of Philosophy（Psychology）　Carleton University

社会貢献活動

アサーティブ・トレーニングをはじめとした，コミュニケーションに関わる研修，講座，ワークショップ.

主な著書・翻訳書・論文

堀田美保（2019）．アサーティブネス　その実践に役立つ心理学　ナカニシヤ出版

堀田美保（2015）．アサーティブネスにおける「対等性」の要素　―アサーティブネス・トレーナーの語りから　近畿大学総合社会学部紀要，第 4 巻，第 1 号 , 1-25.

堀田美保（2013）．アサーティブネス・トレーニング効果研究における問題点　教育心理学研究，61，412-424.

堀田美保訳（2005）社会心理学が描く人間の姿　バー著　ブレーン出版

堀田　美保（2000）性役割観に関する若者世代意見と親世代意見の分布認知．心理学研究，70, 503-509.

大越愛子・堀田美保（編著）（2001）．現代文化スタディーズ　晃洋書房

堀田　美保（1999）．若者世代・親世代の損得に関する社会意見の推定．社会心理学研究，15, 34-46.

本岡寛子（臨床心理学・認知行動療法）

研究テーマ

青年期以降，特に大学生や働く人がメンタルヘルス不調（うつ病や不安症）に陥った際の回復プロセス（効果的な問題解決プロセス）について研究を行ってきた．メンタルヘルスが不調である場合，5 つの適切な問題解決（問題の明確化，目標設定，解決策の創出，解決策の選択と実行，結果の評価）のいずれか，もしくは全てのプロセスに困難が生じ，さらにメンタルヘルスを悪化させることが明らかになっている．そこで，不調から抜け出すための糸口を見つけ出す支援プログラムとして，認知行動療法の一技法である「問題解決療法」を基盤としたプログラムを構築し，その効果を検証している．近年は，メンタルヘルス不調からの回復・再発予防だけではなく，未然予防，早期発見・早期介入に関心を寄せている．

学位

博士（心理学）

主要な書籍

本岡寛子（2016）．働く人のメンタルヘルス対策と実務－すぐに使えるノウハウとワークー森下高治・本岡寛子・枚田香（編）第 3 部　職場での取り組み実践・応用編　第 14 章「認知行動療法」（Pp.139-153）　ナカニシヤ出版

平井啓・本岡寛子（2020）. ワークシートで学ぶ問題解決療法　ちとせプレス

社会貢献活動

地域の方々に利用して頂ける心理相談室「みどりトータル・ヘルス研究所」を運営している．カウンセリングや心理検査，働く人のストレスチェックやメンタルヘルス対策についての相談に応じている．

遠藤信貴（認知心理学）

研究テーマ

生活環境への適応的行動の獲得プロセスの効率化について，記憶や学習，注意，意識の潜在性の観点から研究している．

学位

2004 年 3 月　博士（学術）名古屋大学

主要論文

Endo, N. & Takeda, Y.（2004）. Selective learning of spatial configuration and object identity in visual search. *Perception & Psychophysics*, **66**, 293-302.

遠藤信貴・武田裕司（2008）. 全体または局所レイアウトの繰り返しにおける文脈手掛かり効果 心理学研究，**78**, 583-590.

Endo, N., Nagai, M., & Kumada, T.（2009）. Objective estimation of state of understanding by near-infrared spectroscopy（NIRS）. *Japanese Journal of Psychonomic Science*, **28**, 2-16.

遠藤信貴（2016）. 変化検出課題における空間レイアウトの文脈学習 近畿大学総合社会学部紀要，**4**, 1-13.

遠藤信貴（2020）. 視覚的文脈の潜在学習における学習方略の影響 近畿大学総合社会学部紀要，**9**, 9-18.

受賞歴

2008 年 9 月　2007 年度日本心理学会優秀論文賞

大対香奈子（応用行動分析学）

経歴等

学位は博士（心理学）を関西学院大学大学院で取得し，総合社会学部の開設時に着任して現在に至る．公認心理師と学校心理士の資格を持ち，大学院では心理臨床家の養成を担当する．

研究活動・主要論文

研究では，応用行動分析学を基礎とする実践であるポジティブ行動支援（Positive Behavior Support; PBS とする）を小中高等学校に導入し，その実践の効果について検証している．特に PBS の実践が教師の専門性やメンタルヘルスの向上にどのように影響するかに関心があり，検討を進めている．

大対香奈子・庭山和貴・田中善大・松山康成（2021）. 学校規模ポジティブ行動支援が教師のバーンアウトおよび効力感に及ぼす効果 近畿大学総合社会学部紀要 , 9, 31-42.

大対香奈子（2020）. 学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）における実行度の評価　行動分析学研究 , 34, 229-243.

社会貢献活動

小学校等でコンサルテーションを行ったり，教員対象の講演や研修を複数実施している．また徳島県教育委員会のアドバイザーチーム，大阪府子どもライフサポートセンターの SST プログラム運営スーパーバイザー，大阪府高等学校支援教育力充実事業専門家チームとして実践活動を行っている．

受賞歴

2010 年内山記念賞（日本認知・行動療法学会論文賞）

日本心理学会学術大会優秀発表賞受賞（2019 年度，2020 年度）

奥野洋子（臨床心理学）

現在の研究テーマ

- 対人援助職のメンタルヘルスと専門職としての成長
- レジリエンスがストレスフルな体験後のネガティブな変化に与える影響
- メンタライジング能力と情緒の言語化，対人関係の安定性との関連
- 語ることによる省察力の向上と自己成長
- うつ病などの精神疾患や身体疾患，発達障害を抱えた人への心理的援助
- カウンセラー－クライエントの関係性と対象関係
- 絵本の読み合いを通したコミュニケーション

主要論文

奥野洋子・小泉隆平・直井愛里・本岡寛子・長田道（2020）：心理検査のフィードバック面接を受ける効果：大学院実践的実習への協力学生に対する心理アセスメント　近畿大学総合社会学部紀要，9（1），19-32.

奥野洋子（2019）：大学生に対する絵本の読み聞かせによるリラックス効果の検討―情動知能との関連について―　近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要，4，1-13.

奥野洋子・萬羽郁子・青野明子・東賢一・奥村二郎（2013）：対人援助職のストレス体験が 1 年後の自己成長感に与える影響に関する縦断的研究　近畿大学医学雑誌，32（3・4），115-124.

奥野洋子（2008）：面接者 - 来談者関係の二重性とその乗り越え　近畿大学臨床心理センター紀要，創刊号，117-127.

奥野洋子・北山修（1994）：情緒的交流に着目した発達援助に関する研究―ことばに遅れがある幼児とその母親を対象として　九州大学教育学部紀要，39（1・2），127-137.

佐藤　望（人間工学・産業心理学）

研究テーマ

女性における作業負担を心電図，脈波，筋電図などの生体情報により評価する研究に従事している．これまでに月経や更年期症状と作業負担との関係，荷物取り扱い作業における作業負担などについて検証を進めてきた．また，使いやすい製品のデザイン要件を明らかにすることにも関心があり，製品の物理的特性や機能性と使いやすさとの関係を検証する研究に加え，製品に対する美感といった感情面にも焦点を当てた研究に着手している．

学位

博士（医学）（産業医科大学）

主要論文

佐藤 望 (2019). 介助式車いす操作時における身体的及び精神的負担評価 , 近畿大学総合社会学部紀要 , 8, 13-21.

佐藤 望，三宅 晋司 (2005). 閉経が精神作業時の心血管系反応に及ぼす影響 日本生理人類学会誌，4, 41-48.

Sato, N., Miyake, S. (2004). Cardiovascular reactivity to mental stress: Relationship with menstrual cycle and gender. *Journal of Physiological Anthropology and Applied Human Science*, 23, 215-223.

Sato, N, Miyake, S, Akatsu, J, Kumashiro, M. (1995). Power spectral analysis of heart rate variability in healthy young women during normal menstrual cycle, *Psychosomatic Medicine*, 57, 331-335.

在外研究・研究休暇等

University of Hawaii at Manoa, Center on Aging において，主に，老年学に関する研究に携わった．在籍中，高齢者におけるコンピュータ教育プログラムに対するニーズを探るための調査を実施した．（2002 年 8 月 - 2003 年 3 月）

塩﨑麻里子（サイコオンコロジー）

研究テーマ

人生における選択と幸福について，研究している．我々の人生は選択の連続である．たとえ，選択に対して後悔があっても，そこからまた立ち上がっていける強さを人は持っている．一人では難しくとも，家族などの親しい人との関係がその力をくれる．これらに関心をもって研究を続けている．

具体的な研究テーマと主要論文：

がん患者と家族のミス・コミュニケーション

Shiozaki M, Sanjo M, Hirai K.（2017）. Background factors associated with problem avoidance behavior in healthy partners of breast cancer patients. *Psycho-oncology,* **26**, 1126-1132.

終末期がん患者と家族の意思決定と後悔

塩﨑麻里子・三條真紀子・吉田沙蘭　他（2017）．がん患者の遺族の終末期の治療中止の意思決定に対する後悔と心理的対処：家族は治療中止の何に，どのような理由で後悔しているのか？ Palliative Care Research，12，753-760.

人生の価値志向性の明確化と幸福

塩﨑麻里子・米澤京伽・藤岡里歩・増本康平（2021）．老年期の“人生の価値”に関する認識と後悔の関連　日本老年社会科学，43, 2, 169.

いのちと向き合うこととレジリエンス

塩﨑麻里子・濱崎洋嗣・森口ゆたか・佐藤望・田中晃代（2022）．介護福祉士のレジリエンスと老いや死と向き合うことに伴う否定的感情への対処方略の関係　老年社会科学，43, 349-359.

学位

博士（人間科学）

在外研究

2018 年 10 月～ 2019 年 3 月
Stanford Center on Longevity

直井愛里（スポーツ心理学）

研究テーマ

アスリートの文化的背景を考慮した心理的な支援に関する知見を得るために，多文化におけるスポーツコンサルテーションに関する調査をしています．また，スポーツ傷害の心理学における分野では，アスリートの受傷後の心理的な反応やリハビリテーションで必要とされる心理的な支援について検討しています．さらに，運動の継続に関する研究では，大学生の健康について，どのような環境や心理的要因が大学生の運動の継続に関連しているのか調査をしています．

学位

Doctor of Education（スポーツ心理学）

主要論文

Naoi, A., Watson, J., Deaner, H., & Sato, M.（2011）. Multicultural issues in sport psychology and consultation. *International Journal of Sport and Exercise Psychology,* **9**(2),110-125.

直井 愛里（2016）. 前十字靭帯再建術後の心理的反応とスポーツ復帰および心理的介入の効果　近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要 , 1,13-20.

直井 愛里・佐藤 望（2018）. 大学生の運動行動と運動継続への自信に関連する心理・社会的要因　スポーツ産業学研究 , 28（1),63-74.

在外研究

2018 年 4 月～ 2018 年 9 月　西オーストラリア大学

社会貢献活動

近畿大学心理臨床・教育相談センター　相談員

中川知宏（犯罪心理学）

研究テーマ・学位

これまでは集団非行の発生過程に関心を持って研究を進めてきました．最近では，企業内部で生じる粉飾決算やデータ改ざんのような組織体犯罪がどのように生じるのかということについて関心を持ち，組織レベルと個人レベルの観点から検討しています．

学位

博士（文学）

主要論文

中川 知宏・仲本 尚史・國吉 真弥・森 丈弓・山入端 津由・大渕 憲一（2019）なぜ非行集団に同一化するのか――集団間関係に基づく検討―― 心理学研究 , *90*, 252-262.

中川 知宏（2016）非行集団と暴力犯罪 大渕憲一（監修）紛争・暴力・公正の心理学（pp.264-273）北大路書房

中川 知宏（2016）犯罪心理学事典 丸善出版 村松励ほか（編）分担執筆（低自己統制理論非行集団 文化的逸脱 理論を執筆）

中川 知宏・林 洋一郎（2015）自己統制が逸脱行動実行意図に及ぼす効果 : 自己統制の特性的側面と状況的側面 近畿大学総合社会学部紀要 , *4*, 85-94.

受賞歴

2020 年度　日本心理学会　優秀論文賞（なぜ非行集団に同一化するのか――集団間関係に基づく検討――）

社会貢献活動

日本犯罪心理学会 地方区理事（近畿地区）

上野将敬（比較行動学）

研究テーマ

霊長類における社会性の進化

（右の写真はニホンザルを観察している上野です）

学位

博士（人間科学）

主要論文

Ueno, M., Yamamoto, H., Yamada, K., & Itakura, S.（2021）. Individual recognition of monkey（Macaca fuscata）and human（Homo sapiens）images in primatologists. *Journal of Comparative Psychology*.

Ueno, M. and Nakamichi, M.（2018）. Grooming facilitates huddling formation in Japanese macaques. *Behavioral Ecology and Sociobiology*.

Ueno, M., Yamada, K., and Nakamichi, M.（2015）. Emotional states after grooming interactions in Japanese macaques（Macaca fuscata）. *Journal of Comparative Psychology*

写真　ニホンザル観察場面

（岡山県真庭市神庭の滝自然公園）

受賞歴

日本霊長類学会高島賞，日本心理学会優秀発表賞，大阪大学賞（若手教員部門）

石原　肇（地域政策）

研究テーマ

2007年3月に「三宅島火山災害に対する行政機関の対応行動に関する地理学的研究」により博士（地理学）を授与された．以降，地理学をベースに環境，まちづくり，災害対応等に関する地域政策に関して調査・研究を進めてきた．近年では，中心市街地の活性化，地方自治体と民間との公民連携，コロナ禍における地域活性化の取組み等について調査を進めている．

社会貢献活動

基礎的自治体のまちづくりをはじめとした行政運営に係る審議会等の委員をお引き受けしている（門真市都市計画審議会，大東市指定管理者評価選定委員会，大阪府河北ブロック福祉有償運送運営協議会）．また，本学のある東大阪市の地域連携研究に参画し，生産緑地の保全（2017年度）や鴻池新田地域の賑わいの創出（2018年度）に関して提言してきた．

文献

石原肇，2006,「2000年三宅島火山ガス災害－対策の変遷－」『地學雑誌』**115**(2)：172-192.

石原肇，2010,「地方自治体における建築物環境配慮制度の比較」『日本地域政策研究』8：159-166.

石原肇，2018,「コンビニエンスストアとの地域包括連携協定を結ぶ基礎的自治体の特性」『日本都市学会年報』52：111-120.

石原肇，2019,『都市農業はみんなで支える時代へ －東京・大阪の農業振興と都市農地新法への期待－』古今書院

石原肇，2021,「コロナ禍における兵庫県伊丹市にみる飲食店支援施策の迅速な展開」『日本都市学会年報』54：25-30.

田中晃代（都市計画・まちづくり）

研究テーマ

主な研究テーマは，都市とその近郊に住む市民やNPO・ボランティア，企業を主体とするまちづくり活動と都市にかかわる制度研究です．いかに自分の住むまちに愛着・誇り・共感（いわゆるシビックプライド）を持ちつつ，住み続けられるかという問いが基本となります．制度がいくら綺麗に整っていたとしても，人の活動が滞っていては，活気あるまちはできません．人の頭数ではなく，まちへの想いのある人がどれだけいるかということにつきます．例えば，兵庫県の「市街化調整区域」における土地利用の規制緩和策としての「特別指定区域制度」を事例に，開発許可件数や建築許可件数等から居住者の動向を明らかにしています[1]．しかし，区域指定されている地区においても，新たは居住者が決まらないといったケースも見られ，制度を設置したところで，新規居住者の流入の促進が見込まれるとは限らないことがわかってきました．

また，大阪市生野区の密集市街地を中心とする地域では，志のある市民・企業が協働で「空き家バンク」のサービスを提供し，借り手と貸し手のマッチングを進めています[2]．自治体が提供する公共サービスを補完するのではなく，むしろ主体的に提供しようとする傾向が事例から明らかとなりました．

参考文献

1）田中晃代，2020,「「市街化調整区域」における土地利用規制緩和策としての区域指定制度の実態と評価に関する研究 - 兵庫県特別指定区域制度を事例として -」『都市計画学会学術論文集』**55**(3)：29-35.

2）田中晃代，2018,「空き家の貸し手と借り手を直接つなぐ「場」の機能と役割に関する研究　－大阪市生野区空き家カフェを事例とする－」『都市研究第16・17合併号』：69-78.

久　隆浩（都市計画・環境デザイン）

研究テーマ

ポスト近代における社会システム・都市計画・まちづくりに関する研究

学位

工学博士

主要著書

久隆浩，2014,「新たな社会システムとしての住民主体のまちづくり」「歴史資産を活かしたまちづくり」『都市構造と都市政策』古今書院.

久隆浩，2013,「ソウルの北村韓屋村」『路地研究　もうひとつの都市の広場』鹿島出版会.

久隆浩, 2011,「ポスト近代の都市・まちづくり」「協働のまちづくりのあり方」『都市・まちづくり学入門』学芸出版社.

久隆浩，2011,「被災者自身が復興を担える形での支援を考える」『東日本大震災・原発事故』学芸出版社.

久隆浩，2011,「環境デザインと市民参加」『はじめての環境デザイン学』理工図書.

主要論文

久隆浩，2020,「新たな地域自治協議会の組織運営のあり方に関する考察」『日本都市学会年報』53：153-158

主な社会貢献活動

都市計画審議会会長（豊中市，泉大津市，摂津市，岬町，川西市，大和郡山市，大和高田市）

環境審議会会長（奈良県，橿原市，香芝市，芦屋市）

藤田　香（財政学，環境経済学，地方財政論）

研究のキーワード

財政学，環境経済学，地方財政論，環境税，地方環境税，森林環境税，中国貴州省，ミャオ族，伝統文化，水環境問題，地域研究

学位

博士（経済学）

主要著者

藤田香，2016,「環境と財政」『テキストブック現代財政学』（植田和弘，諸富徹編著），有斐閣.

藤田香，2015,「農山村の維持可能性と限界集落問題への対応」『アジアの生態危機と持続可能性』（大塚健司編），アジア経済研究所 .

Kaori Fujita, 2014, "Towards a sustainable society by local initiatives: Local environmental taxes in Japan", *Governing Low-carbon Development and the Economy - Multilevel environmental governance for sustainable development*, United Nations University Press.

竹歳一紀・藤田香編著，2011,『貧困・環境と持続可能な発展：中国貴州省の社会経済学的研究』，晃洋書房.

藤田香，2009,「流域ガバナンスと水環境保全」『環境政策のポリシー・ミックス』（諸富徹編著），ミネルヴァ書房.

藤田香，2001,『環境税制改革の研究』，ミネルヴァ書房.

受賞歴

第 1 回上河賞，第 12 回租税資料館賞

主な社会貢献活動

EMECS（世界閉鎖性海域環境保全会議）科学政策委員会委員

飯塚公藤（地理学・ＧＩＳ）

研究テーマ

水陸交通の地域的変化に関する歴史 GIS 研究
景観・まちづくりに関する GIS 研究
―京町家，近代化遺産，水辺景観，運河―
アート・災害・日系人移民に関する GIS 研究

学位

博士（文学）（2016 年 3 月立命館大学），修士（地理学）（2005 年 3 月駒澤大学）

主要論文

飯塚公藤，2020,『近代河川舟運の GIS 分析－淀川流域を中心に－』古今書院（単著）.
加藤一誠・河原典史・飯塚公藤・河原和之，2021,『日本あっちこっち－「データ＋地図」で読み解く地域のすがた－』清水書院（共著）.
蒋湧・湯川治敏・駒木伸比古・飯塚隆藤・村山徹・小川勇樹，2019,『地域研究のための空間データ分析入門－ QGIS と PostGIS を用いて－』古今書院（分担執筆）.
千田稔・本多健一・飯塚隆藤・鈴木耕太郎編著，2014,『京都まちかど遺産めぐり－なにげない風景から歴史を読み取る－』ナカニシヤ出版（共編著）.

社会貢献活動

第 3 期京町家まちづくり調査（2008・2009 年度，京都市）
京都市内未指定文化財庭園調査－町家・民家の庭の調査－（2010 ～ 2012 年度，京都市）

今西亜友美（地域生態学）

研究テーマ・学位

造園学や緑化工学を専門とし，都市緑地や里地里山などの自然環境の保全，再生，創出および，自然との関わりが人に及ぼす効果に関する研究を行っている．学位論文は「草本植物からみた都市内孤立緑地の保全と創出」であり，京都大学にて博士（農学）を授与された．

具体的なフィールドは，京都府の里山，社寺林，ビオトープや旧巨椋池，滋賀県の琵琶湖や谷津田，全国各地のオニバス自生地，高速道路の緑化のり面，東南アジア・ラオスの天水田などである．今後も人々の生活圏近くの自然の保全や再生，人の自然に対する関心や理解の促進に関する研究を行い，人と自然が共生する社会づくりに貢献していきたい．

主要論文

Imanishi, A., Natuhara, Y., Imanishi, J., Duangvongsa, I. and Southavong, S., 2021, “Effects of double rice cropping with irrigation on the diversity of herbaceous plants and their utilization as a food source in paddy fields of southern Lao People’s Democratic Republic”, *Landscape and Ecological Engineering*, **17**（4）: 493-505
今西亜友美，2020,「江戸時代における神社の森の資源利用の実態」『ランドスケープ研究』84（3）：250-253.

受賞歴

日本造園学会ベストペーパー賞「滋賀県南東部の水田地帯におけるハルリンドウ生育地の環境条件」（2012）
ICLEE Poster Award “Changes in herbaceous plants at an urban ecological park for 9 years after construction”（2006）

社会貢献活動

堺市環境影響評価審査会委員，「六甲山森林整備戦略」森林整備に関する研究会委員など

津島　光（環境建築論）

研究テーマ：学位（修士）

研究テーマは環境建築論です．主題は常に建築に向かいますが，本学部に着任後に環境を追記しました．その趣旨は建築論の主題に戻ることと環境という今のテーマに展開することからです．主要論文としては，下記の修士論文と学会で連続発表した建築家グロピウスに関するものがあります．

修士論文

「創造過程に関する一考察　　―ル・コルジュジェを通して―　」

受賞歴

特記すべきものはありません．

在外研究・研究休暇等

特に補助等を受領したものではありませんが，ドイツにあるバウハウスに視察目的に学生と訪問しました．学校より支援頂き，学内で発表会を実施しました．

社会貢献活動

特記すべきものとして下記があげられます．

・夙川駅前再開発に関する活動

これは阪急神戸線「夙川駅」周辺の開発に関する地元の自治会活動に学生と共に参加したものです．事前協議，自治会の活動へ参加，現地の調査等を通じ，身近なまちづくり活動への協力ができた社会貢献活動ではないかと考えています．

中田真木子（大気環境解析）

研究テーマ

大気中を浮遊する微小粒子（エアロゾル）が大気環境や気候変動に与える影響について研究しています．エアロゾルは地球規模の気候変動を左右する外部強制因子の一つですが，時空間的に局所的な分布をもつため，地域特性の把握も重要となります．近畿大学で研究を行うようになり，東大阪キャンパスで観測している大気環境データを用いた大阪周辺のエアロゾル動態調査を実施してきました．キャンパス周辺は人為起源の排出源が多く，通常時から小粒子が卓越する環境ですが，春は広域輸送の影響が顕著になる傾向にあります．しかしながら，近年は大気汚染対策により日本だけでなく東アジア各地においても人為起源エアロゾルの排出量は減少しています[1]．今後も大気環境が改善していくことは喜ばしいことですが，エアロゾルが減少することで気候がどのように変化するか推察することも必要となってきています．地球システム統合モデルを用いたシミュレーションから，東アジアはエアロゾル量変化に伴い，気温や降水が大きく影響を受けることがわかりました[2]．現在は，領域エアロゾル輸送モデルによるシミュレーションも活用し，より詳細にエアロゾル分布やその要因について調べています．

論文

[1] Nakata, M. and Deng, S., 2020, “Regional characteristics of air pollution in Japan”, *Remote Sensing of Clouds and the Atmosphere* XXV, 115310P, doi: 10.1117/12.2572559, 2020.

[2] 中田真木子，渡辺真吾，高橋洋，2020,「人為起源エアロゾル量漸減による東アジアの気候変動」『エアロゾル研究』**35**(2)：110-117.

社会貢献活動

東大阪市都市計画審議会委員，東大阪市廃自動車等認定委員会委員，大阪府廃棄物処理施設等の設置に係る生活環境影響評価審議会委員

内海秀樹（資源利用評価）

研究テーマ・学位・主要論文

事業所や家庭から排出される紙ごみ等一般廃棄物の再資源化のための計画と食品ロスに関する研究を行っている．大阪大学博士（工学）．可燃ごみに混入される紙ごみは少なくはないことが課題になっているが，これを潜在的な資源化物ととらえ，その収集の可能性について検討を「事業系一般廃棄物の資源化ポテンシャルについての実態調査」（平成 26 年度 東大阪市地域研究助成金事業の支援を受けた）にて行った．食品ロスに関しては，飲食店を対象にしチェーン店と単独店等の経営方式の違いに着目して食品ロス発生抑制行動の違いについて「飲食店での経営方式別食品ロス発生抑制行動に関する研究－東大阪市の飲食店を対象として－」『近畿大学総合社会学部紀要』(5(1):27-34,2016) にて調査を行い，飲食店や小売業，持ち帰り等の業種毎について食品ロス削減に向けての取り組み実施状況の違いに関し「食品ロス抑制行動と意識に関する研究」（令和元年度 東大阪市地域研究助成金事業の支援を受けた）にて調査を行った．また，家庭からの手つかず食品の廃棄が問題になっており，その一因として認知症との関係について，東大阪市の居宅サービス事業所に対する質問紙調査を行った．

社会貢献活動

東大阪市市民ごみ減量推進委員会（2010.5-2017.3），同市廃棄物減量等推進審議会（2016.5-2018.3, 2020.3-），東大阪都市清掃施設組合一般廃棄物処理基本計画策定委員会（2016.2-2016.3），東大阪都市清掃施設組合事業方式検討委員会（2018.4-2019.3），八尾市大規模小売店舗立地委員会（2012.4-），環境啓発施設に係る八尾市指定管理者選定委員会（2015.7-2016.3, 2020.9-2021.3），門真市廃棄物減量等推進審議会（2019.3-2020.3）

大野司郎（地盤環境学）

研究テーマ

地盤工学を主軸とし，地域のまちづくり・基盤整備について研究している。空洞等が生じる地盤や液状化が生じるような軟弱地盤，調査することが難しい箇所などの地盤調査が得意な分野で，バイオマスやアスファルト廃材等の再資源化など地域特有の工学的解決にも取り組んでいる。そのほか，ICT を活用した実践的教育手法の開発にも関心がある。

学　　位　修士（工学）

主要論文

地盤調査における詳細情報の取得 —NSWS を活用した SPT 情報の補完と詳細化— 『地盤工学会誌』**69**(10), pp.26-30, 2021.

Effects of the ring-cut method as a settlement deterrent in a soft ground tunnel 『Tunnelling and Underground Space Technology』Vol. 28, pp.90-97, 2012.

トンネルの安定性に対するインバート工の効果に関する遠心模型実験 『土木学会論文集 F1』**67**(3), pp.I_1-I_8, 2011.

課題発表におけるインタラクティブプレゼンテーションの汎用的手法の確立 『2019 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会資料集』A-9, 2019.

受賞歴

2004 年地盤工学会事業企画賞「近代地盤工学の歴史を語る」関西支部企画幹事グループ（代表幹事）

社会貢献活動

奈良県地質調査業協会研修講演，地盤工学会関西支部幹事・評議員など

保本正芳（環境情報学）

研究テーマ

地球球環境問題は，複数の要因が複雑に絡み合うため，様々な地上観測データや人工衛星データを用いた統合的解析が重要である．学位論文は，地球温暖化予測において大きな不確定要素として挙げられるエアロゾルと雲に注目し，地上観測および衛星データの解析結果を『地球放射システムにおける不安定要素の解明 : エアロゾル，雲粒子特性の導出』としてまとめ，博士（工学，近畿大学）を授与された．近年では，高解像度衛星データを用いたローカルな環境問題への実利用について検討している

一方で，一人一人が環境問題の解決を主体的に取り組むには「持続可能な社会の創り手の育成」が重要となっており，小中高の学習指導要領が改訂されている．現在，高等学校の地理教育における衛星データや地理情報システムの活用の支援，小・中学校での「総合的な学習の時間」における ICT を活用した探究学習の支援なども行っている．

論文・出版物

保本正芳，増田憲昭，2021,「中学校における ICT を活用した協働的探究学習の実践」『情報教育』3：1-8.

保本正芳，2020,『Society5.0 のキャリアを考える』noa 出版.

受賞歴

日本リモートセンシング学会論文奨励賞 受賞（2002 年 11 月）

社会貢献活動

東大阪市布施商店街の活性化を目的として，商店街 PR 映像の制作やイベントの企画などを行う（https://fusenowa.com/）.

石井隆之（束ね理論と重なり志向）

言葉の分野における，私の現在の理論：「曖昧性は束ね理論で説明できる」

「束ね理論」（Bundling Theory）とは，例えば，数量詞が複数入った文の曖昧性は，「数量詞が表す数で，それが修飾する事物を束ねること」により説明できるという理論です．

具体例を挙げると，「3 人の少年が 2 人の少女に出会った」という文．これは，一般に「3 人の少年がまとまって行動し（＝少年 3 人を束ねる発想），あるとき a という少女に，別のとき b という少女に出会った」の意味と「3 人がばらばらで行動する，すなわち A という少年が 2 人の少女に出会い，B という少年が 2 人の少女に出会い，C という少年が 2 人の少女に出会った（＝少女 2 人を束ねる発想）」（少女は最大 6 人の可能性がある）の意味の 2 つに曖昧です．束ねれば曖昧性が明確になり，同時に，関連他事象も説明できます．

文化の分野における，私の現在の理論：「日本文化は重なり志向である」

「重なり志向」（Overlapping Principle）とは，例えば，日本文化の諸側面は,「2 つ, 2 度, 2 面，あるいは，その倍数，すなわち偶数個の重なりが原理として働いている」ということから説明できるとする考え方です．

具体例を挙げると，鏡餅は 2 つに重ね，神社では柏手を 2 度打ち，日本人は建前と本音の 2 面性があることを，日本文化が重なり志向である証拠として挙げることが可能です．

私の上記理論に関連する代表的論文（総論文数 95 のうち）

「数量詞を含む文における多義性の段階性と漠然性の関連 ---Three boys met two girls を中心に ---」（近畿大学総合社会学部紀要）第 3 巻 2 号（2014 年）

「『重なり志向』の日本文化」（言語文化学会論集）33 号（2009 年）

下　絵津子（言語教育）

研究テーマと主要論文等

研究分野は英語教育学・言語教育政策．主な研究領域は，学習者オートノミー・協働学習・教師ビリーフ・外国語教育政策．単著論文等に「日本の外国語教育史における「一外国語主義」の採用と結果」『英語教育の歴史に学び・現在を問い・未来を拓く―江利川春雄教授退職記念論集―』（2021），「教育調査会における学制改革案と外国語教育の方針」『外国語教育研究』第22号（2019），「明治期から大正期日本の高等学校入学試業と中学校の外国語教育：第一高等学校における変遷を中心に」*JALT Journal 41 (1)*（2019），「1898年全国中学校長会議―英語かドイツ語か―」『言語政策』第15号（2019），「なぜ外国語を学ぶのか―高等教育会議と明治期中学における外国語教育―」『言語政策』第14号（2018）など．*Critical, Constructive Assessment of CEFR-informed Language Teaching in Japan and Beyond*（ケンブリッジ大学出版）にCan Doフレームワークに基づいたカリキュラムに関する共著の章（2017）．『CEFRの理念と現実　理念編　言語政策からの考察』（くろしお出版）に共訳の章（2021）．著書『多言語教育に揺れる近代日本 「一外国語主義」浸透の歴史』（東信堂，2022）．

教師ビリーフに関連する研究に，「日本の大学の英語学習者に関する教師ビリーフ：英語母語話者・日本語母語話者の比較」（科学研究費：課題番号25770215）がある．関連論文のタイトルは以下の通り（掲載誌名は省略）：Teaching English as a foreign language in Japan: To divide or not to divide（2020）; Teachers' perceptions of their students' English abilities and attitudes towards learning English: A comparison of English L1 and Japanese L1 teachers（2018）; English teachers' perceptions of students' personalities and attitudes: Comparing English L1 and Japanese L1 teachers（2016）; Teachers' beliefs about English learners at universities in Japan: A review of previous research and findings from a pilot study（2014）.

好並　晶（中国映画研究・中国語教育）

1993年に愛媛大学法文学部文学科を卒業し，1993年から関西大学大学院文学研究科中国文学専攻博士前期・後期課程に所属，2004年度に博士学位（文学）を取得．学部時代に中国北京の中国人民大学に語学留学，大学院博士後期課程に北京大学に研究留学に赴く．

1993年より京都府立山城高等学校定時制にて中国語臨時教諭を四年間担当，1999年より松阪大学・関西学院大学・近畿大学・関西大学・立命館大学・大阪経済大学・天理大学など近畿エリアの大学で中国語学・中国現代文化史講義を非常勤講師として講じる．

2008年に近畿大学語学教育部に着任，2010年度に新設の総合社会学部に転属．2020年に総合社会学部教養・基礎教育部門教授，部門主任を担当．

専門研究領域は，中国映画史・中華語圏映画芸術．社会主義国家建設中の1950～60年代の喜劇映画研究で博士学位を取得．近年では中国映画だけではなく，日本80年代文化表象や，アニメーション考察などにも関心を向け，映像を中心に研究領域を拡げているところである．

研究業績（抜粋）

- 共著書籍『中国・台湾における日本像－映画・教科書・翻訳が伝える日本』（2011年東方書店）
- 単著論文「中国映画の〝食べる行為〟」（2007年　天理大学『中国文化研究』）
- 単著論文「〝自尽〟という名のメロドラマ―

中国映画『一江春水向東流』再釋」(2014 年『教養・外国語教育センター紀要(外国語編)』)
・単著論文「若者から見る中国のいま―ネット・マニア・青春映画－」(2017 年 『研究中国』)
・単著論文「東の間の文芸復興－喜劇映画問題討論の〝軌道〟」(2020 年 立命館大学『立命館文學』)
・単著論文「幻想・現実主義・飛翔場面―高畑勲作品読解試論―」(2016 年 近畿大学『渾沌』)
・共著報告「〝他者〟より前に〝我を見つめる〟」(2018 年 近畿大学『渾沌』)
・単著報告「いま,改めて〝生の感覚〟を取り戻すために―アニメーションを用いた教学実践―」(2021 年 近畿大学『渾沌』)

須賀井義教(韓国語学・韓国語教育)

研究テーマ

韓国語史・韓国語教育

学位

修士(言語学)

主要論文

스가이 요시노리 (2013)「자동 형태소 분석 기술을 이용한 한국어 읽기 보조 도구의 개발 - 일본어 모어화자를 위한 기능을 중심으로 -」(自動形態素解析技術を利用した韓国語読解補助ツールの開発―日本語母語話者のための機能を中心に―),『한국어교육』(韓国語教育) 第 24 巻 3 号, ソウル:国際韓国語教育学会, pp.139-159.

須賀井義教 (2017)「中期朝鮮語形態素解析用辞書の開発」, 須川英徳編『韓国・朝鮮史への新たな視座』, 東京:勉誠出版, pp.315-333.

須賀井義教 (2018)『改訂版 韓国語文法ドリル 初級から中級への 1000 題』, 東京:白水社, 総 175 ページ.

社会貢献活動

日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員会(第 1 段審査委員)

大喜祐太(ドイツ語学)

研究テーマ

言語学,とりわけ,現代ドイツ語を対象としたドイツ語学を専門とする。さらに,スイスで使用されているドイツ語と他のドイツ語圏のドイツ語の違いにも目を向け,小説『ハイジ』などのスイスの出版物の調査やスイスの地域研究にも広く関心を持っている。

学位

博士(人間・環境学)(京都大学)

主要論文

1. 大喜祐太, 2021,「独英存在構文の文体的特徴に関する一考察 －テクスト内の結束性に着目して」日本文体論学会『文体論研究』67, 41-51.
2. 大喜祐太, 2020,「ハイジのドイツ語 －そのスイス的要素を探る」井出万秀・川島隆(編)『シリーズ「ドイツ語が紡ぐ世界」ドイツ語と向き合う』ひつじ書房 , 217-239.
3. Daigi, Y., 2018, Lokalität, Faktizität, Angebot, Einführung: Verschiedene Aspekte der

deutschen Existenzaussage. 日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』50, 41-52.

4. 大喜祐太，2014,「ドイツ語圏スイスの標準語を決めるのは誰か －書きことばにおける文法的スイス語法の考察を中心に」京都大学大学院人間・環境学研究科『言語科学論集』20, 63-82.

社会貢献活動

2012年より，UZH Alumni Japan（スイス・チューリヒ大学同窓会日本支部）の代表を務め，在日スイス大使館，総領事館，スイス商工会議所等の援助を受け，スイス国内の各大学の同窓会代表と協力し，学術的・経済的国際交流に携わっている。

デラ　リチャード（比較国際教育 日本史）

研究テーマ

私の研究は比較国際教育に焦点を当てています．特に私はさまざまな国で高校教育と教師免許を研究しています．また，日本史の歴史の中で特に関西地方を研究しています．

学位

博士号（テンプル大学大学院　教育）

学術修士（ハーバード大学大学院　東アジア研究 日本史）

教育学修士（ボストンカレッジ大学院教育学研究科　中等教育）

主要論文

テンプル大学博士論文：*Teaching communities of practice, national trends, and a private Japanese high school*（教育実践コミュニティ，国家の趨勢，日本の私立高等学校）教員免許取得要件，人口動態，大学推薦入試システムの変化が，日本の私立高等学校の教師に与える影響を考察する論文.

ハーバード大学大学院修士論文：*Reinvesting human capital: The continuous social role of private academies from the Tokugawa Period to the Meiji Period*（人的資本の再投資：徳川時代から明治時代にかけて私立学校が果たし続けた社会的役割）徳川時代の懐徳堂，明治時代の同志社大学といった私立学校が，権利を剥奪された階級の一部が社会における自らの価値を見いだすことにどのように役立ったかについて考察する論文.

ボストンカレッジ大学院修士論文：*What happens when history is taught from a non-U.S. Perspective in an American classroom?*（米国での授業において，米国以外の視点から見た歴史教育を行った場合に何が起こるか？）日本と米国の歴史教科書から，同じトピックを説明するためにそれぞれ選ばれている図像について，およびそれらが本文の内容に対する生徒の認識にどのように影響するかを考察する論文.

受賞歴

ハーバード大学大学院2002年秋および2003年秋に，優秀指導賞（Certificate of Distinction in Teaching：セクション評価が5.0満点で平均4.5の教員に授与される）を受賞.

社会貢献活動

全国語学教育学会（JALT）の会員

アジア研究協会（AAS）の会員

比較および国際教育研究協会（CIES）の会員

ジャパンハーバードクラブ会員

西村香奈絵（言語学・英語学）

研究テーマ

私は，英語・フランス語・日本語を対象とした理論言語学の一分野である意味論を専門とし，英語教育に携わっています．人工知能の導入により，機械翻訳の精度が飛躍的に向上し，他言語を話す必要性はなくなるのか．英語教育に携わるものとして常に頭にある疑問です．もし文字通り知識を暗記して使うことに限るのであれば，不要となると言えるかもしれません．しかし，言語を学ぶということは，単に知識を覚え使えるに留まりません．例えば，英語と日本語のオノマトペの用法や起源を比較すると，日本語話者と英語話者とでものの捉え方が違っていることを具体的に教えてくれます．日本語では「ポツポツ（と）雨が降る」「そーっと歩く」などのように引用の「～と」とともに用いるか，あるいはそれを省略して用いる用法が擬音語や擬態語の基本用法です．しかし，英語では異なります．英語では，音や声を模して動詞や名詞ができ，それを拡張的に使用して間投詞的な用法がなされるという，逆の派生過程をたどります．日本語では，モノの出す音・声や，あるサマがあるがままに捉えられているのに対し，英語では音を出す主体や動作が言語化されるということです．私は，英語を中心として他言語と日本語を比較し，見えてくる違いを通して，母語話者にも意識されていない，体や心の一部になっているものの見方の違いを発見し，異なる考え方，精神文化を知り人間というものを考えたいと思っています．

学位・主要論文

学位

博士号（人間・環境学）

博士論文

「不定名詞句の意味論－英語・フランス語を対象とした多様な意味解釈の統一的分析」京都大学博士論文

松田紀子（応用言語学）

研究テーマ

私の研究分野は言語の獲得，習得や教育等を研究し，それを社会の様々な領域に応用していく応用言語学です．特に第二言語習得研究と英語教育が専門となります．母語ではない第二言語としての英語を学習者がどのように習得するのか，言語行動の分析から原理や規則を見つけようとしています．そして，その研究結果を踏まえ，より良い学びとは何かを考え，教育に生かすことが目標です．主な研究テーマは，第二言語習得における潜在記憶の役割に関する研究，外国語学習における視聴覚メディア教材の有効性に関する研究，および第二言語の語彙学習のメカニズムに関する研究です．

学位

博士（関西学院大学　言語コミュニケーション文化）

主要論文

Matsuda, N. (2017). *The role of implicit memory in second-language speech processing: Auditory priming in Japanese learners of English* [Unpublished doctoral dissertation]. Kwansei Gakuin University, Nishinomiya.

Matsuda, N. (2017). Evidence of the effects of text-to-speech synthetic speech to improve second language learning, *JACET Journal, 61*, 149–164.

受賞歴

2018 年 8 月 大学英語教育学会 大学英語教育学会賞（JACET 賞）論文部門 受賞

社会貢献活動

2021 年 05 月 - 現在　学術英語学会　代議員

2021 年 04 月 - 現在　大学英語教育学会（JACET）全国　運営委員

2020 年 04 月 - 現在　大学英語教育学会（JACET）関西支部　財務幹事

2019 年 04 月 - 現在　大学英語教育学会（JACET）全国　社員

2018 年 04 月 - 現在　外国語教育メディア学会 関西支部　運営委員

2019 年 04 月 - 2020 年 03 月　大学英語教育学会（JACET）関西支部　研究企画委員会 委員長

総合社会学部の将来構想

将来構想検討会議
―学部開設後はじめて議論された教育と研究環境の未来図―

大野司郎

1. はじめに

2010年度に開設された総合社会学部は，2013年度末に完成年度を迎えるにあたり，設置計画からそれまでの様々な教育運営上の歪みを是正するため，2015年度から新たな運営形態を検討することとなった。それが全教員会議（2013年4月）において問題提起され，小委員会として発足した将来構想検討会議（2014年6月～2015年11月計13回）である。議論の発端は完成年度以降のカリキュラムの見直しと人事計画であったが，3つの専攻の定員や業務負担のアンバランスな状況など問題解決の素案づくりと学部の将来計画を諮問されたものである。議論に参加できるメンバーは准教授・講師の有志（選任ではなく自由意思での参加）で，会議の運営方法は議長や議事録作成を持ち回りとしてリーダーを決めず，お互いに忌憚のない自由闊達な議論ののち一つ一つの問題解決を図るよう努力しようという形で議論が始まった。21世紀型の社会学系らしい会議スタイルである。会議では，前述の人事計画や専攻定員の平滑化を喫緊の課題としたが，まずは学部における研究環境・職場環境・教育指導環境など，ありとあらゆる問題や不満をブレーンストーミングによって洗い出し，それらをどういった時系列であらためていくかという素案をまとめることが全体の流れとなった。その最終案となったものが資料1である。これは，大学本部から開設当初に示された学部設置の理念を踏まえつつ，現場で学部運営にあたる全教員が述べた意見をまとめたもので，運営方針のトップダウンとなるケースが多い大学の中では非常に貴重なものといえる。

2. 学部開設時における学部運営の理想像と現実問題

開設当初に繰り返されたキーワードは，「少人数」と「融合（文理融合，複合，多様性や学際的などの言葉や概念を含む）」である．その表向きの背景や経緯は別稿に譲るとし，ここで強調したい部分は，私大の文系学部に多く見られる，マスプロ教育，自由の名の下の放任主義，教育・研究のどちらも個々の専門に特化したスタイル，改革に対して非常に保守的な組織姿勢，の4点をどのように打破していくかについて，未来志向の強い変革の意志を持った教職員で編成されていたことである。飾らない言葉を用いるとすれば，学部全体がその当時の近畿大学がマンモス大学として持っていた社会的なネガティブイメージを払拭しようとする気持ちで満ちていたと言えよう。そのため，日常業務の大半を教育活動（会議等を含む）に割くことや，自分たちの環境空間を全体利益のために譲ることなどが原点となった。また，一つのことを決める際にも議論を尽くすことやオーソライズしていくことなども学部全体の文化となった。例えば，これまで個々の専門性に基づく学部（組織）に所属し慣れ親しんだ慣習を是として主張し合うことが会議でもしばしば見られたが，議論をできるだけし尽くす姿勢で「総合社会

学部らしさ」が模索され一つ一つの方針が決められていった。名実ともに「総合社会学部」としての歩みを確かなものとしていく姿勢がそこにあった。

一方で，実際には教職員の内々なるフラストレーションも大きかった。「少人数」と「融合」の理念を具現化しようとする中では，見える部分として実質的に必要な時間や教育空間，見えない部分として肉体的・精神的な負担感など文字で表現できないものも多い。例えば，教員側では文系・理系出身の違いによって，教育指導にあたる学生数，様々な学生ケアに対する実働など全く異なる文化を持って折衷案を作ると，結果として互いに譲ることとなるため，どちらにもストレスとなる。顕著な部分には，少人数の目安(学生12名／教員)が理系出身教員にとって負担に感じる人数で，学生個々の自主性を重んじる文系出身教員にとって学生ケアは過保護に感じるものであった。また教員・学生の距離感が近く相談しやすい環境づくりとして設けられた（目の届きやすい距離としてゼミや講義を教員室あるいはその近隣で行う）施設空間は，講義間の休憩時間のたびに大きな騒音が生じるため，職場環境として大きなストレスとなった。こうした教員の不満や，相談のしやすさから生じるわずかな学生の要望は，問題解決にあたる事務職員の過大な負担となっていたことは想像に難くない。

こうして表向きには，近畿大学が人気を集める一因となった総合社会学部は，学内外から新しい取り組みの成功例として評価され，それは組織員にとって格別の喜びであったが，負の側面から見れば一般的な教職員がしなくてもいい様々な苦労や犠牲の上に成り立ったものでもある。

3. 完成年度における理想像の綻びと現実的解決策

学部設置から4年経過で第Ⅰ期の卒業生を輩出することで，学部は完成年度となる。この4年間は文科省から認可を受けた計画案（教員配置も定年延長等で固定）どおりに運営され，5年目以降の適切なタイミングで様々な問題点を洗い出し見直すこととなった。まず最も問題となったのが社会・マスメディア系専攻における学生数である。そこでは元々の定員が基礎教育部門（全学に跨る教養科目担当のため担当科目数等が多く他学部ではゼミ指導などを免除されている）の教員分を合わせた学生数であったため，［学生数／教員数］が他の2専攻と比べ多い状況をどのように是正するかが問題となった。先の少人数，融合の教育理念に沿って真面目に取り組めば取り組むほど，教員負担は過大となる。自らの研究や社会活動に要する時間を教育方面にシフトしてきたことが4年間続いており，その現実的な解決策が求められた。［学生数／教員数］の偏りを是正するには，当該専攻に割り当てる教員数を増やすか，当該専攻の学生数を他専攻に振り分けることが考えられる。解決策として，退職する教員ポストの割り当てや学生定員数の見直しなど抜本的な案，3年次以降のゼミ指導を他専攻に振り分けるなどテクニカルな案，卒業論文を必修とせず指導にあたる学生数を減らし実働時間として見直す案，それに加えてカリキュラム全体から教育負担を減らす案などが模索され，その他学部組織の見直しなど様々な提案も見られた。当初，本会議は穏やかに進められ，議論の中盤では学生定員のある程度の平滑化などで次善の解決を図ることも考えられたが，次第に様々な利害が対立し陰に陽に紛糾を極めていった。各専攻の教員数の増減は教育面・学部運営面などで教員・学生への直接的な影響があり，学生数の増減も実習・演習運営などに影響が生じる。一つ浮かび上がる変革案を議論していくと，徐々に少人数・融合の教育理念から外れ元の私大文系型の教育スタイルになる恐れが垣間見えた。最終的に将来構想検討会議の結論として，基礎教育部門の教員数名がゼミを担当することで［学生数／教員数］の偏りをわずかながら是正し，カリキュラムの抜本的見直しでこれまでの負担感を解決してい

くことが，全教員会議に報告された。

4. 学部教育・研究環境の未来図

10年経過して，時代の趨勢とともに教育プログラム上の理念が重視されるようになり，学部での取組みが社会全体の取組みになっていると感じることも多い。また近畿大学全体での様々な先陣を切ってきた，負担を顧みず“頑張ってきた”という学部全体の自負もある。その一方で，学部を将来担う若手という括りで編成された小委員会は，その若さ故の先鋭的な意見の対立や，委員会内外の調整や対立，あるいは表現そのものの齟齬などで，一部には傷つく教員もいたのも事実である。その深い傷跡は，職階や様々な立場を乗り越えて自由闊達な議論のうえに，学部の将来を深く真剣に議論したはじめての機会として刻まれている。そのような血生臭い現実と崇高な理念の葛藤に「総合社会学部らしさ」があると言えよう。最後に，下に示す資料1は，会議で課題と掲げられた，次の学部の未来へ申し送りをした最低限のものである。10年経過して我々自身が確認して見直して未来を見つめる自分達であり続ければ，きっと深い傷跡も未来への道標となるであろう。いまここに自らに問いかけたい。

【資料1】将来構想検討会議　議題項目一覧（2013/6/10 ～ 2014/11/10　計13回）

	短　期	中　期	長　期
研究環境	・業績評価の際の共著論文の扱いの規定（ポイント制の導入など）	・会議日の設定（研究日をとりやすいよう）	・教員の研究活動の活性化
	・紀要論文投稿の活性化とその評価の明確化 ・研究以外の社会的活動等への評価システム	・専攻間や領域間の研究交流 ・学部レベルで取り組む共同研究の予算獲得（学部内の研究助成金予算の割り当て等）	・アカデミックに魅力ある学部のアピール ・教員の研究－社会貢献の活性化 ・教職員の談話スペースの設置（意見交流ができるようなカジュアルな空間）
			・研究環境の整備 ・研究棟とゼミ棟を物理的に分ける ・スペースの確保（研究，実習，授業の　ため）
職場環境	・育児サポートシステムの充実（病児保育，休日出勤の臨時託児ルーム等） ・産休・育休・介護休を取りやすくするサポート		・教授の男女比率の適正化（特に管理職） ・透明性のある学部運営・学部づくり
	・学部組織，決定プロセスの明確化	・学部将来構想への若手教員の積極的参加	
	・対外業務の教員間でのバランス均衡化 ・非常勤の要件緩和 ・個人情報書類の定期処分		
教育・指導	・学部理念，専攻理念の意味づけ共有		・学部の中の専攻数，学科数 ・各専攻の定員 ・部門の位置づけ
	・学生利用のコピー機設置 ・院生の共同研究室，PC環境の整備 ・学生の福利厚生の向上 ・卒論作成への予算（コピー費用），SISの利用	・学生部会，研究会の立上げサポート（例，マスコミナビ，マスコミ研究会）	・学生の大学生活環境（勉学・活動）の充実 ・教室の数，大きさの拡充 ・図書室，資料室，自習室の充実
	・授業へのゲストスピーカー招聘への対応 ・学外授業への対応の柔軟性 ・受講生の多いクラスへのTA配置	・異なる分野の協働（コア科目のあり方等）	・魅力ある授業の展開
	・学生バイトによる授業支援 ・キャリア教育の充実	・インターンシップ単位認定 ・インターンシップの活用化 ・インターンシップ担当教員への増担手当（教員のボランティア的関わりの見直し） ・インターンシップの専攻間の共有化	

学部長期ビジョンの策定までの歩み

塩﨑麻里子・今西亜友美

1. 将来構想検討会議で話し合われた検討事項

学部長諮問会議として発足した将来構想検討会議では，各専攻・部門から准教授・講師の有志が集まり，学生，そして教職員にとってより良い学部環境となるために取り組んでいくべき課題が話し合われた。最終的に提案された検討課題は，教育・指導，研究環境，職場環境の 3 テーマに分かれ，さらに，解決に向けて取り組んでいくスパンによって短期・中期・長期に整理されている（大野，2022）。

これらのうち，短中期的課題は，関連委員会，主任等の多大なる尽力により，現時点で，改善，あるいは解決されたものが複数ある。例えば，教育・指導に関連する「学生部会・研究会の立ち上げサポート」については，学生主体で学びを深める団体を総社の公認団体として認める制度ができ，2019 年に“まちあるき実行委員会”がその第一号として活動をしている。活動のサポートとして，まちあるき事前視察の旅費補助が可能となっている。

研究環境に関連する「会議日の設定」は，教務委員会によって，研究日をとりやすいよう月曜日から水曜日に変更された（2018 年 4 月～）。

職場環境に関連するものとしては，「育児サポートシステムの充実」の働きかけが，全学的な支援システムの改善を促した実績がある。有志が，男女共同参画推進の観点から，教職員にとって働きやすい環境整備の必要性を本部に掛け合ったところ，オープンキャンパス等の休日出勤の際に，学内の一時託児ルームが 2016 年 9 月に試行的に開設されることとなり，現在に至るまで継続されている。この一時託児ルームは，2020 年のコロナ禍における緊急事態宣言下で各種学校機関が臨時休校措置となった際の出勤に際しても活用されている（2020 年 3 月～ 4 月）。また，「対外業務の教員間でのバランスの均衡化」に関しては，入試問題の点検の必要性から発足した入試対策委員会（2015 年 10 月～）に関しても，今後，透明性の高い，働きやすい環境づくりを担うことが期待されている。

2. 学部長期ビジョン委員会の発足

前節で述べてきたように，短中期的課題は，実際に解決に至っているものがある一方で，長期的な課題に取り組むには，まずは学部全体の理念や方針，構成の検討を行う必要があった。これらの検討を行い，学部内での位置づけをより明確化するために，教授も加わった新たな委員会として発足したのが学部長期ビジョン委員会である。

久委員長を中心に，各専攻・部門から委員（社マス；鈴木（伸），西尾，安達，心理；堀田，佐藤，塩﨑，環まち；藤田，田中，今西，部門；下，須賀井；敬称略，順不同）が出され，発足した。委員会の目的は，10 年後の学部の在り方を検討し，長期ビジョン案を作成すること，策定・共有された長期ビジョンの点検・評価を行うこと，自己点検・評価における理念・方針の見直しの役割を担うことの 3 本の柱が掲げられた。

3. 学部長期ビジョン策定の過程

2019 年 5 月に第 1 回委員会が開催され，将来構想検討会議がまとめた長期的な検討課題を整理し直し久委員長が作成した「総合社会学部将来ビジョン（素案）」を基に議論を行った。素案では，「未来に向けて挑戦し，つねに時代に対応した持続可能な学部をめざします」，「社会に向けて発信しつづける学部であり続けます」，「ビジョンを共有し，協働で学部を運営します」，「学部において男女共同参画社会の実現をめざします」の 4 つの柱が提

案された。これらの4つの柱に対して，全学的な方針との整合性を確認する必要があること，学生の教育に対する方針を追加する必要があること等の意見が出された。

教職員から素案に対する意見を聴取し，2019年7月に第2回委員会が開催された。まず，第1回委員会の意見を基に，教育の方針として「だれもが学び続けられる環境を整備します」が追加された。次に，意見聴取の結果，「学部において男女共同参画社会の実現をめざします」について，性別だけでなく，国籍，障がいの有無など多様性の観点を記述すべきという意見があったことが報告された。さらに，1つ目の柱である「未来に向けて挑戦し，つねに時代に対応した持続可能な学部をめざします」について議論が行われ，設立10年間の時代の変化や教育の成果を見直し，学部構成（一学科三専攻体制，教養・基礎教育部門の位置づけなど）や教育理念の変更の必要性について様々な意見が出された。

第3回委員会は2019年9月に開催された。まず，第2回委員会の意見を基に，「学部において男女共同参画社会の実現をめざします」と「だれもが学び続けられる環境を整備します」が統合され，4つ目の柱が「多様性を大切にした学部運営を行います」に変更された。次に，1つ目の柱に対する意見聴取の結果，「持続可能な学部（学部が残る）」という表現より，「持続可能な社会に対応して貢献できる人材を輩出する」の方が適切ではないかという意見が出された。さらに，2つ目の柱である「社会に向けて発信しつづける学部であり続けます」について議論が行われ，個々の教員の研究活動の活性化や学部の特徴を活かした学際的な研究促進のために，研究助手制度の導入，専攻横断型の科研費申請や図書の出版，コア科目の形式の変更，他専攻の卒論発表会への教員の参加などの提案がされた。

第4回委員会は2019年10月に開催され，3つ目の柱である「ビジョンを共有し，協働で学部を運営します」に関わる問題について議論が行われた。具体的には，各教員の意見をくみ取り，共有する仕組みづくりについてのアイデアや，合意形成と意思決定のプロセスの透明性と効率性のバランスをとる必要性，意思決定の権限（教授会・全教員会議）の明確化の必要性など多様な意見が出された。

第5回委員会は2019年11月に開催され，4つ目の柱である「多様性を大切にした学部運営を行います」に関わる問題について議論が行われた。具体的には，教職員の育児・介護サポートや教員のジェンダー・バランスと国籍差別問題，大学の働き方改革，障がいをもつ学生や資金面で不安がある学生へのサポートなど多様な課題が挙げられた。

第6回委員会は2019年12月に開催された。まず，これまでの意見を基に1つ目の柱が「多様化・複雑化する社会問題に総合力で対応し，持続可能な社会づくりをめざします」に変更された。次に，4つの柱について確認が行われ，ビジョン素案の文言やビジョンの実現に向けた課題などについて議論された。第7回委員会は2020年2月に開催され，ビジョン素案について各専攻・部門からの意見の確認が行われた。

第8回委員会は2020年3月に開催予定であったが，COVID-19の感染拡大によって延期となった。COVID-19の収束を待って対面での委員会開催を計画していたが，収束の兆しが見えず止むを得ず2021年7月にメール稟議を行い，同年8月に学部長へ「総合社会学部将来ビジョン — VISION for NEXT 10」（資料1）が答申として提出された。

4. これからの総合社会学部

ビジョンは策定することがゴールではない。上記の通り，学部長期ビジョン委員会ではビジョン実現方策のレベルでの議論も行っている。今後は，執行部によって示された方針に従い各種委員会が具体的な戦略を練って，全教職員でビジョンを実現させていく必要がある。さらに，ビジョンが達成されているか定期的に評価する仕組みを作り，時代に求められる総合社会学部であり続ける必要があろう。

文献

大野司郎，2022,「将来構想検討会議～学部開設後はじめて議論された教育と研究環境の未来図～」『近畿大学総合社会学部紀要 10 周年記念号』：129-131.

【資料 1】総合社会学部将来ビジョン — VISION for NEXT 10

多様化・複雑化する社会問題に総合力で対応し，持続可能な社会づくりをめざします

総合社会学部は，現代社会が直面する複雑な問題群を総合的に理解し，それらに対処し，社会を総合的にデザインするために 2010 年に設置されました。設立趣旨を受け継ぎつつ，時代の変化に柔軟に対応し，社会学，メディア，心理学，環境学，まちづくりを横断する総合力を活かして，人類の叡智や文化の伝統を受け継ぎ，新たな叡智も加えて未来を拓く学部でありたいと思います。

＊未来志向で実学志向の教育・研究を行います
＊多様で複雑な社会問題に対応できる専門性と総合性を併せ持つ人材を育成します
＊学際的な学部の特長を活かし，分野横断型の研究を促進します

社会に向けて発信しつづける学部であり続けます

総合社会学部の根幹をなす社会学，メディア，心理学，環境学，まちづくりはすべて，社会との応答が重要です。総合社会学部は今までも，教職員や学生の研究活動や社会貢献活動によって社会と対話してきましたが，これからも研究や活動によって社会に発信し続ける学部でありたいと思います。また，学際的な学部の特長を活かし，オール総社としての取り組みを充実したいと思います。

＊多様化・複雑化する社会問題に対し，学際的な研究体制で取り組みます
＊教職員・学生ともに活発に社会貢献活動を行います

ビジョンを共有し，協働で学部を運営します

21 世紀の新しい社会では，ビジョン共有型の協働活動が重要です。未来志向の総合社会学部だからこそ，みずからの学部運営も，教職員・学生全員が学部の理念や将来ビジョンを共有し，手をとりあって未来志向型の学部運営に臨みます。

＊透明性のある，開かれた学部運営を行います
＊協働の意識・姿勢をもって学部運営を行います
＊教職員の負担を軽減する効果的・効率的な学部運営を行います

多様性を大切にした学部運営を行います

性別や人種・国籍，障碍の有無などに関わらず，多様性を認めあえる社会が求められています。未来に向かってよりよい社会づくりを志向する学部だからこそ，多様性を認めあい，だれもが学びやすい，働きやすい環境を創り出し，多様性を活かした学部運営を行います。

＊だれもが学び・働き続けられるユニバーサルな環境づくりを行います
＊互いに思いやり，支えあえる学習コミュニティづくりを行います
＊年齢・性別・国籍等を考慮し，多様な人材による学部運営を行います

総合社会学部 10 周年記念シンポジウム
―私たちのこれまで，そして，未来へ―

10 周年記念事業委員会

10 周年記念事業

10 周年記念事業委員会では，①紀要特別号の発行，②特設ホームページサイトの開設，③記念シンポジウムの開催を 3 つの柱として，記念事業に取り組んできた．ここでは，2021（令和 3）年 10 月 23 日（土）に開催した「10 周年記念シンポジウム」を中心に報告する．シンポジウムは，コロナ禍の影響を受け，10 周年の年度である 2020 年度から 1 年延期し，また，感染拡大防止のための対策等を考慮したうえで，オンライン上での開催となった．

第 1 部のパネルディスカッションは，2017（平成 29）年にオープンしたアカデミックシアター内の実学ホールから YouTube にてライブ配信，第 2 部の在校生・卒業生との対談等は，動画を収録し，特設ホームページサイト（https://www.kindai.ac.jp/sociology/10th/）にて配信した．特設ホームページでは，第 1 部，第 2 部ともに，シンポジウム当日以降も録画が公開されている（公開期間は未定）．

なお，特設ホームページは学生の協力を得て作成され，シンポジウムに先立って 10 月 12 日に開設された．「枠にハマらず，興味のあることを自由に学べる…『知りたい放題！学びのビュッフェ』」をコンセプトに，3 専攻の魅力がお皿の料理として流れてくる．学生たちの感じる総合社会学部のコンセプトから生まれた合言葉が「ガママ！」―「自分のお皿に気になることを好きなだけのせて…わがままに，思うがままに，貪欲に学ぶ」と伝えている．

シンポジウムのプログラム

＜第 1 部＞

一．細井美彦学長からの挨拶
二．開会の挨拶　鈴木伸太郎学部長
三．プログラムおよびシンポジウムについてのアンケートのご案内
四．荒巻 裕 近畿大学名誉教授（初代学部長）からのメッセージ代読
五．歴代学部長によるパネルディスカッション

登壇者
清島秀樹 近畿大学名誉教授（2 代目学部長）
横山隆晴 近畿大学客員教授（3 代目学部長）
鈴木伸太郎 教授（4 代目学部長）
司会　金井啓子教授

＜第 2 部＞

①インターンシップ『自分らしさの発見―暮らし・食・農・旅がもたらすもの』
登壇者：＜卒業生＞
青山昌也さん（環境系　2010 年度入学）
花立智司さん（環境系　2010 年度入学）
林 瑠衣子さん（環境系　2010 年度入学）
林 絵梨奈さん（環境系　2013 年度入学）
司会：金井啓子教授

②「私を動かす〝心の若さ〟―2 期生金東右×語学教員好並晶　学生時代といまを語らう―」
登壇者：
金 東右さん
（社会・マスメディア系専攻，2011 年度入学）
司会：好並 晶教授

③「わたしの原点―MBS 記者・宇治宮汐梨さんからのビデオレター」
宇治宮汐梨さん
（社会・マスメディア系専攻，2014 年度入学）

④「卒業生と在校生が語る総合社会学部」
登壇者：
＜卒業生＞
隅谷拓也さん
（社会・マスメディア系専攻，2010 年度入学）
岡村 翼さん
（心理系専攻，2013 年度入学）
松谷一輝さん
（環境系専攻，2013 年度入学）
＜在校生＞
堀内菜摘さん
（社会・マスメディア系専攻，2018 年度入学）
柴田 希さん
（心理系専攻，2018 年度入学）
片桐綾香さん
（環境・まちづくり系専攻，2018 年度入学）
司会：藤田 香教授
企画補佐：金井啓子教授，本岡寛子教授

第 1 部　歴代学部長パネルディスカッション「学部創設から現在までの歩みと未来に向けて」

最初に，荒巻裕初代学部長からのメッセージを司会の金井教授が読みあげた．荒巻先生は，かねてから療養中であったが，ご病気のため，10 月 14 日に逝去された．本記念号にも，初代学部長当時を語る原稿をご寄稿くださり（15 頁参照），パネルディスカッションにもメッセージをいただいていた．シンポジウムでは，

荒巻先生のご冥福をお祈りし，笑顔で様子を見守っていてくださっているという思いを胸に，パネルディスカッションが進行した．

出発点：新しい学部では新しい世界を

「近畿大学のなかにあって最も近畿大学らしい学部」として，近畿大学のよさを体現してきた総合社会学部（鈴木）．学部開設の準備に関わったときの思いを清島先生が語った．スマートフォンが世の中に出始めた 2008 ～ 2009 年頃，「スマホが世界を変える」という実感から「新しい学部では新しい世界，それを研究する人間，あるいはその世界で動いていける人間を育てようじゃないか」という思いで準備に当たった．また，大学全体では，総合社会学部は新しい試みを行う「実験学部」となり，“新しいことは総社から”と，出欠管理システムの導入などの IT 充実化の試みが先駆的に実施される学部となったという．

総合社会学部にはどんな学生さんが集まっている？

オンライン授業などは日本の大学でほとんど実施されていなかった 2010 年当時．清島先生は，授業でもスマホを活用されていた．スマホからの学生の質問をリアルタイムでスピーディにスマートに受け付ける清島先生の画期的な新しいスタイルの授業を，学生とともに聴講したという横山先生は，総合社会学部の学生の印象を「のびしろ 100％」と語った．非常に素直でまっすぐな，そして謙虚さを備えた学生たちが大学生活を通して大きく成長して社会に出ていく．「現場を見ろ」という思いから「スマホを捨てろ」と学生に伝えていたが，本当に捨てた

学生がいた．その学生は新聞記者になったという．

スマホの重要性に着目する教員とスマホを捨てろという教員―真逆のことを言っているが，物事には全否定・全肯定があるわけではなく，学生がどう捉えるかが大切である．学生への選択肢が増えていること，多様性（ダイバーシティ）と自由があることが重要であると，横山先生は強調された．

とっちらかった魅力～様々な分野・背景の教師陣

のびしろ 100％の学生に対して，総合社会学部にはのびしろを伸ばせる教員がいる（清島）．鈴木先生は，「いい意味でそろわない教員」が，学生の思いを大事にしながら教育に携わっていると指摘した．この 10 年の間に教員の入れ替わりがかなりあったが，教員の多様性は継続的に維持されている．何をやったらいいか分からないという学生たちは，実は時代の要請に応えており，分からないから学ぼうという学生が自然体で取り組める学部が総合社会学部である（鈴木）．

パネリストは物理学から社会学に転向された鈴木先生，インド古典哲学の清島先生，メディアの世界から大学に来られた横山先生．いろいろな教員がいるから学生のよさに気づけるのであり（清島），「とっちらかった魅力」が「おもちゃ箱」，「宝石箱」となっている（横山）．学生が学びたいことが分かった時に，それを受け入れられる教員がいる．様々な専門分野の教員がひとつの学部に集まっているというのは，日本のほかの大学には見られない特徴である（清島）．

未来へのビジョン，これからの総合社会学部へ

最後に，学部の未来を語った．長期ビジョン委員会が現学部長に答申した「学部将来ビジョン」（134 頁参照）にも触れ，鈴木先生が強調されたのは，物事を俯瞰することの大切さ，「総合力で」「引いた形で」見ること，カメラで言えば「広角レンズ」の使用である．美術の世界に例えるなら，ひとつの絵にクローズアップしてそれだけを見るというのではなく，その絵を他の作品と比較してみる，分野全体や背景を知るということだと説明し，精神の柔軟性を大切にして，思い通りに行かない事態―逆境―を手掛かりに成長してほしいと語った．

学部長在任中にコロナ禍への突入を経験した横山先生，現在も対応に追われる鈴木先生と司会者の金井教授の間に，「チャンスとして活かす」「ピンチの連続」といった言葉も交わされ，また，新聞・放送局などのマスメディアに人材を輩出したこれまでの学部の実績に，清島先生の指摘を通して触れながら，人や社会のために何をやらなければならないのかを考えることや（横山・鈴木），自分で決めていくこと，選択していくことの大切さが（横山），未来へのメッセージとして聴衆に届けられた．

（写真　好並 晶；文責　下 絵津子）

第２部　卒業生と在校生からのメッセージ

第２部では，卒業生と在校生が，これまでの総合社会学部の学びとこれからの総合社会学部について語った．概要は以下の通り．

インターンシップ『自分らしさの発見―暮らし・食・農・旅がもたらすもの』

2010 年度からの４年間，カリキュラムに組み込まれていた『自分らしさの発見―暮らし・食・農・旅がもたらすもの』と題するインターンシップ．講師は，客員教授だった女優・ライフコーディネーターの浜美枝さんである．

受講生は，農業，食，少子高齢化，原発事故，地域社会など多様なテーマに関するドキュメンタリーを鑑賞して文章を書き，語り合ったほか，三重県の答志島や福井県のおおい町でフィールドワークを体験した．

その受講生の中から生まれたのが，おおい町を拠点とする農業サークル『近大農園』（後に『やまぼうし農園』と改称）であり，その活動は後輩たちに今も受け継がれている．

この座談会で卒業生４人が語ったのは，受講を決めた理由，浜美枝さんから受けた影響，インターンシップでの印象深い出来事だけにとどまらず，総合社会学部に在学することで何を学んだか，それを卒業後にどう生かしているのかといったことにまで話は広がった．

（文責　金井啓子）

「私を動かす〝心の若さ〟―2 期生金東右×語学教員好並晶　学生時代といまを語らう―」

【自己紹介】2015 年３月に総合社会学部を卒業した韓国留学生．帰国して兵役に就いた後，東京の腕時計修理専門学校に学ぶ．現在,「スフィア パテックフィリップ　ブティック東京」にて営業職に就いている．

【腕時計への思い】故・荒巻裕元学部長の授業で〝物事を深く考える〟練習を繰り返した．私は〝時間とお金〟について考えるようになり，それを具象するものが腕時計だと思うに至った．今まで如何なる遍歴を経て，今後どうなるのかについて興味を持ち，卒業論文も腕時計をテーマに執筆，現在の仕事へ繋がる契機となった．

【〝若さ〟について】大学生時代は旺盛に学ぶ若さを謳歌していたと思うが，若さには〝身体の若さ〟と〝こころの若さ〟がある．こころが若くないと気持が凝り固まり柔軟に動けない．自らをよりアクティブにするため，常に〝こころの若さ〟を保てているかを確認しながら，今も生活をしている．

【外国語学習】私は当時の課程にあった「中国語専修履修」を選び，好並先生の下で中国語を学んだ．また，英語やスペイン語も当時の「語学センター」無料講座で学んだ．私にとって益のある点は，将来的に多くの使用機会のある外国語を，日本語を通して学べたことだ．外国語を習得すると同時に，自分の日本語スキルも磨ける点が，私にとり大きな利点であった．

【学生時代といま】総合社会学部では好い学びができたと思い返している．四年間のタイムリミットを如何に生きるか，何に注力するかを考え実践した．社会に出ると，このタイムリミットは無くなる．そして，現実問題として，学生時代に好きだった物事を生業にすることは難し

い．私も腕時計が好きだが，営業職が好きなわけではなかった．ではこの仕事でどうモチベーションを保つか．それはその仕事に対して自分なりの〝価値づけ〟をすることだ．お客は時計を買うが，営業職の私はお客の〝こころ〟を買う．この考え方で，私は商品に対しても，またお客の嗜好に対しても関心を拡げ深められるようになった．

【豊かに生きること】学生時代，興味のあるテーマや必要と感じる知識について，私は深く掘り下げて思考するよう心掛けた．しかし，周囲の学生たちが「これくらいでいいや」と思考を止めるのをよく目にした．私には留学期間や留学費用などの〝制限〟があったので，知識を得ることに対するある種の〝飢え渇き〟を持って動いた．これがあってこそ，自分に発展や変化があったのだと自負している．現代日本ではこの発想に至りにくいかもしれないが，この〝飢え渇き〟を持って踏み出せば，後になりその日々が〝豊か〟なものに見えるだろう．

（文責　好並 晶）

「わたしの原点―MBS 記者・宇治宮汐梨さんからのビデオレター」

私は 2018 年に社会・マスメディア系専攻を卒業し，現在毎日放送京都支局に報道記者として勤務している．コロナ対策，事件から総選挙まで幅広く扱い，取材・原稿書き・現地報道まで一手に引き受けている．入学前は TV バラエティ志望だったが，総合社会学部のマスメディア専攻の先生方の，現場でこそ知ることのできるお話を聞き，私の考えは次第に変わっていった．私の人生を決定づけたのは，授業で数多鑑賞したドキュメンタリー番組だった．葛藤しながら生き続ける若者の姿，戦争に翻弄された世代の人々のことば，今まさに世界で起こっていることなど，映像が訴えてくるメッセージに，私は如何にものごとが分かっていないかを痛感した．それを機に，キャンパスの外に飛び出て，出会う人々に勇気を出して話し掛けることで，半径 1m の事しか見ていなかった自分の視野が確実に広がっていった．「閉じこもってなくて，外に出ろ」と言われる指導教官のお言葉が私を変えて下さった．そして，自分も映像を通して人々に世の中を知って貰いたい，誰かにエールを送りたい，という願望が強くなり，報道記者の道を進むことに決めた．先生が，授業が，私の生き方にヒントを与えてくれた．総合社会学部には掲示板や研究室前のチラシなど，様々な場所にヒントが転がっている．アンテナを張って，このヒントを拾い込んで，外に出て，色んな人に出会って欲しい．その経験が，必ずや将来にとって大きな原動力となるだろう．

先生方，学生たちの背中を押し続けて下さい．学生の皆さん，これからの活躍を期待します．

（文責　好並 晶）

「卒業生と在校生が語る総合社会学部」

ここでは「わたしたちのこれまで，そして，未来へ」をテーマに，卒業生が語る 10 年の歩みを振り返り，卒業生と在学生に総合社会学部がこれからの社会のなかで果たすべき役割や総合社会学部の未来について語っていただいた．参加者 9 名は各専攻の卒業生 3 名（隅谷拓也氏，岡村翼氏，松谷一輝氏）と在校生 3 名（堀内菜摘氏，柴田希氏，片桐綾香氏）ならびに教員 3 名（金井啓子氏，本岡寛子氏，藤田香）であった．

最初に参加者から近況を含めた自己紹介をしていただいた．続いて 3 つのテーマに沿って議論をすすめた．テーマ 1 では卒業生に「なぜ総合社会学部を選んだのか」「総合社会学部で何を学び，この学びをどのように活かしているのか」について話をうかがった．次にテーマ 2 では在校生に「なぜ総合社会学部を選んだのか」「心に残る，授業やゼミでのエピソード」や「大学生活で何を大切にしているのか」「コロナ禍における大学生活の工夫」など，現在の総合社会学部での生活について話をうかがった．テーマ 3 では「学生のうちに身につけておく力とは何か」について在校生から卒業生に質問していただく形式で総合討論を行った．最後に参

加者に「次の 10 年，20 年後により素晴らしい学部にするためのメッセージ」「総合社会学部に期待すること」「今後の抱負」について話をうかがった．終始，和やかな雰囲気で笑顔と話が尽きることはなかった．

（文責　藤田 香）

教員からの寄稿

教育の機会を削がないために
―第二外国語雑感―

教養・基礎教育部門　主任　好並　晶

あの時は面食らった．2010年度創立予定の総合社会学部に，外国語教員の組織であった〝語学教育部〟からの転属を依頼された私を含む三名の第二外国語教員は，ある日の夜に召集され，総合社会学部のカリキュラムの説明を受けた．「第二外国語は一年次には配当されておらず，二年次からの学習となります」．語学教育部設立の際に，本学は「英語に強い大学」を旗標とし，大幅な英語科目増を進めた．一年次に週二回開講されていた独・仏・中・韓の第二外国語はその煽りを受け，週一回の選択履修扱いを余儀なくされた．新設の総合社会学部には，その最後の砦さえ設定されていなかった．

総合社会学部が開設されて二年，漸く二年次生に第二外国語を教えられるようになる．需要が見込まれる中国語と韓国語のみ〝専修履修〟枠があり，週に三回授業が開講できた．授業を多く運営でき，また履修学生と近しくなるのは嬉しくもあったが，三年次後期からの就職活動とバッティングし，実質一年半しか語学教育が進められないのは大きな痛手だった．やはり一年次の一コマ奪回が急務，と切実に思った．

そのうち，完成年度以降のカリキュラム改訂の話が浮上してきた．〝新新カリキュラム委員会〟という珍妙な名の学部内委員会に，私は与した．私は自称〝紙芝居〟という時間割資料を繰りながら，第二外国語を一年次に下ろす意義を力説した．紆余曲折ののち，本学部開設六年目に漸く第二外国語の一年次開講が実現した．単に，本学で最も標準的な語学カリキュラムに戻しただけの話であるが，総合社会学部内で隅に追い遣られた第二外国語陣営にとっては〝大勝利〟だった．無論これは私個人の功績によるものではない．肥大化した英語カリキュラムを履修した学生たちの反応が決して理想的ではなかった事実，各曜日に展開した英語授業のために，ゼミ系科目設置時限が制限される教員側からの不服など，多くの要素が関係しており，結果それらが第二外国語カリキュラム“正常化”の後押しをしてくれたのだ．

思い出深いのは，ある学生のことばだ．「他の学部では一年生で第二外国語を履修できるのに，なんでこの学部では取れないんですか？」．私個人，第二外国語を学ぶことは大学生の特権だと思っていた．じじつ私は，大学で初めて中国語に触れ，人生の転機を得た者である．初々しい一年次生が英語以外の言語に触れるのは，大学として必須のものだ．週二回の開講が定着度で言えば理想的だが，週一回でも，それが好いフックとなって「もっとやってみたい」と言い出す学生が必ず現れてくるのだから，これが正当なあり方だ．第二外国語を学ぶ機会を，学生たちから削ぎ取ってはならない．

嘗て，英語科と第二外国語科は不仲であった．否，今でもそのような雰囲気は他学部でも残っている．本学部でも第二外国語を排斥する英語至上主義の時期があった．しかし，今はそんな時代ではない．英語圏，特にアメリカの世界的地位は揺らぎ，それに肩を並べようとする中国が経済的優位を披瀝する，まさに米中冷戦構造の様相だ．大国主義，覇権主義が大手を振っている情勢のなかで，やれ英語だ第二だ，

と小さな諍いを起こしている場合ではない．外国語教員が共に，学生に語学を教えるという意味や意義を改めて考える時が来ているのだ．部門主任に任ぜられて以降，私が意識しているのは英語科と第二外国語科の教員の声を掬いあげ，相互の連携を保っていくことだ．組織である以上至極当然であるこの〝連携〟が，今までの部門にはほぼ無かった．私の力など微々たるものだが，小さな点を拾い集め〝連携の線〟へと紡いでいけるなら，と願っている．

環境まちづくり系専攻と他大学との違い

環境・まちづくり系専攻　石原　肇

はじめに

2020年4月1日に筆者は近畿大学に着任し，その2日後に新型コロナウイル感染防止の観点から門は閉ざされ，右往左往する毎日が始まった．近畿大学の全学的なシステムを十分理解できていない中，同年9月から教務委員を拝命し，田中晃代先生や内海秀樹先生にサポートをしていただきながら務めている．このような筆者が務められているのも，環境・まちづく系専攻のカリキュラムが学生にわかりやすいシンプルなものだからのように思える．

他大学の環境系学部・学科との比較

進学情報サイトで近畿地方にある大学で環境を学ぶことができる学部・学科を検索すると20数大学におよぶ（表1）．しかし，そのほとんどが理学部・工学部・農学部等の理系学部であり，文系学部はごくわずかしかない．また，文系学部でみられたとしても学部・学科では必ずしも「環境」を冠したものではなく，文学部地理学科，社会学部社会学科といった既存の学問領域の中で環境が扱われているようである．環境・まちづく系専攻のように，文系学部でありながら専攻名に「環境」を冠したものは他大学ではないのではなかろうか．名は体を表すではないが，学生が環境を学ぶ上でこの専攻名はカリキュラムに具現化されてきており（内海他，2022），また，不断からの改善に努めてきている（田中，2022）．くわえて，理系学部では，専門分野が細分化されがちであるが，環境・まちづく系専攻では，環境とまちづくりを一緒に学ぶことができる．環境とまちづくりは，一見全く異なるもののように思われがちである．しかし，環境とまちづくりは表裏一体であるというのが，専攻教員の共通認識であると思われる．自身の周り全てが環境として考えられる．当然のことながら自身が暮らすまちや働く地域も環境の一部と捉えられる．自身が暮らすまちや働く地域をより良くしたいと考えることはまちづくりを考えることに他ならない．つまり環境を考えることもまちづくりを考えることも一緒ということになる．

環境・まちづくり系専攻のカリキュラムの特徴からみた強み

筆者は，近畿大学に着任する前に，別の大学の環境を冠する学科に属していた．その前任校に着任した際は文系学部の文理融合型教育を行っていた．しかし，その後，組織再編により理系学部の環境を冠する学科に組織替えし，新学科の中に4コースを設け，学生は3年次にいずれかのコースに属すこととなった．理系学部になったがゆえに学生はそのコースの科目を中心に学ぶことになる．環境・まちづく系専攻と前任校の所属学科では，反対方向の進展をしてきたといえる．両組織に身を置いた経験から，文系学部において環境やまちづくりについての教育は，その対象範囲が極めて広範であることから，文理融合型で進め，多様な科目を学生が自身の関心に応じて履修できるカリキュラムを提供することが不可欠であると考える．環境・まちづく系専攻には文系志望で環境やまちづくりを学びたい学生にとって，環境やまちづくりを総合的に学べるカリキュラムが用意されているといえよう．このことが入学定員の規模が大きい専攻でありながら，比較的離学者が少なく，学生が自身の学びの志向に合わせた学修を進めることができることをもたらしているものと推察される．

おわりに

筆者は，大学教員になる以前は地方公務員と

して 25 年間，地域の環境等に関する職務に従事してきた．環境・まちづく系専攻のディプロマ・ポリシーでは，地域や社会で起こっている問題事象を的確に把握し，解決への提案ができる力等を身につけるとしている．講義や演習，ゼミでの指導を通じて上記の力を学生に身につけさせることで，他大学と異なる環境・まちづく系専攻の特色のより一層の強みとしていきたいと考える．

表 1　進学情報サイトでの「環境」を学べる大学の検索結果

リクルート	マイナビ
龍谷大学農学部	大阪産業大学
長浜バイオ大学バイオサイエンス学部	京都先端科学大学
吉備国際大学農学部	京都産業大学
関西学院大学生命環境学部	大和大学
摂南大学農学部	大阪芸術大学
大阪産業大学デザイン工学部	神戸女学院大学
京都産業大学理学部・生命科学部	近畿大学
甲南大学フロンティアサイエンス学部	関西学院大学
関西大学環境都市工学部・化学生命工学部	同志社大学
奈良大学文学部（地理学科）	神戸学院大学
神戸女学院大学人間科学部（環境・バイオサインス学科）	関西大学
立命館大学理工学部	立命館大学
関西国際大学社会学部社会学科	摂南大学
大阪電気通信大学工学部環境科学科	奈良大学
滋賀県立大学環境科学部	龍谷大学
神戸学院大学人文学部人文学科	長浜バイオ大学
京都先端科学大学バイオ環境学部	
大阪樟蔭女子大学学芸学部ライフプランニング学科	
滋賀大学教育学部・データサイエンス学部	
神戸大学国際人間科学部	

資料：リクルートおよびマイナビの進学サイトでの検索結果から引用

文献

内海秀樹・田中晃代・石原肇，2022,「環境・まちづくり系専攻カリキュラムの変遷」『近畿大学総合社会学部紀要 10 周年記念号』：41-44.

田中晃代，2022,「改訂カリキュラムに向けての専攻 FD の意義と役割」『近畿大学総合社会学部紀要 10 周年記念号』：145-147.

マイナビ「関西エリアの環境学が学べる私立大学の学校検索結果」https://shingaku.mynavi.jp/zenkoku/search/dt/?a=6&ctd1=9&sc=12&s=60（最終閲覧日：2021 年 10 月 30 日）

リクルート「環境科学を学べる大学・短期大学（短大）の一覧 [近畿]」https://shingakunet.com/searchList/ksl_daitan/gl_kd010/gs_k1020/area_kansai/?af=2（最終閲覧日：2021 年 10 月 30 日）

改訂カリキュラムに向けての専攻 FD の意義と役割

環境・まちづくり系専攻　田中晃代

はじめに

2010 年の学部設立から振り返ってみると，専攻名は「環境系専攻」と称し，「地球環境」と「都市まちづくり」にコースが分かれていた．しかし，本来，「環境」と「都市まちづくり」は，教員の研究・教育においても明確に線を引けるものではなく，2015 年度カリキュラム以降は，コースの垣根を取り払い，専攻名称を「環境・まちづくり系専攻」と称し，新たな専攻づくりを目指しカリキュラム改訂がおこなわれた．環境問題を考える際「Think Globally, Act Locally」という言葉があるように，まちづくり分野においても，総合的な地域づくりを目指し，アクションを起こすことの重要性を説いている．

したがって，学生指導という点においても，地球環境分野を専門とする教員は，「まちづくり分野」を意識しつつ指導し，まちづくり分野を専門とする教員においても，「環境分野」を意識しつつ指導している．専攻が「環境分野」と「まちづくり分野」の垣根を取り払い，新たな専攻づくりを目指すにあたって重要なことは，教員間の意思疎通であった．現状のカリキュラムについて,「講義の振り返り」「改善点」「今後の見通し」等について，膝を突き合わせ議論する「場」を設けなければ，教員が教えたい科目を教えるなどで専攻のカリキュラム全体における整合性が取れなくなってしまうと危惧されるからである．

また，そうした分野間の相互乗り入れを可能にしたのは，環境・まちづくり系専攻の専攻運営の１つである教務委員の任期である．教務委員は，２年を任期として，２名体制で選出され，教務委員会に属される．１年目は，もう一人の教員から教務の現状や課題を引き継ぎ，２年目は，新たに任命された教員に教務の現状や課題を引き渡す．教員がそれぞれ職位に関係なく専攻内教員が教務を経験することで，学部全体のカリキュラムや専攻カリキュラムの今後を意識する良い機会ととらえる．

2022 年度カリキュラム改訂にむけて

2015 年度カリキュラムにおいても，専攻の教員が，講義内容を報告し，改善点や新たな視点を議論する専攻 Faculty Development（以下 FD と称す）を実施してきたが，2022 年度カリキュラム改訂に向けた専攻 FD は，新任教員２名が加わり，新体制のなかで実施された．2015 年度カリキュラム改訂に向けた今までの専攻 FD は，丸一日を使用し集中的に FD をおこなってきた．そのため，長時間集中して議論することによる疲労感もあり，今回は，前期の講義が終了した 2021 年 7 月 29 日，7 月 30 日，8 月 2 日の 3 日間のいずれも 9 時 30 分から 12 時 30 分までとした．各教員 3 名から 4 名ずつの発表及び議論とした．議論する内容は①現在までの講義の振り返り，②専攻の教育ビジョンや目指すべき人材像との関係，③講義の改善点や今後の見通し，④新たな科目設定の提案とし，発表スタイルは各教員に委ねた．

また，今回の専攻 FD が今までの FD と大きく異なる点は，コロナ禍による議論のしかたが対面からリモートに変わったことである．対面の良さは，カリキュラム以外の話についても話題が広がったことにあった．一方，リモートの良さは，カリキュラムの中身について集中的に議論できたことにある．さらに，こうした議論を録画し，後に各教員に動画配信した．送信のしかたもデータ容量の上限が小さいメールではなく，データ容量の上限が大きい slack を活用した．議論の過程をアーカイブとして保存し，各教員が繰り返し見直すことが可能となった．

また，議論の過程を動画で記録することによって，今後，新たに採用される新任教員にも，議論の過程を理解してもらうことが可能となった．カリキュラム改訂は，現教員だけで共有するものではなく，これから採用される教員のことも意識しつつ共有されるべきものと考えるからである．

現カリキュラムの課題と新たな展開

この 3 日間の専攻 FD での議論で，共通する項目が議論されていることがわかってきた．それらを，下記の表にまとめている（表）．一つは，社会現象を体系化し，論理化する能力をいかに学生に身に付けてもらうかという点である．このことについて，濱田は「科学とは自然現象あるいは社会現象の中に一定の規則性を見出し，その原因を探り出し，法則としてまとめること」としている．また，そのためには,「実際に観察（実験）した結果に基づき（実証性），誰もが認める論証を積み重ねる（論理性）ことが必要である.」としている[文献)]．そのためには，統計的処理の方法をしっかり教える講義が必要であるとしている．

さらに，専攻 FD 前半の「他科目を意識しつつ，専攻カリキュラム全体の調整をはかる」という発言は，まさに次期カリキュラム改訂を念頭に置いた発言であるといえる．どの科目をどう調整するのかについては，専攻 FD 後半で「人の意思決定システムのなかには，動植物や将来の子ども等物言わぬ生物は漏れてしまうことを理解してもらう必要がある」とする発言から,「自然現象を取り扱う科目（自然科学)」と「社会現象をとり扱う科目（社会科学)」との講義内容の調整が必要であることが明らかとなった．

学生に身に付けてほしい能力の 1 つとして,「単なる事例紹介にとどめず，1 つ 1 つの事例を全体でどのように位置づけるか，メタ認知（自分を客観視する能力）・骨格・構造を理解してもらう必要がある」という発言があったが，こうした能力は，問題解決能力や目標達成能力にも連動する重要な能力であるといえる．この問題解決能力や目標達成能力については，専攻のディプロマポリシーの 7「地域や社会で起こっている問題事象を的確に把握し，解決への提案ができる力を身に付けます.」に関係するといえる．また，上述した自然現象や社会現象を理解するためには，統計的な手法を活用すること，数理モデルを理解することも大切で，文系の学生に数学を教えるための技術開発も必要になってくる．以上のように，専攻 FD は，常に専攻ディプロマ―ポリシーと関連付けてカリキュラム改訂をおこなうことの重要性を共有する良い機会としてとらえることができる．

まとめ

各科目が「どのような内容で，どのように講義されてきたのか」「どのような人材を育てるのか」について，専攻 FD で各教員が報告を重ねることで，全体のカリキュラムのあり方や目指すべき方向が共有できたのではないかと考える．次の段階は，全体のカリキュラムと各教員の希望との調整であるが，コンフリクトを避ける意味でも，こうした専攻 FD を重ねていき，共通認識を育む必要があるといえる．担当者の得意分野でカリキュラムを考えるのではなく，専攻として何を教えるべきかがあって，その次に誰がその科目を教えるのかという順序を忘れてはならない．

文献

濱田嘉昭，2011,「科学的探究の方法」放送大学教育振興会，p.15.

表　現カリキュラムの課題

日時	現カリキュラムの課題
7月29日(木) 9:30～	●人に着目して経済・社会を見ていく必要がある ・単なる事例紹介にとどめず，1つ1つの事例を全体でどのように位置づけるか，メタ認知（自分を客観視する能力）・骨格・構造を理解してもらう必要がある ●保険制度と税制度の根本的な違い（使い分け，特徴）を理解してもらい，制度設計の際にどう活用できるのかといった財政的な講義が必要ではないか ・事象，価値意識，個人の行動範囲等を体系化・論理化する力を養う ●ディプロマポリシーと学生とのギャップをどう埋め込むか ●人，地域，社会のあり様を解明する ●他科目と重複する部分は調整が必要である ・多くの事象，知識に共通した概念や方向性を明示する ●演習という科目表現よりデータサイエンスという名称のほうが望ましい ・情報量が多いと学生が咀嚼できるのか ●統計的処理の方法を学生に指導するための講義をする ●現象を単純に数理モデルにできる能力が必要である ●自然現象や生物の行動の様子から天気の変化を予測する観天望気を教えてはどうか
7月30日(金) 9:30～	●要点を絞って物事を体系化する能力を養う ・モノの流れを数量化し見える化するために，官公庁の統計資料や白書を活用するよう促す ・グラフの使い分け，データの加工の仕方，統計データの試行錯誤のなかで気づきを促す ・数学，物理，政治経済など抽象度が高いもの（曖昧模糊としたものの確実性）を理解しもらうための工夫がいる ・見せ方や解説の仕方は留意する（誘導の仕方を工夫する） ・まちづくりはイベント実施だけではないことを伝える ・まちづくりは文化的活動であることを示すとともに，類型化していくための道筋を伝える ・まちの不動産屋として「まちの価値を重視し地域密着型の仕事をする」ことの重要性を説く ●まちが動くためには，「制度」「運動」「社会環境」「組織運営」の4つの分野を組み合わせて考える能力が必要である ・具体的なことから，抽象的なことへと講義を展開するなど，難しいという印象を抱かせない工夫は必要である ・成功モデルを教えるのではない ・複雑な社会構造を2軸に整理するなどして，わかりやすく説明する必要がある ・学生さんには，いっきに教えてしまうと混乱を招く ●汎用的なことを1で教えて，そこから，2，3と個別的なところを深めていくと良い
8月2日（月） 9:30～	・地図を使うことの意味を教えてほしい．こういう研究の時は，このようにGISを使うということを理解してもらう ・歴史が未来につながっていることを理解してもらう ●人が存在する限りは，生態系にダメージを与えてしまい，環境にやさしいや森林を保全することは現実的には難しい．人間のエゴではない考え方をいかに養ってもらうかが鍵である． ●人の意思決定システムのなかには，動植物や将来の子ども等物言わぬ生物は漏れてしまうことを理解してもらう必要がある ●開発（まちづくり分野）は，自然破壊でなく，地域の発展であるという考えを伝えていく ・ビジネススキルを持っている人がコミュニティマインドを養っていけばまちづくりはおもしろい展開ができる ・各回でつながりを意識するような語りをする（リンク先を貼り付けるイメージ） ・成績上位の学生の解答を，それ以外の学生に見せて理解を深める工夫をする ・法律などのツールを使う意義が身についていない ・学説を知って組み合わせることで，学びが深まるのではないか．また，学説が形作られる経緯を説明することで理解が深まる

●：次期カリキュラム改定につながると思われる発言

専攻の次の 10 年について
―初期の担当科目と委員活動を振り返って―

環境・まちづくり系専攻　内海秀樹

はじめに

然るべき立場に”ない”小生が，専攻の次の 10 年について記すのは大胆と受けとめられる読者もいらっしゃると思う．このような方たちには，然るべき立場に”ない”が故に気楽に執筆していることをまずはお伝えしておきたい．

本稿は，個人的な経験に基づく内容で，やや雑駁な部分もあり論考としては恐縮であるが，10 周年特別号という節目に記録として残すことを有意義と考え，ここに記すものである．

この 10 年間を経て，本稿で，特に振り返っておくこととして，初期の担当科目と委員活動を選びこれらから考えたところを述べる．

初期の担当科目

翌春からの着任について内諾を受けてから，最初の会議の際，事前に説明を受けていた科目の他にも担当する科目が少なからずあることに，まず，驚いたことをよく記憶している．

こちらで選択していたものを含め，年間のコマ数は分担も合わせると 18 コマ[1] あり，個人的には経験がないコマ数であった．拝命を受けた科目は文系と理系と幅広く，かつ，内容に重複がなく異なる専門性が求められるものであった[2]．前任での幅広い指導形式を評価されたと理解したが，こちらとしては小講座制故の対応という面も，少なからずあり実力以上の評価を受けたと感じ，準備に多くの時間を割くことになった．

前任は理系の研究科に籍を置いていた為，文系の学生を指導することは初めての経験であったことや，体系的には教えたことがない内容の科目もあり，着任前は判断材料がなく授業の水準をいかほどにすればよいのか，定まらないまま準備を進めた．しかし，着任して 1 年次配当科目の「基礎ゼミ」や「環境学概論 A」を実施する中で見いだした答えは，それまでに準備した教材を捨てて総入れ替えすることであった．

担当予定の科目数の割には 3 年次配当科目が前後期で 7 科目と大半を占め，3 年生からはじまる研究室配属を決める段階では，学生が小生の専門性等を十分理解できる状況ではなかった．更に当初 2 年間は担当コマ数が少なく，諸般の事情で 2 年目から通年で最低 3 コマは担当しなければならない為，加えて法学部に 1 コマ出講することになった．

設立当初と異なり現在は上級生が在籍するため，このような事態の大半は生じない．しかし，カリキュラム編成には，専任教員の専門性では網羅できない環境としては教養となりつつある科目の担当教員や，負担の平準化，研究時間の確保等，学生ファーストの上に教員の側も余裕をもてるような設計で学生の学力の底上げを狙うことも重要と感じた．

委員活動

学部内委員

学部の委員としては，予算委員を平成 22 年度から平成 24 年度，FD・自己点検評価委員を平成 22 年度，教務委員を平成 25 年度から平成 27 年度前期および令和 2 年度後期から現在，カリキュラム検討委員を平成 25 年度から平成

1）うち 4 コマは卒業論文指導のためのボランタリー精神を求められた科目

2）共通する科目を除いて「環境倫理学」,「環境マネージメント」,「環境リスク論」,「社会調査実習」,「意思決定支援技法」,「複雑系の科学」．最初の 4 つは名称を変えて現在も継続．

26 年度前期，学生支援委員を平成 27 年度後期から平成 28 年度前期，入試対策委員を平成 27 年度後期から平成 30 年度前期，人権・ハラスメント対策委員を平成 27 年度後期から平成 30 年度前期，インターンシップ・キャリア支援委員を平成 30 年度前期から令和 2 年度前期，研究倫理審査委員を平成 30 年後期から令和 2 年度前期まで，それぞれ務めている．

当初に比べ年々，手続き等が整備されていると 1 人の教員として実感はある．何もない状態からの出発であり，この 10 年は手続きや仕組み等，運営を通じて定めていく段階であった．今後は，限られた教職員の中で委員の分担や役割を取捨選択，再編しながらの運営がなされるであろうが，活動を効果的に行う，あるいは振り返るためにデータの活用を視野に入れる段階に差しかかっていると考えられる．現在は，UNIPA によりデータが集められており，更なる活用の余地はあると思われる．マイステップ等，データ取得の仕組みもあり，カリキュラムの一環として位置づけに際し検討が続けられるべきだろう．

専攻内委員

専攻の委員としては，卒業論文発表会の管理運営にあたる卒業論文委員を平成 26 年度後期から平成 27 年度前期，平成 29 年度後期から平成 30 年度前期，その後，同目的の卒業論文ワーキンググループを平成 30 年度後期から令和 3 年度前期まで務めた．

卒業論文委員は，当初は委員 1 名体制で行われていたが，業務内容の多様化や肥大化への対応や，教員側の卒業論文発表会の運営経験を共有する機会と捉えて，ワーキンググループ制の 4 名体制となった．この後，ワーキンググループでは，分担を容易にするため業務の細分化や手順の明文化，卒業論文の評価についての目安を制定，ワーキンググループ外の専攻教員との連携強化のため，業務内容の共有とオンライン対応等を行った．

これらの結果，現在は，研究室に居ながらにして，専攻内のいずれの研究室の学生の卒業論文も読むことができるようになった．特に個人的に強く感じたのは，卒業論文の水準は研究室によらず幅があることを共有できた点だと思われる．これは，カリキュラムの改善によって学力の底上げを図るという共通認識のひとつとなったのではないだろうか．

おわりに

以上，初期の担当科目と委員活動について振り返り，専攻としての見解とは関係なく，一教員として個人的に考えるところを述べた．最後になるが，学部の先生方や学生センター（旧事務部）の皆様方の理解に助けられた部分も少なくなくこの場を借りて感謝申し上げたい．学生および教職員にとって夢や希望にあふれ，実り多く，そして学部長期ビジョンにあるような次の 10 年になることを祈り，気を引き締めて向き合いたいと思う．

編集後記

これを書いている 2 月下旬，校正原稿もほぼ戻り，ようやくこの記念号の編集も終わりが見えてきた．いくら計画を練っても，原稿が集まらなければ，こういった記念号は成立しない．何はともあれ，資料を集め，原稿を書いてくださった教職員や卒業生の皆様に心よりお礼を申し上げたい．

集まった原稿をパラパラと読みながら，学部に対する思い，教育や研究に対する思いがそれぞれの人たちで違っていることを改めて認識した．私自身は，2017 年に着任してからの 2 年間ほどはかなり散々な目に遭ったので，学部の様子をどちらかと言えば冷ややかに見てきた．だから，10 周年記念号の作成に中心的に関わることになった当初は，正直なところ，自分はあまり適任ではないと思い，気乗りがしなかった．しかし，集まった原稿を拝読しながら，これまでのさまざまなことがらの経緯を知るようになり，自分の不満にはそれなりに理由があるという気づきを得ることができた．その意味で，こういった一見形式主義的で無味乾燥に思える 10 周年記念号にも意味はあるように思えてきた．私には，歴代学部長たちのような現状追認の明るい気分にはなれないが，どのような立ち位置にいたとしても，本号が，それぞれの反省すべきところを見出し，個々の改善や全体の改革につなげていくためのきっかけになればよいと思う．まだ，たかだか 10 年．守るべき「伝統」などというようなものはなさそうだし，そんななさそうなものをでっち上げる必要もないだろう．思考停止せず，これから先どうするかを不断に考えていくことが必要であると思う．

（辻）

拡大紀要委員会委員

辻 竜平，遠藤 信貴，今西亜友美，デラ リチャード，

岡本 健，山本 良二，塩﨑麻里子，大野 司郎，好並 晶

石田 純一，柴田 麻衣

近畿大学総合社会学部紀要　10 周年記念号　2022 年

2022 年 3 月 31 日　印刷
2022 年 3 月 31 日　発行

編集・発行　近畿大学総合社会学部
〒 577－8502　東大阪市小若江 3 丁目 4 番 1 号
（06）4307－3062
印　刷　　近畿大学管理部用度課（出版印刷）

Kindai Applied Sociology Review

近畿大学
KINDAI UNIVERSITY

ISSN 2186-6260

総社る

SOCIAL

近畿大学総合社会学部紀要
Kindai Applied Sociology Review

2022. 3

10周年記念号